

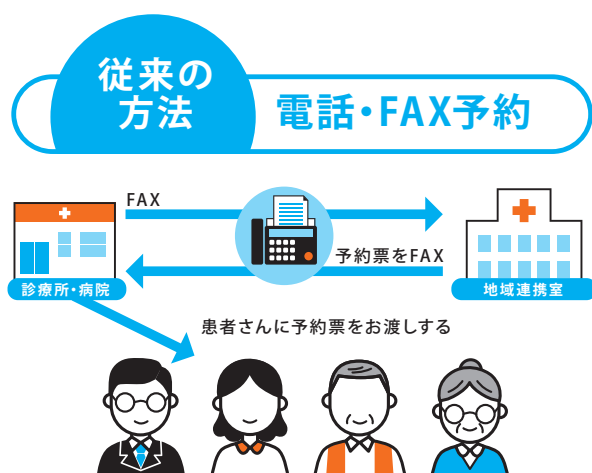
2024

京都府立医科大学附属病院

UNIVERSITY HOSPITAL KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

診療のご案内





WEB予約システムのメリット

- 1 24時間365日 予約取得可能** (携帯からの予約取得不可)
 - 2 予約取得時間の短縮** ▶ 紹介元医療機関で予約票が発行可
 - 3 予約空き情報が可視化できる** ▶ 予約空き状況の問合せ確認不要
- ※今までどおりFAXでのご予約も可能です。



お問い合わせ先

京都第一赤十字病院 (075) 533-1280

京都第二赤十字病院 (075) 212-6186

京都府立医科大学附属病院 (080) 4416-5067



目 次

1 病院概要	5	歯 科	78
・ 沿 革		移植・一般外科	80
・ 組織等		漢方外来	81
・ 統計、指定医療機関等		感染症科	82
		リハビリテーション科	83
		認知症疾患医療センター	84
2 患者サポートセンターのご案内	15		
・ 初診患者さんの診療予約について		4 中央部門のご案内	85
・ がんセカンドオピニオン外来		医療安全推進部	86
・ 診療科別の専門外来と診療内容一覧		感染対策部	87
		臨床工学部	88
3 診療部のご案内	21	医療情報部／診療情報管理室	89
総合診療科	23	患者サポートセンター	90
消化器内科	24	循環器病総合支援センター・脳卒中相談窓口	91
循環器内科	26	移行期医療支援センター	92
腎臓内科	28	周産期診療部	93
呼吸器内科	30	中央手術部	94
内分泌・糖尿病・代謝内科	32	集中治療部	95
血液内科	34	リハビリテーション部	96
膠原病・リウマチ・アレルギー科	36	内視鏡・超音波診療部	97
脳神経内科	38	臨床検査部	98
消化器外科	40	病院病理部／病理診断科	99
心臓血管外科	42	輸血・細胞医療部	100
呼吸器外科	44	臓器移植医療部	101
内分泌・乳腺外科	46	放射線部	102
形成外科	48	血液浄化部	103
脳神経外科	50	がん薬物療法部	104
整形外科	52	緩和ケアセンター	105
産婦人科	54	疼痛緩和医療部	106
眼 科	56	遺伝子診療部・遺伝相談室	107
皮 膚 科	58	救命救急センター	108
泌尿器科	60	救急医療部／救急医療科	109
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	62	看護部	110
精神科・心療内科	64	薬剤部	111
放射線科	66	栄養管理部	112
麻酔科（術前外来）	68	臨床治験センター	113
疼痛・緩和ケア科	70	卒後臨床研修センター	114
小 児 科	72	がん・生殖医療センター	115
小児外科	74	臨床研究推進センター	116
小児心臓血管外科	76	がんゲノム医療センター	117



表紙写真提供：大坪 由美子

コメント：鴨川の東岸からさくら越しに見える病院

入院中の不安な気持ちを和らげる春の風景です。

診療のご案内2024 の発刊に当たって

京都府立医科大学附属病院
病院長 佐和 貞治



京都府立医科大学は、明治5年に京都療病院として設立されて以来、2022年には創立150周年を迎え、次の50年先の医療の未来を見据えながら病院の理念「世界トップレベルの医療を地域へ」のもと、日々、高度で安全、安心な医療の提供に努めております。さて、2020年春以来、ほぼ4年間に渡って続いてきました新型コロナウイルス感染症パンデミックは、現在も未だ完全には収束しておりません。しかしながら、京都府の第一種感染症指定医療機関としての役割を維持しながら、2024年4月以後はようやくパンデミック以前の診療状況にほぼ戻って医療の提供が行えるようになってきました。34の診療科、ならびに中央手術部・集中治療部をはじめとする31の中央部門を擁し、「都道府県がん診療連携拠点病院」、「小児がん拠点病院」、「総合周産期母子医療センター」等の指定を受け、「永守記念最先端がん治療研究センター」での陽子線治療を提供しています。1,600人を超えるスタッフが、様々な領域で高度で先進的な医療に携わり、地域の皆様の健康を支える体制を整えています。昨年度には、老朽化した中央手術室の一部を改装・拡張し、ロボット手術専用手術台や可動式CTスキャン装置の導入を行い、ロボット支援手術やナビゲーション手術などのより先進的な手術の導入推進に対応できるように準備を進めました。

2024年4月には、京都府から「救命救急センター」の指定を受け、新たに三次救急病院としてスタートしており、救急車搬送経由の患者さんの受け入れ体制の整備を一層、推進していく所存です。また、本年6月の診療報酬改定に合わせて、より一層に病病・病診連携が重要となるため、新たに地域連携や入退院に関わる機能を統合した「患者サポートセンター」を開設し、さらに地域医療連携の機能や患者さんの入退院サービスの充実を図っています。

加えまして本年4月からは、いよいよ国が法整備のもとで推進する「医師の働き方改革」が始まりました。高度で先進的な医療を提供できる体制を構築する一方で、医師の過重労働を防ぎ、健康に働き続けることのできる環境で、医療事故を防止して安心・安全な医療を提供し続けられるよう心がけております。各診療科、各部門の緊密な連携体制の下、職員一同一丸となって府民の皆様の健康と命を守る砦として、その役割を全うして参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

令和6年6月

【理 念】

世界トップレベルの医療を地域へ

【基本方針】

- ・ 高度で安全、患者さんにとって安心な医療の提供に努めます
- ・ 患者さんの権利を尊重し、患者さん主体の医療を行います
- ・ すべてのスタッフは互いに連携し、チーム医療を進めます
- ・ 新しい医療を開発するとともに、未来を担う医療人を育成します
- ・ 京都府における基幹病院として、地域医療に貢献します

【患者さんの権利】

- ・ 個人の人権が尊重され、年齢、性別、信条、障がいの有無などに関わらず、平等に良質な医療を受けることができます
- ・ わかりやすい言葉や方法で、十分な説明を受けることができます
- ・ 十分な説明を受けた上で、自らの意思で治療方法等を決定することができます
- ・ 医療に関する個人情報やプライバシーは、保護されます
- ・ 診療録等に記録された自己の診療内容について、情報提供を受けることができます
- ・ セカンドオピニオン（他の医療機関等の意見）を希望される場合は、紹介を受けることができます

【小児患者さんの権利】

- ・ 個人の人権が尊重され、多職種が関わる良質な医療を平等に受けることができます
- ・ 個々の発達段階、理解力に応じた方法で説明を受けることができます
- ・ 意思決定に際して、小児患者さん自身の最善の利益が尊重されます
- ・ 治療方針や研究の参加の決定において、意見が尊重されます
- ・ 発達段階、症状、体調に応じた遊び、レクリエーション、教育を受ける機会があり、そのための設備・環境を提供されます
- ・ 医療に関する個人情報やプライバシーは保護されます
- ・ 医療を受けながら、できるだけ家族と過ごせるように配慮を受けることができます

【患者さんへのお願い】

- ・ ご自身の体調に関する情報は、できる限り正確にお伝えください
- ・ 説明を受けられて御理解できない場合は、納得できるまでお聞きください
- ・ 治療上必要な指示や助言は、お守りください
- ・ 病状の変化や治療中に生じた問題については、速やかにお知らせください
- ・ 他の患者さんの権利を尊重し、迷惑となるような行為は行わないでください
- ・ 大学病院の使命である教育・研究に、御理解と御協力をお願いします

京都府立医科大学附属病院職業倫理に関する方針

私たちは、本院の「理念」、「基本方針」及び「患者さんの権利」を尊重し、患者さんにとって最善の利益のために職業倫理に則り行動いたします。

- 1 医療に携わることの尊厳とその責任の重さを自覚し、教養を深め、品性、人格を高めるよう努めます。
- 2 患者さんの生命と尊厳、人権を尊重し、良心をもって最善で公平な医療を提供します。
- 3 医療におけるあらゆる場面で細心の注意を払い、科学的根拠に基づいた高度で安全、患者さんにとって安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんのプライバシーを尊重し、職務上の守秘義務を遵守します。
- 5 医療チームとして、互いに尊重し協力し、より質の高い医療を提供します。
- 6 京都府の基幹病院としての責任を果たすとともに、医療を通じて、地域社会に貢献します。
- 7 患者さんの生命と尊厳、人権を尊重し、人格・教養を持ち、使命感を持った未来を担う医療人の育成に努めます。

京都府立医科大学附属病院臨床倫理に関する方針

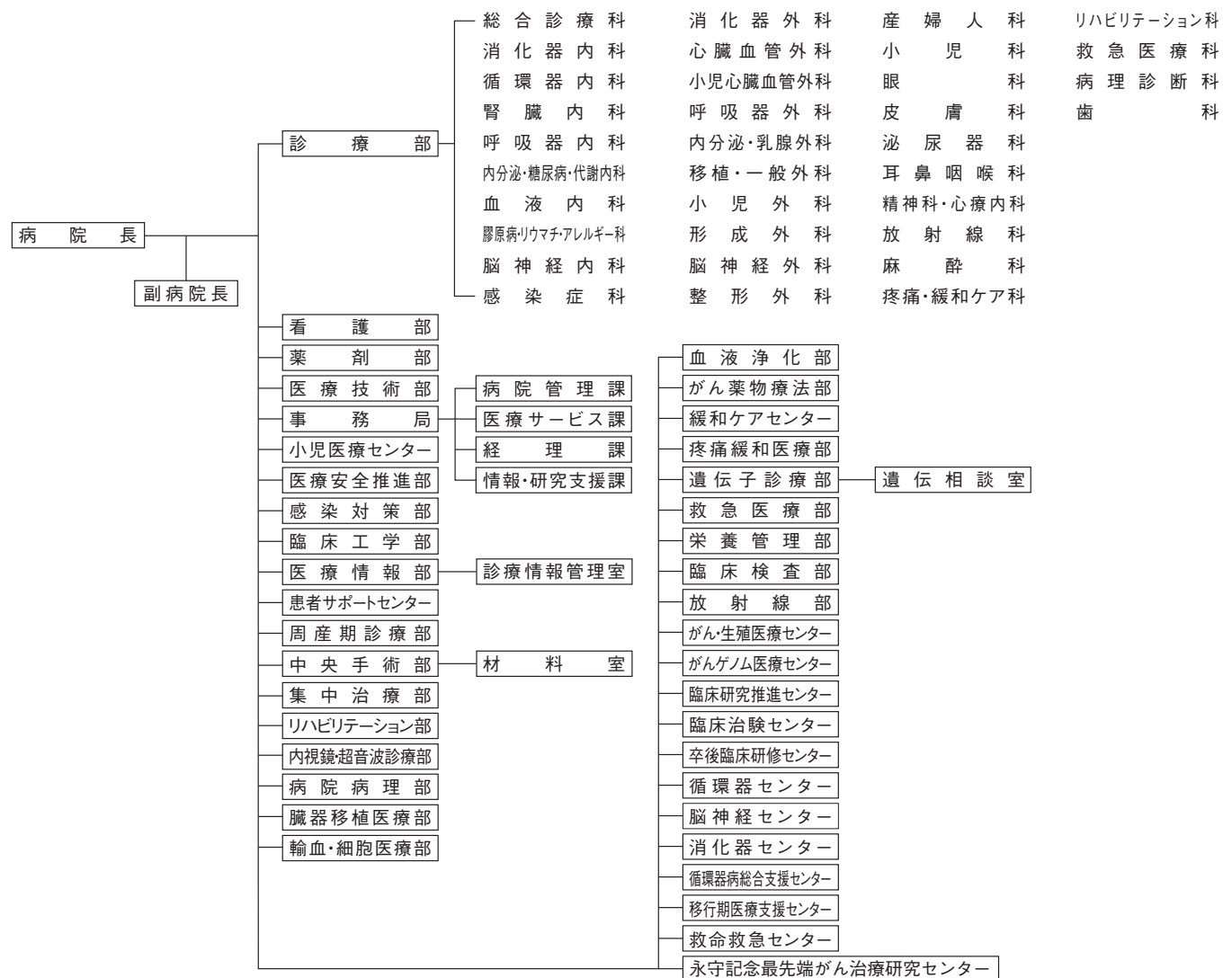
京都府立医科大学附属病院職員は、「理念」、「基本方針」及び「患者さんの権利」に基づき、患者さんの尊厳と人権を尊重し、職業倫理と臨床倫理に従って、患者さん主体の良質な医療を提供します。

- 1 関係法規を遵守し、診療を行います。
- 2 病態、予後（終末期医療など含む）、患者さんの QOL や生活背景、人格の尊厳を考慮した上で、患者さんにとって最善で最適と考えられる診療方針を提案します。
- 3 患者さんの自律的な意思決定を尊重し、十分な説明を行い患者さんに理解と同意を得た上で診療方針を決定します。
- 4 患者さんについて知り得たすべての情報について、守秘義務を遵守し、個人情報の保護に努めます。
- 5 臓器移植や尊厳死などの倫理的な判断を要する事柄については、臨床倫理委員会等において、外部の専門委員を含む様々な職種により審議し方針を決定します。
- 6 教育研究機関として大学病院で行う臨床研究については、厚生労働大臣認定の臨床研究審査委員会や医学倫理審査委員会などで審議し施行します。

【沿革】

明治 5 年	仮療病院設置（粟田口青蓮院内）
明治13年	療病院 現在地へ移転
大正10年	大学令により京都府立医科大学となる
昭和36年度	外来診療棟完成
昭和42年度	北病棟完成
昭和46年度	臨床医学学舎完成
昭和47年度	創立100周年
昭和57年度	中央診療施設・A棟完成
〃	附属小児疾患研究施設〔京都府こども病院〕完成
昭和60年度	病棟第1期工事完成（C・D棟）
平成元年度	病棟第2期工事完成（B棟）
平成2年度	附属脳・血管系老化研究センターの設置
平成8年度	特定機能病院の承認
平成11年度	診療ディビジョン実施〔外科：9月、内科：12月〕
平成13年度	オーダーリングシステム稼働
平成14年度	地域医療連携室の開設
平成16年度	病院の理念・基本方針を明確化
平成17年度	地域医療推進部の設置
〃	（財）日本医療機能評価機構の認定
平成18年度	都道府県がん診療連携拠点病院の指定
平成19年度	病院総合医療情報システム稼働
平成20年度	京都府公立大学法人設立
〃	外来診療棟等（第1期）工事完成
平成21年度	第1種感染症指定医療機関の指定
〃	地域医療連携システム稼働
平成23年度	外来診療棟工事完成
平成24年度	患者図書室「ほほえみ」の設置
〃	小児がん拠点病院の指定
〃	入退院センターの設置
平成25年度	附属北部医療センターの設置（元京都府立与謝野の海病院）
〃	新病院総合医療情報システム稼働
〃	緩和ケア病棟の開設
平成27年度	緩和ケアセンターの設置
〃	災害拠点病院の指定
平成28年度	原子力災害拠点病院の指定
平成30年度	母体・胎児集中治療室（MFICU）開設
〃	がんゲノム医療連携病院の指定
令和元年度	がんゲノム医療センターの設置
〃	陽子線治療の開始
令和2年度	循環器センターの開設
令和3年度	脳神経センターの開設
〃	総合周産期母子医療センターの指定
令和4年度	消化器センターの開設
令和5年度	EICUの開設
令和6年度	救命救急センターの指定
〃	患者サポートセンターの開設

【附属病院組織図】



【病院長及び副病院長等】

職 名	氏 名	現所属名	職 名	連絡先
病 院 長	佐 和 貞 治			075-251-5230(病院長室)
副 病 院 長	高 山 浩 一	呼吸器内科	教授	075-251-5513(医局)
副 病 院 長	井 上 匡 美	呼吸器外科	教授	075-251-5392(教授室)
副 病 院 長	福 井 道 明	内分泌・糖尿病・代謝内科	教授	075-251-5503(教授室)
副 病 院 長	藤 本 早和子	看護部	看護部長	075-251-5280(看護部長室)
薬 剤 部 長	小 阪 直 史	薬剤部		
医療技術部長	中 田 克 哉	放射線技術課		
副局長(事務部長)	松 本 浩 成	事務局		075-251-5231
病院管理課長	山 口 健 司	事務局		075-251-5232
医療サービス課長	辻 田 比佐子	事務局		075-251-5245
経 理 課 長	木 森 優	事務局		075-251-5218
情報・研究支援課長	岡 下 武 生	事務局		075-251-5207

【患者数】

年度	年間外来患者数		年間診療 実 日 数	年 間 入 院 患 者 数		
	延患者数	新患者数		延患者数	新入院数	退院数（うち死亡数）
令和 5 年度	462,852人	30,711人	243日	181,975人	15,246人	15,255人（245人）
令和 4 年度	472,316人	30,807人	243日	167,193人	14,104人	14,122人（229人）
令和 3 年度	472,209人	30,434人	242日	172,154人	13,853人	13,875人（214人）

【令和 5 年度診療科別外来患者数関係指標】

診療科	初診患者数	延べ患者数	1日平均患者数
総合診療科	503人	2,075人	8.5人
消化器内科	1,372人	41,153人	169.4人
循環器内科	1,378人	18,242人	75.1人
腎臓内科	369人	9,750人	40.1人
呼吸器内科	455人	11,780人	48.5人
内分泌・糖尿病・代謝内科	1,078人	18,550人	76.3人
血液内科	307人	11,674人	48.0人
膠原病・リウマチ・アレルギー科	300人	16,180人	66.6人
脳神経内科	663人	13,004人	53.5人
感染症科	229人	570人	2.3人
消化器外科	288人	11,246人	46.3人
心臓血管外科	215人	4,142人	17.0人
呼吸器外科	138人	3,919人	16.1人
内分泌・乳腺外科	349人	9,134人	37.6人
移植・一般外科	11人	1,761人	7.2人
形成外科	288人	4,475人	18.4人
脳神経外科	481人	6,091人	25.1人
整形外科	1,616人	28,098人	115.6人
産婦人科	850人	19,541人	80.4人
眼科	4,846人	44,877人	184.7人
皮膚科	1,991人	25,605人	105.4人
泌尿器科	1,180人	24,726人	101.8人
耳鼻咽喉科	1,895人	21,689人	89.3人
精神科・心療内科	660人	13,548人	55.8人
放射線科	631人	19,012人	78.2人
麻酔科	1,493人	4,706人	19.4人
歯科	3,866人	41,324人	170.1人
リハビリテーション科	42人	1,830人	7.5人
漢方外来	4人	673人	2.8人
救急医療科	1,183人	1,731人	7.1人

診療科	初診患者数	延べ患者数	1日平均患者数
疼痛・緩和ケア科	509人	9,431人	38.8人
小児外科	402人	4,803人	19.8人
小児心臓血管外科	25人	348人	1.4人
小児科	1,094人	17,164人	70.6人
合計	30,711人	462,852人	1,904.7人

【令和5年度診療科別入院患者数関係指標】

診療科	新規患者数	延べ患者数	1日平均患者数
総合診療科	14人	227人	0.6人
消化器内科	1,709人	13,947人	38.1人
循環器内科	1,563人	13,227人	36.1人
腎臓内科	349人	3,614人	9.9人
呼吸器内科	636人	6,889人	18.8人
内分泌・糖尿病・代謝内科	79人	773人	2.1人
血液内科	542人	10,730人	29.3人
膠原病・リウマチ・アレルギー科	152人	3,256人	8.9人
脳神経内科	271人	6,133人	16.8人
感染症科	5人	79人	0.2人
消化器外科	709人	12,898人	35.2人
心臓血管外科	259人	4,916人	13.4人
呼吸器外科	301人	3,837人	10.5人
内分泌・乳腺外科	252人	2,197人	6.0人
移植・一般外科	2人	361人	1.0人
形成外科	162人	1,979人	5.4人
脳神経外科	412人	7,825人	21.4人
整形外科	985人	15,808人	43.2人
産婦人科	1,100人	10,197人	27.9人
NICU	206人	5,584人	15.2人
眼科	1,673人	8,809人	24.1人
皮膚科	408人	4,742人	13.0人
泌尿器科	769人	6,570人	18.0人
耳鼻咽喉科	630人	7,356人	20.1人
精神科・心療内科	72人	4,316人	11.8人
放射線科	33人	106人	0.3人
麻酔科（疼痛）	12人	82人	0.2人
歯科	218人	1,098人	3.0人
リハビリテーション科	42人	672人	1.8人
救急医療科	116人	849人	2.3人

診療科	新規患者数	延べ患者数	1日平均患者数
疼痛・緩和ケア科	23人	2,024人	5.5人
小児外科	511人	3,795人	10.4人
小児心臓血管外科	87人	2,728人	7.5人
小児科	944人	14,351人	39.2人
合計	15,246人	181,975人	497.2人

【令和5年度年齢階級別入院患者数】

年齢	0～1	2～4	5～9	10～14	15～18	19～20	21～30	31～40
入院患者数	682人	464人	502人	379人	227人	121人	595人	811人

年齢	41～50	51～60	61～64	65～69	70～74	75～79	80～	合計
入院患者数	1,107人	1,624人	901人	1,279人	1,899人	2,021人	2,634人	15,246人

【令和5年度地域別入院患者数】

地 域	入院患者数
京都市	9,736人
福知山市	194人
舞鶴市	188人
綾部市	86人
宇治市	521人
宮津市	33人
亀岡市	472人
城陽市	332人
向日市	175人
長岡京市	295人
八幡市	154人

地 域	入院患者数
京田辺市	352人
京丹後市	115人
南丹市	202人
木津川市	181人
乙訓郡	59人
久世郡	49人
綴喜郡	64人
相楽郡	109人
船井郡	57人
与謝郡	75人
その他	3人
小 計	13,452人

地 域	入院患者数
大阪府	415人
滋賀県	871人
兵庫県	111人
奈良県	97人
三重県	51人
和歌山県	7人
福井県	65人
西日本	43人
東日本	127人
その他	7人
合 計	15,246人

【病 床 数】

令和6年3月31日現在

	病床数	令和5年度 平均病床利用率	令和5年度 平均在院日数
本院	601床	72.5%	10.8日
内 訳	一般病舎	549床	74.7%
	結核病舎	11床	—
	緩和ケア病棟	16床	59.3%
	R I	2床	11.5%
	精神病舎	23床	65.5%
小児病舎	83床	68.3%	12.5日
計	684床	73.2%	10.9日

【指定医療機関等】

- ・臓器移植登録施設（脾臓、腎臓、肝臓）（H7.5～）
- ・エイズ治療拠点病院（H7.7～）
- ・地域周産期母子医療センター（H9.11～）
- ・臨床研修指定病院（基幹型）（H16.4～）
- ・都道府県がん診療連携拠点病院（H18.8～）
- ・肝疾患診療連携拠点病院（H20.8～）
- ・第1種感染症指定医療機関（H21.4～）
- ・小児医療センター（H23.10～）
- ・認知症疾患医療センター（H23.10～）
- ・救急告示病院、京都市消防局ヘリコプターの24時間発着（H23.10～）（H7.3 ヘリストップ完成）
- ・妊娠と薬情報センター拠点病院（H24.4～）
- ・小児がん拠点病院（H25.2～）
- ・地域災害拠点病院（H27.4～）
- ・原子力災害拠点病院（H28.4～）
- ・がんゲノム医療連携病院（H30.10～）
- ・総合周産期母子医療センター（R3.8～）
- ・救命救急センター（R6.4～）

京都府立医科大学附属病院 届出済施設基準一覧

令和6年6月1日現在

施設基準
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算2
歯科外来診療医療安全対策加算2
初診料の注10に規定する歯科外来診療感染対策加算4
歯科診療特別対応連携加算
初診料(歯科)の注15に規定する医療DX推進体制整備加算
情報通信機器を用いた診療
初診料(医科)の注16に規定する医療DX推進体制整備加算
特定機能病院入院基本料(結核)7対1
特定機能病院入院基本料(一般)7対1
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1 15対1
急性期看護補助体制加算(25対1看護補助者5割以上、夜間100対1)
看護職員夜間配置加算 看護職員夜間12対1配置加算1
看護配置加算
看護補助加算1
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1
無菌治療室管理加算2
放射線治療病室管理加算(治療用放射線同位元素による場合)
放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)
緩和ケア診療加算
精神科応急入院施設管理加算
精神科身体合併症管理加算
摂食障害入院医療管理加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染対策向上加算1
感染対策向上加算1の注2に規定する指導強化加算
感染対策向上加算の注5に規定する抗菌薬適正使用体制加算
患者サポート体制充実加算
報告書管理体制加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
術後疼痛管理チーム加算
後発医薬品使用体制加算1
病棟薬剤業務実施加算1
病棟薬剤業務実施加算2
データ提出加算2
入退院支援加算1
入退院支援加算の注4に規定する地域連携診療計画加算
入退院支援加算の注7に規定する入院時支援加算1
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
精神科急性期医師配置加算2の口

施設基準
地域医療体制確保加算
特定集中治療室管理料2(ICU)
特定集中治療室管理料の注5に規定する早期栄養介入管理加算(ICU)
特定集中治療室管理料6(PICU)
特定集中治療室管理料の注5に規定する早期栄養介入管理加算(PICU)
ハイケアユニット入院医療管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料1(EICU)の注4に規定する早期栄養介入管理加算
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
総合周産期特定集中治療室管理料
新生児治療回復室入院医療管理料
小児入院医療管理料2
小児入院医療管理料2の注5に規定する無菌治療室管理加算2
小児入院医療管理料の注2に規定する加算(保育士2名以上の場合)
緩和ケア病棟入院料1
精神科急性期治療病棟入院料1
ウイルス疾患指導料の注2
外来栄養食事指導料の注3
心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん性疼痛緩和指導管理料の注2に規定する難治性がん性疼痛緩和指導管理加算
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料ニ
外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料(臓器移植後)
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
一般不妊治療管理料
生殖補助医療管理料1
下肢創傷処置管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料1
外来腫瘍化学療法診療料_連携充実加算
外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算
ニコチン依存症管理料
療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算
がん治療連携計画策定料
ハイリスク妊産婦連携指導料1
ハイリスク妊産婦連携指導料2
こころの連携指導料(Ⅱ)

施設基準
プログラム医療機器等指導管理料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2
精神科退院時共同指導料 1 及び 2
歯科疾患管理料の注10に掲げる総合医療管理加算
歯科治療時医療管理料
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に掲げる遠隔モニタリング加算
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
遺伝学的検査
染色体検査(流産検体を用いた絨毛染色体検査を行った場合)
骨髄微小残存病変量測定
BRCA1／2 遺伝子検査(腫瘍細胞、血液)
がんゲノムプロファイリング検査
角膜シストロフィー遺伝子検査
先天性代謝異常症検査
抗アデノ随伴ウイルス 9 型(AAV9)抗体
抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
検体検査管理加算(Ⅳ)
国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
胎児心エコー法
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳液検査
単線維筋電図
脳波検査判断料 1
神経学的検査
補聴器適合検査
黄斑局所網膜電図
全視野精密網膜電図
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料 1
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
経頭静脈の肝生検
前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
経気管支凍結生検法
有床義歯咀嚼機能検査 1 の口及び咀嚼能力検査
精密触覚機能検査
画像診断管理加算 1
遠隔画像診断
ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
ボジトロン断層撮影、ボジトロン断層・コンピューター断層複合撮影又はボジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限り。)に係る費用を算定するための施設基準
CT撮影(16列以上64列未満のマルチスライス型の機器による場合)
MRI撮影(1.5テスラ以上 3 テスラ未満の機器による場合)
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
処方料の注 6 に掲げる抗悪性腫瘍剤処方管理加算
処方箋料の注 5 に掲げる抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
がん患者リハビリテーション料
リンパ浮腫複合的治療料
歯科口腔リハビリテーション料 2
経頭蓋磁気刺激療法
通院・在院精神療法の注 8 に掲げる療養生活継続支援加算

施設基準
認知療法・認知行動療法 1
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
医療保護入院等診療料
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
多血小板血漿処置
硬膜外自家血注入
エタノールの局所注入(甲状腺)
人工腎臓 1
導入期加算 3 及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
下肢末梢動脈疾患指導管理加算
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
ストーマ合併症加算
手術用顕微鏡加算
口腔粘膜処置
う蝕歯無痛の窩洞形成加算
CAD / CAM冠
歯科技工加算 1 及び 2
センチネルリンパ節加算
自家脂肪注入
組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
四肢・軀幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)
後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
椎間板内酵素注入療法
緊急穿頭血腫除去術
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
角結膜悪性腫瘍切除手術
角膜移植術(内皮移植加算)
羊膜移植術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
網膜再建術
経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
人工中耳植込術
植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術 V 型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検(併用)
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検(単独)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は 1 肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

【外来診療棟について】

★ 臓器別・疾病別治療センター

～患者さんサイドに立ったトータルな専門医療の提供～

従来の大学病院における縦割型診療科領域にとらわれることなく、関連する診療科が連携した総合的な医療を提供し、臓器別、疾病別などの治療センター化を図り、もって、患者さんへのわかりやすさや利便性を向上させ、効率的で適切な診療を行います。



▲待合



◀消化器/呼吸器センター受付



外来ホール▶

★ 小児医療センター

～病気とたたかう子どもを守り育む小児医療の拠点～

小児医療センターは、腫瘍、血液、アレルギー、循環器、腎臓、神経、内分泌・代謝、乳児発達の小児科の高度専門領域に総合診療科を加えた内科系診療と、消化器疾患を中心とした小児外科、先天性心疾患を中心とした小児心臓血管外科の外科系診療部が濃密な連携のもと診療を行います。



▲小児医療センター病棟



▲屋上庭園 病気とたたかう小児患者さんを癒す緑化空間



▲小児医療センター外来

★ 患者さんにやさしいアメニティ

～ゆったりした空間・安心できる治療環境の整備～

患者さんにやさしい環境（低木や天然芝の屋上緑化、吹き抜けのオープンカフェなど）を整備し、アメニティの向上を図ります。



▲待ち時間も快適に過ごせるカフェ



◀外来診療棟4Fのレストラン



▲低木、天然芝の屋上緑化

▶ 患者サービスの取組

本院では、患者アメニティとサービスの向上を目的として、病院サービスの取組を進めています。

患者さんご家族のための「こころの相談コーナー」



京都府立医科大学と京都ノートルダム女子大学の連携事業の一つとして、京都ノートルダム女子大学心理臨床センターの臨床心理士がお話を伺います。病気での通院・入院は、患者さん本人はもとよりご家族の心身も揺るがします。「どう関わったらよいのか」「家事や仕事が心配」「悲しい気持ちが続く」といったご家族の心の負担が軽減するよう「がん相談支援センター」とも連携して取り組んでいますのでどうぞご利用ください。

開室日：月・木曜日の午前9時から正午まで

場 所：外来診療棟1階 京都銀行ATM右となりの「こころの相談コーナー」

予 約：京都ノートルダム女子大学心理臨床センター

電話 075-706-3722（受付時間 月～金 10:00～17:00）

患者図書室「ほほえみ」



患者さん及びご家族に癒しを提供できるよう、病棟3階に「患者図書室 ほほえみ」を設置しています。大学附属図書館とタイアップして、患者さん等の安らぎや娯楽のための図書とともに、患者さん自身が病気と向き合うことを支援する医療関係図書や児童書も充実させ、約2,550冊の図書を取り揃えております。

おてがる入退院サービス



患者さんの入退院の負担軽減を目的に、ローソン京都府立医大病院店の独自サービスとして、入院・退院時における荷物の持ち運びのお手間を軽減するサービス「おてがる入退院」を実施しています。このサービスは、ローソンとして初めての試みです。

（サービスの概要）

①入院時：ご自宅で荷物を梱包し、専用の伝票にて「ゆうパック」で発送し、入院当日にローソン京都府立医大病院店でお受け取りができます。

②退院時：ローソン京都府立医大病院店で荷物を受付し、ご自宅へ荷物をお届けします。

入院時必需品レンタルシステム（洗濯付）入院セット



患者さんの入院時の負担軽減を目的に、京都府立医科大学生活協同組合（代理店：ワタキューセイモア（株））において、寝巻き、タオル等の入院時必需品のレンタルサービスを実施しています。入院セットには、以下の3種類があり、各セットの初回レンタル時には、日用品がサービスで提供されます。申込先は、京都府立医科大学生活協同組合（病院地下1階生協売店）です。利用料金は、各セットの料金×入院（利用）日数となります。

（サービスの概要）

Aセット 寝巻き（浴衣タイプ） 利用料金：410円（税別）×入院（利用）日数

Bセット バスタオル 利用料金：350円（税別）×入院（利用）日数

Cセット バスタオル、フェイスタオル、寝巻き（浴衣タイプ、甚平タイプ）

利用料金：615円（税別）×入院（利用）日数

※寝巻き、タオル等は、週2～3回の交換が基本となりますが、入浴時及び汚染時等には、都度、交換します。

※各セットの初回レンタル時にシャンプー、リンス、ボックスティッシュ、箸、コップ、歯ブラシセットの日用品が提供されます。

患者サポートセンターのご案内

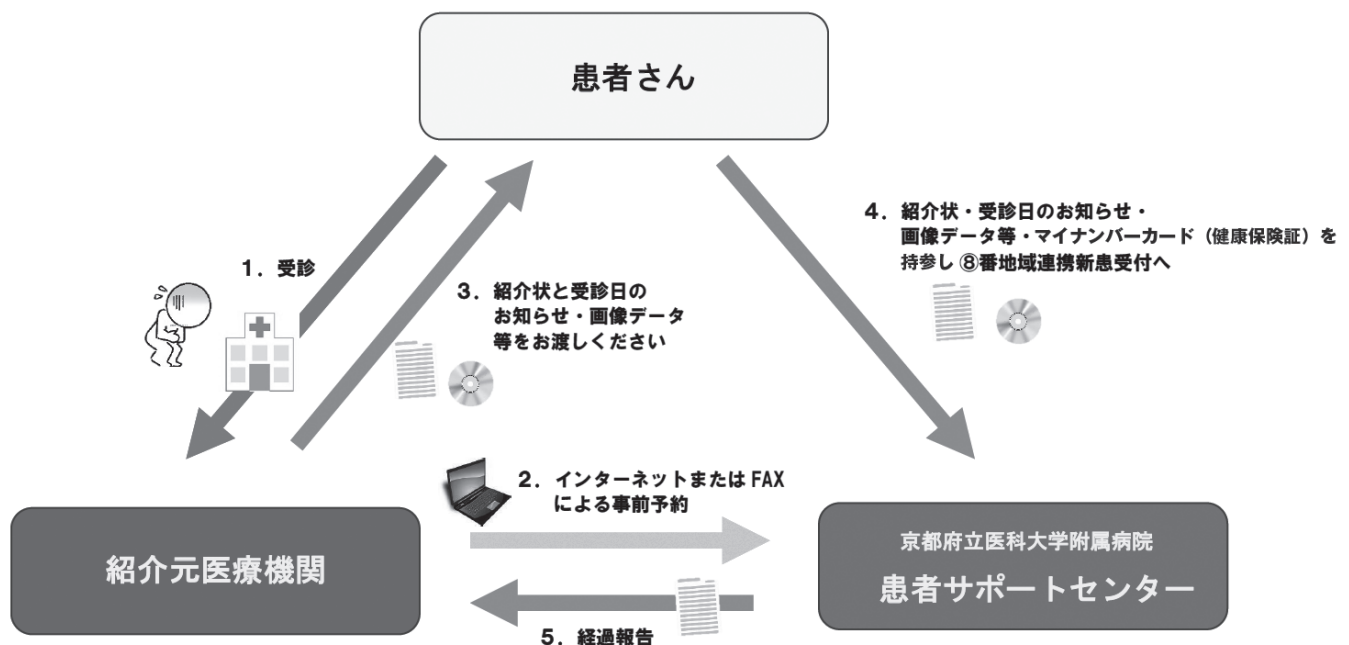
令和6年4月に旧「地域医療連携推進部」「入退院センター」「がん相談支援センター」等を一つに統合し、PFM（Patient Flow Management）強化のため患者サポートセンターを開設しました。患者さんが安心して生活を送ることができる医療を目指し、入院前から入院中及び退院後を見据えて、患者さん一人ひとりの状況に応じた一連の医療を提供するために、効率的・総合的なサポートを実現し、院内のチーム医療の充実を目指します。

また、京都府における基幹病院として、患者さんが高度で安全、かつ継続性のある医療を受けられるように、地域の医療機関との病診連携、病病連携を図るとともに、互いに協力しながらそれぞれが持つ機能を分担し役割を果たすことで地域医療の向上をめざし貢献いたします。

初診患者さんの診療予約について

医療機関から紹介いただく初診患者さんを、症状に適した診療科でスムーズに受診していただけるよう事前予約を Web・FAX で受け付けています。

初診患者さんの予約と受診の流れ



【申 込 手 順】

〈Web の場合〉

- 1 診療 Web 予約システム（システム名：SAKU 洛連携）にログインし、受診科や受診日時を選択し、患者氏名等を入力の上、「受診日のお知らせ（WEB 予約）」を印刷してください。
- 2 当日中に「診療情報提供書」を患者サポートセンターに FAX してください。

※ SAKU 洛連携を初めてご利用いただく際には、予め利用登録が必要です。
ご利用希望の医療機関様は右記の QR コードよりお申込みください。

※ SAKU 洛連携は、京都第一赤十字病院、京都第二赤十字病院と合同導入したシステムです。ご利用登録いただくことで三病院の予約取得が可能となります。



〈FAX の場合〉

- 1 「事前診察申込書」にご記入の上、「診療情報提供書」を添付して患者サポートセンターに FAX してください。

診療予約（初診）に関するお問い合わせ先

FAX 075 - 251 - 5241

FAX 075 - 251 - 5289

FAX は 24 時間受付

TEL 075 - 251 - 5286

平 日：午前 8 時 45 分～午後 7 時

土曜日：午前 8 時 45 分～午前 12 時

- 2 受診科や受診日時の調整を行い、受診日のお知らせを FAX します。

※ 受診当日は、「⑧番 地域連携新患受付窓口」で受付します。

※ 次回からの診察（再診）は、患者サポートセンターを通さず、一般の患者さんと同様に診察券を再来受付機に通し、直接当該診療科の受付に行ってくださいとなります。

〈お 願 い〉

- ・新患患者さんを御紹介頂く場合は、Web 予約システムまたは患者サポートセンターで事前予約をして頂きますようお願いいたします。
- ・患者さん自身からの新患の診療予約はお受けしておりません。
- ・診療の状況等によりお待ちいただく場合もあることを患者さんにお伝え願います。
- ・事前診察申込書は、次頁をコピーいただくか当院ホームページから印刷をお願いいたします。
- ・外来診療担当医師表は当院ホームページをご覧ください。毎月更新しております。
- ・当日受診は、各診療科紹介の下部にある外来受付へ直接お問い合わせをお願いいたします。
- ・救急診療は、各診療科紹介の下部にある救急外来へ直接お問い合わせをお願いいたします。

FAX:075-251-5241 / 075-251-5289 (24時間受付)

事前診察申込書(初診)

受診希望日 ① 令和 年 月 日 ()
 ② 令和 年 月 日 ()

受診を希望する医師名() ・ 無 受診希望診療科

御紹介患者様

(番号に○印をつけてください)

フリカ`ナ		性 別	旧 姓
氏 名		男・女	
生年月日	大・昭・平・令 年 月 日 () 歳		
住 所	〒 -		
電 話	() - (携帯)		
☐ 入院中(紹介元医療機関に入院中の場合はチェックを入れてください)			
☐ 他施設入所中(他施設に入所中の場合はチェックを入れてください)			

90	総合診療科
51	消化器内科
52	循環器内科
53	腎臓内科
54	呼吸器内科
55	内分泌・糖尿病・代謝内科
56	血液内科
57	膠原病・リウマチ・アレルギー科
41	脳神経内科
61	消化器外科
62	心臓血管外科
63	呼吸器外科
64	内分泌・乳腺外科
65	移植・一般外科
66	形成外科
06	脳神経外科
07	整形外科
72	産婦人科
10	眼科
11	皮膚科
12	泌尿器科
13	耳鼻咽喉科
14	精神科・心療内科
15	放射線科
15	陽子線治療
18	疼痛・緩和ケア科
09	小児科
32	小児外科
33	小児心臓血管外科
17	歯科
93	漢方外来
84	感染症科
94	リハビリテーション科
	リウマチセンター
	腎移植外来

保険情報 ※保険証の写しをFAXしていただければ、記入は不要です。

保 険 者 番 号		記 号	
資 格 取 得 日	年 月 日	有 効 期 限	年 月 日
被 保 険 者	本人・家族	負 担 割 合	割

公費医療等 (有・無) ※有・無に○を記載願います。

負 担 者 番 号	
受 給 者 番 号	
有 効 期 限	年 月 日 負 担 割 合 割

府立医大附属病院発行の診察券 (有・無)

有の場合:患者番号 (- -)

紹介元医療機関

名 称			
所 在 地			
TEL/FAX	TEL () FAX ()		
	※時間外連絡先 ()		
診 療 科	科	担 当 医	

傷 病 名	
部 位・専 門 分 野	
連絡事項 (ご紹介目的、症状等をご記入ください。)	

・セカンドオピニオンをご希望の場合は
事前にお問い合わせください。
・がんのセカンドオピニオンの相談は
がんセカンドオピニオン外来まで
お願いします。(電話:075-251-5284)

予約の変更・キャンセルの際は、
患者サポートセンターまでご連絡ください。
(電話:075-251-5286)

がんセカンドオピニオン外来

がんセカンドオピニオンとは、患者さんがより納得して治療にのぞむことができるように、現在診療を受けている医師とは別に、違う医療機関の医師に「第二の意見」を求めることです。当院では、がんセカンドオピニオン外来を子どもから大人まで各診療科で対応しています。がんセカンドオピニオン外来は完全予約制です。まずは下記までお電話ください。

- ・受付時間：月～金（祝日除く） 午前9時～12時 午後1～4時
- ・電話番号：がん相談支援センター
075-251-5283・5284（直通）
075-251-5605（小児専用ダイヤル）*小児専用ダイヤルは、午後3時まで
- ・FAX 番号：075-251-5241（24時間受付）

1. 申込における注意事項

- 1) お申し込みから来院いただくまでには、2～3週間程度のお時間を必要としますのでご了承ください。
- 2) 患者さん本人、もしくはご家族からお申込ください。
- 3) 相談内容が、本院の専門外である場合はお受けできません。
- 4) 検査や治療行為は行いません。
- 5) 必要な資料の提供が受けられない場合は、一般的なお話ししかできず、適切な意見・判断が提供できないため、相談をお断りする場合があります。
- 6) 現在受診中の医療機関や主治医に対する不満・苦情、医療過誤や裁判係争中に関する相談等はお受けできません。
- 7) 最初から本院での治療を希望されている患者さんは対象といたしません。

2. 相談の費用

自由診療となりますので健康保険は使えません。下記料金表をご参照ください。

令和6年4月現在

時 間	費用（税込）
～30分まで	10,710円
30分から60分まで	21,420円
60分から90分まで	32,130円

※面談時間は、90分以内を限度としています。

3. がんセカンドオピニオン外来診療科と担当医について

対応診療科については、がんセカンドオピニオン外来ホームページをご参照ください。

なお個々の医師を指名しての相談はできません。

診療科別の専門外来と診療内容一覧

診療科名	専門外来・診療内容
総合診療科	内科新規患者・診療科の分別が難しい新規患者
消化器内科	食道・胃腸、肝臓、膵臓、胆嚢、内視鏡
循環器内科	循環器（心臓・血管）
腎臓内科	腎臓、透析（血液・腹膜）、腎移植、高血圧
呼吸器内科	肺癌、喘息、COPD、肺炎等各種呼吸器疾患
内分泌・糖尿病・代謝内科	内分泌、甲状腺、糖尿病
血液内科	造血器悪性腫瘍・血液疾患、造血幹細胞移植
膠原病・リウマチ・アレルギー科	膠原病、リウマチ、アレルギー
脳神経内科	物忘れ、パーキンソン病、頭痛、筋関連疾患・末梢神経疾患、神経難病、神経免疫疾患、脳卒中、てんかん、ボトックス
消化器外科	上部・下部消化管、肝臓・胆道・膵臓・脾臓、腹腔鏡手術、ロボット支援手術
心臓血管外科	成人心疾患、血管疾患
呼吸器外科	肺癌、自然気胸、胸壁腫瘍、縦隔腫瘍、重症筋無力症、多汗症、転移性肺腫瘍、ロボット手術
内分泌・乳腺外科	乳腺疾患全般
形成外科	口唇・口蓋裂、再建外科、顔面外傷・骨折、手足の奇形、あざ、皮膚癌
脳神経外科	脳腫瘍、脳卒中／血管内治療、下垂体、神経外傷、脊椎脊髄、小児疾患、機能的疾患、ガンマナイフ
整形外科	関節外科（股関節、膝関節、足の外科、肩関節）、脊椎・脊髄外科、骨軟部腫瘍、小児整形、手の外科・末梢神経、リウマチ性疾患、骨粗鬆症、難治・病的骨折、外傷、スポーツ
産婦人科	妊娠・分娩、母乳相談、胎児スクリーニング、胎児遠隔診断、婦人科がん、子宮内膜症、不妊治療（体外受精・人工授精）、がん・生殖外来
眼科	白内障、角膜、ドライアイ、緑内障、コンタクトレンズ、斜視・弱視、屈折矯正手術、円錐角膜、ぶどう膜、眼形成・眼窩・涙道、網膜、アレルギー、アトピー、神経眼科、ロービジョン、スティーヴンス・ジョンソン症候群、腫瘍性疾患
皮膚科	アトピー、乾癬、皮膚腫瘍、アレルギー、蕁麻疹、膠原病、皮膚外科、皮膚リンパ腫、薬疹、皮膚癌、水疱症
泌尿器科	排尿障害、結石、尿失禁、小児泌尿器、副腎腫瘍、前立腺腫瘍、不妊・性機能、男性更年期、女性泌尿器、尿路腫瘍、腎腫瘍、精巣腫瘍、腎移植
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	喉頭、頭頸部外科、頭頸部腫瘍、中耳疾患、聴覚、めまい、副鼻腔、アレルギー、補聴器、人工内耳、難聴の遺伝子診断
精神科・心療内科	リエゾン、児童青年期、老年期、強迫症（強迫性障害・OCD）、認知療法、心身症
放射線科	放射線治療、R I 治療、血管造影・I V R（画像誘導下治療）、画像診断コンサルト
麻酔科	術前外来
疼痛・緩和ケア科	ペインクリニック（痛みの治療）、緩和ケア
小児科	神経、代謝・内分泌、腫瘍、血液、アレルギー、新生児、早産児、乳児、肥満・糖尿病、免疫・膠原病、循環器、川崎病、腎臓、造血細胞移植、CD19 CAR-T 療法
小児外科	呼吸器、消化器、ヘルニア、腫瘍、排便障害、内視鏡手術、肝疾患、胃瘻管理、小児急性腹症
小児心臓血管外科	先天性心疾患、血管疾患、成人先天性心疾患
歯科	一般歯科疾患、口腔外科、有病者・障害者歯科、歯科インプラント、顎関節、歯科矯正、ドライマウス、周術期の口腔機能管理
救急医療科	救急診療
移植・一般外科	臓器移植（腎臓、肝臓、膵臓）、外科一般
漢方外来	内科全般、免疫・アレルギー疾患
感染症科	HIV 感染症、渡航ワクチン外来、寄生虫疾患、感染症全般
遺伝相談室	遺伝相談（遺伝カウンセリング）
リハビリテーション科	脳血管障害、脊髄損傷、そのほかの神経・筋疾患や運動器疾患による活動の障害
認知症疾患医療センター	認知症

診療部のご案内

総合診療科	23
消化器内科	24
循環器内科	26
腎臓内科	28
呼吸器内科	30
内分泌・糖尿病・代謝内科	32
血液内科	34
膠原病・リウマチ・アレルギー科	36
脳神経内科	38
消化器外科	40
心臓血管外科	42
呼吸器外科	44
内分泌・乳腺外科	46
形成外科	48
脳神経外科	50
整形外科	52
産婦人科	54
眼 科	56
皮 膚 科	58
泌尿器科	60
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	62
精神科・心療内科	64
放射線科	66
麻酔科（術前外来）	68
疼痛・緩和ケア科	70
小 児 科	72
小児外科	74
小児心臓血管外科	76
歯 科	78
移植・一般外科	80
漢方外来	81
感染症科	82
リハビリテーション科	83
認知症疾患医療センター	84

総合診療科

■ スタッフ紹介



診療部長
しかた たく
四方 哲
教授 (H6)
総合診療科

にわ 文俊	講師 (H13)	総合診療科
まつばら 慎	助教 (H24)	総合診療科
せきにしりょうたろう 関西亮太郎	医員 (R1)	総合診療科
いかわ 結	医員 (R3)	総合診療科
たなか かずひろ 田仲 一大	医員 (R4)	総合診療科

■ 私たちの業務

大学病院では高度で専門的な医療を行なっているがゆえに、細分化されていてどの診療科に相談したらよいか、悩ましい患者さんもおられます。総合診療科は、内科初診の方を含め、そのような方のご紹介をお受けします。主に内科的な疾患で、具体的には、発熱、全身倦怠感、胸部の症状（胸痛、動悸、呼吸困難など）、腹部の症状（腹痛、腹部膨満感、嘔気、下痢、便秘など）、腫れ、痛み、めまい、脱力、不眠、ほてりなど様々な症状に対応します。また、例えば不明熱など、入院精査加療を要するような症例については、当科で入院治療もお受けしています。診療の方向性が見出されるまで身体的、心理的、社会的な問題をお持ちの患者さんおひとりおひとりに寄り添うこと、包括的で全人的な医療を提供することを大切にしています。

当科は大学の使命である教育についても力を入れています。臨床実習の医学生いわゆるスチューデントドクターは、実際の初診外来の予診や診察を担当し、医療面接や臨床推論といった実践的なことを中心に学んでいます。また、研修医は、臨床研修制度改定により一般内科外来診療が必修となっているため、当科で研修医ローテーターが学びながら外来診療を担当しています。当科を専攻するレジデントも増えつつあり、将来地域で活躍できる家庭医や総合診療専門医を輩出することを目指しています。医学生・レジデントの指導を含め診療に多少お時間をおとりしますが、十分にお話を聞かせていただき、丁寧な対応をさせていただきますので、何卒ご理解とご協力をお願い致します。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
総合診療科	丹羽 担当医	松原 担当医	丹羽 担当医	四方 担当医	関西 担当医

府立医大 総合診療科医局 TEL 075-251-5875 FAX 075-251-5909
総合診療科外来 TEL 075-251-5020 (受付) FAX 075-251-5022
救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

消化器内科

■ スタッフ紹介



診療部長
伊藤 義人
教授 (S60)
肝臓病学・
消化器病学

こにし ひでゆき 准教授 (S62) 内視鏡学・消化器病学
たかぎ ともしき 准教授 (H6) 内視鏡学・消化器病学
やまぐち かんじ 准教授 (H9) 肝臓病学・消化器病学
いしかわ 剛 講師 (H6) 消化器病学・臨床腫瘍学
うちやま かずひこ 講師 (H7) 内視鏡学・消化器病学
そがめ よしお 講師 (H7) 脾臓病学・消化器病学
もりくさ みち久 講師 (H8) 肝臓病学・臨床腫瘍学
よしだ 直久 講師 (H11) 内視鏡学・消化器病学
とど 統 講師 (H14) 内視鏡学・消化器病学

いづみ けん 学内講師 (H15) 内視鏡学・消化器病学
ひろせ 亮平 講師 (H19) 内視鏡学・消化器病学・
感染症病理学
どい としあき 学内講師 (H19) 消化器病学・臨床腫瘍学
せこ ゆうや 学内講師 (H20) 肝臓病学・消化器病学
みやけ はるか 助教 (H22) 脾臓病学・消化器病学
いわい なおと 助教 (H22) 内視鏡学・消化器病学
かたおか 星太 助教 (H23) 肝臓病学・臨床腫瘍学
こばやし 玲央 助教 (H26) 内視鏡学・消化器病学

■ 私たちの業務

消化器疾患すべての領域（食道、胃腸、肝臓、脾臓、胆嚢など）にわたって指導的専門医を擁し、患者様のニーズに応じた最新・最善の医療が提供できる体制を整えています。日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会、日本超音波医学会の認定施設です。

◆ 消化管疾患

上下部内視鏡検査全般（胃／大腸カメラなど）においてレーザーやLED内視鏡などの最新機器を使用し、また超音波内視鏡やカプセル内視鏡を駆使して的確な診断と治療を行っています。食道・胃・大腸の早期癌には、粘膜切除術及び粘膜下層剥離術を中心とした内視鏡的治療、食道・胃静脈瘤には内視鏡的硬化療法や静脈瘤結紮術、経口摂取困難な方には経皮内視鏡的胃瘻造成術など良好な成績をおさめています。またクローン病や潰瘍性大腸炎には免疫調整薬・生物学的製剤などの免疫制御療法や白血球除去療法などが効果をあげています。また、食道・胃・大腸・肝・胆・脾進行癌に対しては、抗癌剤による化学療法と分子標的薬に温熱療法・免疫チェックポイント阻害剤を加えた集学的治療で予後改善に臨んでいます。

◆ 肝疾患

C型肝炎症例に直接作用型抗ウイルス薬治療を、B型肝炎に対しては核酸アナログやインターフェロンによる抗ウイルス治療を行っています。自己免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎などの難治性肝炎の診断、治療も行っています。肝がんに対しては、ハイエンドのエコーを導入し、フュージョンイメージングや造影エコー下でエタノール注入術やラジオ波焼灼術を行っています。また、従来の肝動脈塞栓術などの血管治療に加え、新規分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬を用いた集学的な肝がん治療を行っています。さらに、生活習慣病症例においては病診連携に重点をおき、肝細胞癌や肝硬変の原因として注目されている非アルコール性脂肪肝炎（NASH）のエラストグラフィーを用いた早期診断や新規治療開発に取り組んでいます。肝がんとNASHに関して、数多くの治験に参加していることも特徴です。

◆ 胆・脾疾患

従来の検査法に加えて、脾腫瘍においてはフュージョンエコー下針ナビゲーションシステムや超音波内視鏡下生検（EUS-FNA）、胆道腫瘍においてはデジタル胆道鏡であるSpy Glass DSなどを駆使して病理学的診断を行い、治療方針を決定しています。悪性胆道狭窄には、内視鏡的経乳頭・超音波内視鏡下・経皮的超音波ガイド下胆道ドレナージ術を症例に応じて選択しています。重症急性膵炎に対しては、各部門と協力して、集中治療を行い、合併する被包化壊死には超音波内視鏡下に経消化管的ドレナージを行うなど集学的治療を駆使して救命率の向上を図っています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診 (専門外来)	土井 〈消化器癌・胃腸・胆膵〉	岩井 〈胃腸〉	土肥 〈胃腸〉	(午前) 小林 〈胃腸〉	高木 〈胃腸〉
	石川 〈消化管・癌免疫〉	吉田 〈消化管・消化器癌〉	(午前) 伊藤 〈肝臓・胆道〉	(午後) 廣瀬 〈胃腸〉	小西 〈胃腸・胆膵〉
	小西 〈胃腸・胆膵〉	瀬古 〈肝臓・胆道〉	(午前) 石川 〈消化管・がん免疫〉 (永守がんセンター)	井上 〈胃腸〉	三宅 〈胃腸・胆膵〉
	山口 〈肝臓・胆道〉		十亀 〈脾臓・胆道〉	(午前) 吉田 〈消化管・消化器癌〉	森口 〈肝臓・胆道〉
			内山 〈胃腸・胆膵〉	十亀 〈脾臓・胆道〉	片岡 〈肝臓・胆道〉
			森口 〈肝臓・胆道〉	山口 〈肝臓・胆道〉	(午前) 石川 〈消化管・がん免疫〉 (永守がんセンター)
				瀬古 〈肝臓・胆道〉	

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療
●消化管疾患	食道・胃腸透視・上部消化管内視鏡検査 超音波内視鏡検査（EUS） 内視鏡的止血術 内視鏡的ポリペクトミー 内視鏡的粘膜切除術（EMR） 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD） 内視鏡的拡張術・ステント留置術 食道静脈瘤硬化療法、静脈瘤結紮術 経皮内視鏡的胃瘻造設術 超音波内視鏡下吸引細胞診・生検（EUS-FNAB） カプセル内視鏡検査（小腸・大腸） 小腸内視鏡検査 注腸透視・大腸内視鏡検査
●肝疾患	腹部エコー・造影エコー検査 超音波エラストグラフィ、超音波減衰法検査（ATI） 腹部CT・MRI 腹腔鏡検査（肝生検） エコーガイド下肝・腫瘍生検（fusion/contrast-enhanced エコー下） 陽子線治療目的の経皮的金マーカー留置 エタノール注入療法（PEIT） ラジオ波焼灼療法（RFA） マイクロ波凝固術（PMCT） 血管造影および肝動脈塞栓術（TACE） 肝動注化学療法（HAIC） バルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術（BRTO） デンバーシャント 腹水濃縮再静注（CART） 急性肝不全に対する血漿交換（PE）、高流量血液ろ過透析（High flow HDF）
●胆・膵疾患	腹部エコー・パルスドプラ検査（FFT）・3D fusionエコー検査 腹部CT・MRI・膵pefusion CT 超音波内視鏡検査（EUS）・超音波内視鏡下吸引細胞診・生検（EUS-FNAB） 内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP） 内視鏡的乳頭切開術（EST） 内視鏡的胆道碎石術（EML） 胆道ドレナージ術（EBS/ENBD） 胆道ステント留置術 胆管・胆嚢ドレナージ術（PTCD/PTGBD） 経口（経皮経肝）胆管鏡・膵管鏡 エコーガイド（EUS・3D fusion）下腫瘍生検術 エコーガイド（EUS・3D fusion）下ドレナージ術・ネクロセクトミー 膵外分泌機能検査・膵内分泌検査 体外衝撃波胆石・膵石破碎術（ESWL）

2023年度診療実績

延べ入院患者 13,947人 新規入院 1,709人 平均在院日数 6.9日

消化管の悪性疾患	消化管の良性疾患	炎症性腸疾患	肝炎・肝硬変	肝・胆膵の悪性疾患	肝・胆膵の良性疾患	その他	計
611	295	65	37	333	175	193	1,709

外来：41,153人（新患者 1,372人）

府立医大 消化器内科 医局 TEL 075-251-5519 FAX 075-251-0710
ホームページアドレス <https://kpum-shoukaki.net>

救急対応 消化器センター外来 TEL 075-251-5023（外来時間帯）
救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

循環器内科

■ スタッフ紹介



診療部長
的場 聖明
教授 (H2)
狭心症・心筋梗塞・
心不全・再生医療・
紹介初診

中村 猛	准教授	(H7)	虚血性心疾患/成人先天性心疾患、紹介初診
全 完	准教授	(H9)	心血管インターベンション、心臓弁膜症カテーテル治療、紹介初診、左心耳閉鎖
星野 温	講師	(H15)	虚血性心疾患・心不全
中西 直彦	助教	(H16)	肺高血圧・成人先天性心疾患
山野 倫代	助教	(H11)	弁膜症/心不全
矢西 賢次	助教	(H18)	心血管インターベンション/血管再生
妹尾恵太郎	准教授	(H18)	不整脈
木谷 友哉	助教	(H19)	再生医療、心不全
津端 英雄	助教	(H22)	肺高血圧/狭心症
白石 裕一	講師	(H6)	不整脈/心臓リハビリ、紹介初診
山野 哲弘	講師	(H7)	弁膜症/心不全/心アミロイドーシス、紹介初診
小原 幸	客員講師	(H元)	心筋症/心不全
平尾 木綿	医員	(H20)	循環器救急、虚血性心疾患
日野 智博	医員	(H25)	狭心症/心不全
前田遼太郎	医員	(H24)	狭心症/成人先天性心疾患
彌重 匡博	医員	(H26)	虚血性心疾患、心臓弁膜症、左心耳閉鎖
藤本 智貴	医員	(H27)	心臓弁膜症、心筋症、心血管インターベンション

■ 私たちの業務

- ◆冠動脈インターベンションの症例が多く、光干渉断層法や血管内超音波を用いて評価、高度石灰化病変の治療などにロータブレードを使用し、冠動脈完全閉塞例など幅広く対応しています。
- ◆重症の心不全治療急性期には**心臓補助ポンプImpella**も使用して、慢性期までリハビリテーション、運動療法、食餌療法を積極的に行っています。
- ◆心不全、下肢虚血、肺高血圧に伴う呼吸不全等様々な疾患に対する**心臓リハビリ**、運動療法を積極的に行っています。
- ◆**カテーテルアブレーション（高周波、冷凍）**、ペースングによる不整脈治療、**心臓再同期療法**も数多く実施しています。心房細動や重症心不全患者さんの治療が増加中です。
- ◆**慢性血栓性肺高血圧症**や**心房中隔欠損症**、**ファロー四徴症術後の肺動脈弁閉鎖不全症**に対するカテーテル治療を行っています。近畿・北陸地域から多くのご紹介があります。
- ◆小児期から治療中の方、成人後に診断された先天性心疾患患者さんを対象に**成人先天性心疾患専門外来**を開設しており、病病連携、病診連携も充実しています。
- ◆**下肢血管虚血**に対するインターベンションの実績も多く、重症虚血下肢に対する自己骨髄単核球による**血管再生医療**と2本柱で実施中です。
- ◆増加する高齢者大動脈弁狭窄症の患者さんに**カテーテルによる弁置換術（TAVI）**を数多く行い、全国トップレベルです。術後生体弁の修復や、より若年者へも適応拡大しています。**僧帽弁閉鎖不全にもカテーテル治療（MitraClip）**を行っています。
- ◆肺高血圧症専門外来では、鑑別診断や最適な治療選択の相談・検討を実施しています。
- ◆心アミロイドーシス専門外来では、鑑別・確定診断と速やかな疾患修飾治療の導入を実施しています。（金）
- ◆スタチン製剤で低下困難な高LDL血症（家族性および二次予防）の方にPCSK9阻害剤の自己注射指導や導入期説明を行うPCSK9阻害薬治療導入外来を実施しています。（月）
- ◆**高度心血管センター**
循環器疾患は急変しやすく、治療法選択もスピードが要求されます。心臓血管外科や救急医療部、医療機器管理部（ME）、看護師、放射線技師、理学療法士と連携しハートチームとして治療に当たります。救急患者さんの紹介はまず救急医療部へ搬送していただくシステムですが、当科も迅速に対応できるよう**講師クラスが24時間体制で直接連絡を受けられるようにしています。次ページPHSをご利用ください。**
- ◆軽症から重症まで、さまざまな心臓血管病の方に通常の薬物療法から上記のような特徴ある先進医療までの確かな治療を、誠意をもって取り組んでいます。安全と信頼を得るためにスタッフ一同日夜研鑽を積んでいます。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年7月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診 (専門外来)	的場 (心筋梗塞・再生医療) (高脂血症PCSK9、紹介初診) 木谷 (予約外) 矢西 (血管再生・下肢血管) 妹尾 (午後:不整脈) ペースメーカークリニック 第1週、白石 第2週、戸村 第3週、宗像 第4週、下尾 第5週、白石	白石 (不整脈・心臓リハビリ、 紹介初診) 日野 (予約外) 津端 (心不全・肺高血圧)	全 (心血管インターベンション、 心臓弁膜症カテーテル治療、 左心耳閉鎖)紹介初診 平尾 (予約外) 山野倫代 (心筋症・弁膜症)	中村猛 (心房中隔欠損、紹介初診) 小原 (心筋症) 中西 (肺高血圧・成人先天性) 星野 (予約外)	山野哲弘 (心不全・弁膜症、 心アミロイドーシス・ 紹介初診) 下尾 (不整脈) 予約外 第1、3、5週、前田 第2週、彌重 第4週、藤本

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
急性期虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞)	心電図・超音波 緊急冠動脈造影(34例) 緊急冠動脈形成術(26例)	紹介や急変に即座に対応できる体制 高度心臓血管センターの活用
慢性期虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞)	心電図・超音波・核医学(RI) 冠動脈造影・冠動脈形成術(548例/216例)	外来受診・予定入院による心機能・血管病変評価 薬物・カテーテル治療・外科手術の選択
心筋症 (拡張型・肥大型・拘束型)	心電図・超音波・核医学(RI) 核磁気共鳴(MRI)・心筋生検 心臓カテーテル検査	外来・入院での心機能評価 薬物治療(微妙なサジかげんを入院で実施) 遺伝子診断(必要時)
心不全	心電図・超音波・RI 心臓カテーテル検査 体外循環補助(IABP/PCPS/VAD) 心臓再同期療法(28例) IMPELLA留置(10例)	集中治療室における急性期治療 慢性期教育入院 薬物治療・心臓再同期療法(ペーシング治療) 補助人工心臓、補助ポンプImpella
不整脈	心電図・超音波 心臓電気生理学的検査(4例) カテーテル心筋焼灼術(213例) ペースメーカー/ICD植込術(65/22例) リード抜去(11例) CRT(43例)	頻脈性不整脈に対して薬物・心筋焼灼術 ICD(植込型除細動器)移植術 徐脈性不整脈に対してペースメーカー移植術 原因不明の失神に対する精査も行います
心臓弁膜症	心電図・超音波 カテーテルによる弁形成術、弁置換術 (TAVI 255例) 経皮的僧帽弁クリップ術(MitraClip)(31例)	外科手術の適否決定
先天性心疾患	心臓カテーテル検査 カテーテルによる心房中隔欠損閉鎖術(38例) 経カテーテルの肺動脈弁置換術(4例) 経皮的下肢血管形成術(158例)	薬物治療
その他心・血管疾患 動脈瘤・心筋炎 感染性心内膜炎など	心電図・超音波 細菌・ウイルス検査 心臓カテーテル検査	心不全がある場合にはその治療 感染症治療 心機能評価のうえ外科と連携して治療
閉塞性動脈硬化症 血管再生医療	CT・MRI・血管造影検査 経皮的血管形成術(216例) 骨髄細胞移植による下肢血管再生(24例) ＝先進医療 肺動脈拡張術(40例)	外来受診により血管病変の評価 入院・カテーテルにより血管狭窄の治療 通常の治療で奏効しない場合血管再生治療
脳塞栓症の予防	カテーテルによる卵円孔閉鎖術 カテーテルによる左心耳閉鎖術	神経内科と連携して治療
	()内は2023年度実施数	

2023年度診療実績

延べ入院患者数 13,227人 平均在院日数 4.9日 外来 18,242人

高度心臓血管センター PHS : (24時間対応) 080-1400-0966

府立医大 循環器内科 医局 TEL 075-251-5511・5512 FAX 075-251-5514

ホームページアドレス <https://kpu-m-cardiovascular-and-nephrology.net/>

救急対応 循環器センター外来 TEL 075-251-5030 (外来時間帯)

救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

腎臓内科

■ スタッフ紹介



診療部長
たまがき けいいち
玉垣 圭一
講師 (H9)

くさば 哲郎	学内講師	(H11)
きりた 雄平	助教	(H20)
こまき 和美	助教	(H20)
みはら 悠	助教	(H23)
いしだ 良	医員	(H19)
せがわ 由佳	医員	(H22)
たけもと 令奈	医員	(H25)
なかむら 格	医員	(H26)
もりもと 真理	医員	(H26)
うめはら 皆斗	医員	(H28)
さかい しんじ	医員	(H29)

■ 私たちの業務

◆ 初期腎疾患への対応から末期腎不全のケアまで

腎炎、ネフローゼ、全身性疾患（糖尿病、膠原病等）に伴う急性腎障害から末期腎不全まで幅広く対応しています。腎生検を実施し、電子顕微鏡的組織診断を含めて確定診断を行い、最適な治療法を選択します。末期腎不全の患者さんのためには、種々の腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）を説明し、患者様の希望も考慮して最適な方法を選択し、その導入までをお世話します。

◆ 積極的にクリニカルパスを導入し、的確な医療の実施と患者負担・医療費の軽減を

的確で無駄のない医療と患者さんへの時間的・経済的負担軽減を目的に「腎生検パス」、「腎臓病（CKD）パス」、「透析導入パス」などのクリニカルパスを導入しています。「腎生検パス」では1週間の入院で腎生検を行い、外来で組織診断と最適な治療指針を説明します。「腎臓病（CKD）パス」では、腎機能障害が徐々に進行している患者さんを対象に、1週間の入院により、診断、治療法の見直しや、生活習慣の改善、将来の腎代替療法を説明します。

◆ 慢性腎臓病について

慢性腎臓病の原因（慢性腎炎、糖尿病、高血圧など）を把握して、栄養指導も含めた総合的な治療を行い、患者さんへは生活習慣の改善を指導します。近隣の開業医の先生と連携し、慢性腎臓病の早期発見と進行予防に努めます。

◆ 腎代替療法について

末期腎不全の患者さんの代替療法として、最適な方法（血液透析・腹膜透析・腎移植）を選択します。患者さんの症状や検査所見を考慮して血液透析および腹膜透析の導入を行います。腎移植は泌尿器科と連携して術前評価と術後管理を行います。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
初診	竹本 玉垣	澤井 草場	瀬川	石田	梅原
再診	玉垣 三原	草場 中村／森本	玉垣 小牧	桐田 三原	草場 小牧
腹膜透析		玉垣		瀬川	
腎代替療法選択			玉垣		

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
ネフローゼ症候群 急性腎炎 慢性腎炎 進行性糸球体腎炎 その他腎疾患	必要に応じて腎生検を実施	病理診断により最適な治療を選択します。
慢性腎臓病	超音波検査、CT 腎機能検査 血圧日内変動検査 生活習慣指導	外来にて最適な治療を行います。 1週間の「腎臓病（CKD）パス」入院も行っています。
末期腎不全	シャント手術→血液透析導入 腹膜透析カテーテル留置術→腹膜透析導入 腎移植の術前評価、術後管理	腎代替療法の説明：「腎代替療法選択」専門 外来（予約制）を設けています。 「透析導入パス」を使用しています。 「腎移植外来」では泌尿器科と連携して診療を行っています。

府立医大 循環器・腎臓内科 医局

TEL 075-251-5511 FAX 075-251-5514

ホームページアドレス

<https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/clinical-departments/nephrology.html>

救急対応 腎・尿路センター外来 TEL 075-251-5033（外来時間帯）

救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

呼吸器内科

■ スタッフ紹介



**副院長
診療部長**
たかやま こういち
高山 浩一
教授 (S62)
呼吸器悪性腫瘍

やまだ 山田 とくだ 徳田 いわさく 岩破 もりもと 森本 かたやま 片山 にしおか 西岡	ただあき 忠明 しんさく 深作 まさひろ 将博 けんじ 健司 ゆうき 勇輝 なおや 直哉	准教授 (H11) 呼吸器病学 講師 (H16) 呼吸器病学 助教 (H17) 呼吸器病学 助教 (H24) 呼吸器病学 助教 (H27) 呼吸器病学 特任助教 (H24) 呼吸器病学
--	---	---

■ 私たちの業務

◆ 人間性を尊重した医療、緊密な病診連携

呼吸器内科では、原発性肺癌、喘息、COPD、各種呼吸器感染症からびまん性肺疾患、慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群まで呼吸器疾患全般を担当しています。インフォームド・コンセント、情報開示の重要性を認識し、患者様の人間性を尊重した開かれた医療を実践しています。紹介医の先生方との緊密な連絡を心がけ、外来・病棟・救急全てにおいて迅速・丁寧かつ確かな診断治療を行っています。

◆ 内視鏡による最新の診断

気管支鏡・胸腔鏡検査は年間合計約200例施行しています。気管支鏡による診断では、観察、腫瘍に対する経気管支生検（TBB）、気管支擦過細胞診、気管支洗浄、びまん性肺疾患に対する気管支肺泡洗浄（BAL）、経気管支肺生検（TBLB）を実施しています。また、超音波プローブを用いた縦隔リンパ節腫大に対する経気管支吸引細胞診（TBNA）および組織診や、クライオプローブを用いた生検にも取り組んでいます。原因不明の胸水貯留症例に対しては局所麻酔下に胸腔鏡検査を行い、生検・薬剤の散布等を行っています。

◆ 各種呼吸器疾患に対する最先端の治療

原発性肺癌について呼吸器内科では外科切除できない患者様を治療しています。局所進行期の肺癌に対しては放射線治療に抗がん剤を併用した後、免疫療法を追加することで治療を目指しています。また、他臓器に転移している場合には抗がん剤や分子標的薬、免疫療法を用いてQOLを重視した治療を行っています。開発中の新規薬剤を用いた治験にも積極的に参加しています。重症喘息に対する生物製剤を用いた治療や肺線維症への抗線維化剤による治療も行っています。難治性感染症に対しては感染症科と協力して診療にあたっています。また、慢性呼吸不全に対する呼吸リハビリ、在宅酸素療法（HOT）導入、睡眠時無呼吸症候群に対する、ポリソムノグラフィー（PSG）、持続陽圧呼吸療法（CPAP）導入等、在宅治療への移行にも協力します。

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
1診	西岡	高山（午前）	徳田	山田	金子（教育センター）
2診	森田（午前） 山本（感染症科、午後）	岩破	松本	中邨	濱島
3診	森本			片山	

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●原発性肺癌 小細胞肺癌 非小細胞肺癌	気管支鏡下の経気管支生検（TBB）、 気管支擦過細胞診、気管支洗浄、 経気管支針吸引細胞診（TBNA）、 気管支鏡下ゴールドマーキング 化学療法、放射線併用化学療法 化学療法、放射線併用化学療法、 分子標的治療	入院後、迅速に確定・病期診断し、治療方針 を決定します。緊急性のある症例は直ちに入 院していただきます。 呼吸器外科、放射線科との連携も緊密です。 高い奏効率、生存の延長を目指し、QOLを 重視した化学療法も行います。
●気管支喘息	ピークフローメーターを用いた管理 薬物療法、呼気NO測定	外来では慢性期の管理を行い、発作時には 24時間救急対応します。
●COPD	肺機能検査、血液ガス分析、胸部CT 薬物療法、在宅酸素療法（HOT）、 呼吸リハビリ	慢性期の外来管理、HOT導入、呼吸リハビ リ、急性増悪時の入院治療を行います。
●感染性肺疾患 肺炎	確定診断および治療	適切な抗菌剤の投与を行います。
●胸膜の疾患 胸水（胸膜炎） 気胸	局所麻酔下胸腔鏡検査 難治性気胸に対する気管支塞栓術	原因不明の胸水には胸腔鏡を施行し、確定診 断、薬剤の散布等を行います。 ドレナージで改善しない症例には気管支鏡下 気管支塞栓術を行います。
●びまん性肺疾患 特発性間質性肺炎 サルコイドーシス 過敏性肺臓炎など	気管支肺胞洗浄（BAL）、 経気管支肺生検（TBLB） 胸腔鏡下肺生検（呼吸器外科）	入院しBAL、TBLB等を行い、必要に応じて 胸腔鏡下肺生検を考慮します。 確定診断後、適切な治療を行います。
●睡眠時無呼吸症候群	ポリソムノグラフィー（PSG） 持続陽圧呼吸療法（CPAP）	入院しPSGにて確定診断を行い、CPAPを 導入します。

2023年度診療実績

年間入院延べ患者数 6,889人 新規入院患者 636人 平均在院日数 9.1日

肺悪性腫瘍	気管支鏡	胸腔鏡	在宅酸素療法	PSG	CPAP
282例/年	240例/年	1例/年	23例/年	26例/年	10例/年

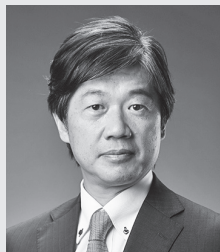
外来 11,780人

府立医大 呼吸器内科 医局 TEL 075-251-5513 FAX 075-251-5376
ホームページアドレス <http://kokyu-kpum.com/>

救急対応 呼吸器センター外来 TEL 075-251-5023（外来時間帯）
救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

内分泌・糖尿病・代謝内科

■ スタッフ紹介



副病院長
診療部長
ふくい みちあき
福井 道明
教授 (H2)
糖尿病、
内分泌、代謝

はまぐち まさひで 濱口 真英	講師	(H12) 糖尿病、内分泌、代謝
うしろめ えみ 牛込 恵美	講師 (共同研究講座)	(H15) 糖尿病、内分泌、代謝
おかだ ひろし 岡田 博史	学内講師	(H16) 糖尿病、内分泌、代謝
なかにし 尚子 中西 尚子	助教	(H14) 糖尿病、内分泌、代謝
ましま さおり 間嶋 紗織	学内講師	(H19) 糖尿病、内分泌、代謝
りょうこ 中谷理恵子	医員	(H19) 糖尿病、内分泌、代謝
たけろう 岡村 拓郎	医員	(H23) 糖尿病、内分泌、代謝
のぶこ 北川 暢子	医員	(H24) 糖尿病、内分泌、代謝
はなこ 中島 華子	医員	(H25) 内分泌、代謝、糖尿病
はせがわ ゆかり 長谷川由佳	医員	(H27) 糖尿病、内分泌、代謝
たかふみ 千丸 貴史	客員講師	(H16) 糖尿病、内分泌、代謝
たかふみ 大坂 貴史	客員講師	(H21) 糖尿病、内分泌、代謝
しんのすけ 畑 真之介	客員講師	(H26) 内分泌、代謝、糖尿病

■ 私たちの業務

◆ 広い視野に立った糖尿病治療

細小血管症（網膜症・腎症・神経障害）の発症・進展阻止を目標とした血糖管理のみならず、大血管症（冠動脈疾患、脳梗塞、足壊疽など）の発症・進展阻止を念頭にいた広い視野に立った糖尿病治療を行っています。

また、基礎・臨床研究の成果を診療に反映させエビデンスに基づいた医療を提供することも我々の使命と考えています。

◆ 個々の病態に応じた治療法の選択

単に血糖だけを診ていても適正な治療はできません。その状態を引き起こす病態（インスリン分泌障害、インスリン抵抗性、糖毒性など）は、個々の症例によって異なります。我々は個々の病態を十分検討したうえで適正な治療法を選択し、さらに生活環境・自己管理能力・合併症などを考慮した最善の治療を提示します。

◆ 専門スタッフによる糖尿病のある人への治療支援

糖尿病は自己管理が大切な疾患であり、糖尿病教室、栄養アドバイス、糖尿病相談室、教育入院により初期教育から治療の継続までを支援します。糖尿病専門医、糖尿病看護認定看護師とともに、CDEの資格を持つ看護師・栄養士・薬剤師が担当します。

◆ 内分泌疾患を見逃さない

内分泌疾患は症状が非特異的かつ多彩であり、その存在を見逃されている事が多い疾患です。内分泌疾患の診断は、第一線で日常診療をされている先生方がいかに内分泌疾患を拾い上げてくださることから始まります。問診、身体所見、一般検査所見から「内分泌疾患では？」と疑われたら、当科にご紹介ください。精査を含め的確に対応させていただきます。1つでも多くの内分泌疾患を診断・治療し、より良い生活を送っていただくことを目標にしています。

◆ 病・診連携；大学病院専門外来のご利用を！

先生方の糖尿病診療に当院の栄養アドバイス、教育システムをご活用ください。また、治療方針に疑問が生じた時、合併症のチェックをしたい時なども当科をご活用ください。先生方と協力して質の高い糖尿病診療体制を構築していきたいと考えています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診	中西 中谷 北川(第1、3、5週) 〈糖尿病・内分泌〉	岡田 〈糖尿病・内分泌〉	牛込 〈糖尿病・内分泌〉	岡村 〈糖尿病・内分泌〉	福井 〈糖尿病・内分泌〉
初診・再診	畑 (午後) 〈内分泌〉	間嶋 〈糖尿病・内分泌〉	濱口 〈糖尿病・内分泌〉	長谷川 〈糖尿病・内分泌〉	千丸(第1、3、5週) 大坂(第2、4週) 〈糖尿病・内分泌〉 中島〈内分泌〉

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●糖尿病 1型糖尿病 2型糖尿病 その他の糖尿病 妊娠糖尿病	血液・尿検査、画像診断、合併症検索 持続血糖モニタリング 治療サポート 食事・運動・薬物療法 インスリン自己注射、インスリンポンプ (CSII、SAP)、血糖自己測定 (SMBG、FGM)、リアルタイムCGM	外来、必要に応じて入院により 検査・教育・治療 栄養のアドバイス、糖尿病教室 糖尿病相談室 教育入院
急性合併症 糖尿病性昏睡 低血糖 急性感染症	血液・尿検査、画像診断 全身管理	救急対応
慢性合併症 腎症・網膜症・神経症 動脈硬化症 壊疽	血液・尿検査、画像診断、心電図 眼底検査、神経伝導速度 自律神経検査 頸動脈エコー、心エコー、ABI 血管造影など 薬物療法、眼科処置、透析導入	外来、必要に応じて入院により 検査・治療 ＊他の専門科と連携し、診断治療
●肥満症	血液・尿検査、画像診断 患者教育・療養指導 食事・運動・薬物療法	外来、必要に応じて入院により 検査・教育・治療 栄養のアドバイス
●内分泌疾患 甲状腺・副甲状腺 下垂体・副腎・性腺 消化管ホルモン異常	血液・尿検査、画像診断 内分泌負荷試験 ホルモン補充療法 手術（他科依頼）	外来 必要に応じて入院 ＊他の専門科と連携し治療

★糖尿病教室・相談室：医師、看護師、栄養士、薬剤師による治療支援、啓発支援、相談、アドバイス

★糖尿病教育入院：10～14日間

★内分泌負荷試験入院：3～7日間

★糖尿病患者の会：「水曜会」が活動

★糖尿病医療チーム：Team FUTABA

糖尿病教室・相談室に関する問合せ 075-251-5020 肥後（糖尿病看護認定看護師）まで

診療・入院に関する問合せ 075-251-5505

岡田（糖尿病）

中島（内分泌）まで

2023年度 診療実績

入院患者数 79人

平均在院日数 9.2日

外来患者数 18,550人

府立医大 内分泌・糖尿病・代謝内科 医局 TEL 075-251-5505

FAX 075-252-3721

ホームページアドレス <http://kpum-1nai.jp/metabo/>

救急対応 内科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

血液内科

■ スタッフ紹介



しむら 志村 みずたに 水谷	ゆうじ 勇司 しんすけ 信介	准教授 (H18)	血液内科学
つかもと 塚本	たく 拓	学内講師 (H18)	血液内科学
ふじの 藤野	たかひろ 貴大	学内講師 (H21)	血液内科学
おおにし 大西	あきお 朗生	助教 (H24)	血液内科学
かなやま 金山	ゆうか 悠加	病院助教 (H22)	血液内科学
みやした 宮下	あきひろ 明大	病院助教 (H25)	血液内科学
おかもと 岡本	はるや 明也	病院助教 (H28)	血液内科学
		病院助教 (H27)	血液内科学

■ 私たちの業務

◆ スムースで素早い対応

血球数や血液像、白血球分類などに異常があったりリンパ節腫脹やM蛋白などがある際は気軽に御相談ください。また、急性白血病を始めとする血液疾患は治療開始に一日を争うことがあります。そのための検査は随時施行し、極力早く治療を開始します。対象疾患の特性上在院日数も長くなりがちですが、外来診療ならびに関連施設との連携を図ってスムーズな診療に努めています。

◆ 最新の診断技術と治療

医学技術は日々進歩していますが、最新の診療技術と十分なインフォームドコンセントで診療します。カンファレンスでは全例について多角的に検討し、最善の医療を目指します。

日本成人白血病多施設共同研究グループ（JALSG）ならびに日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）など、多くの多施設共同研究グループにコアメンバーとして参加して、最新の治療研究プロトコルへの参加も可能です。造血幹細胞移植、CAR-T細胞療法、新規開発中の分子標的療法や抗体療法の治療研究にも積極的に取り組んでいます。

◆ 可能な限り外来治療でQoL向上

血液疾患は多くの場合、初回治療導入には入院を要しますが、患者様の病状に応じて、可能な限り外来で治療できるようにします。

◆ セカンドオピニオン

治療法の進歩により多くの治療オプションが得られるようになり、その選択も患者様の人生観により変化します。セカンドオピニオンの重要性も増しており、その求めにも可能な限り対応いたします。

また患者様からのご希望で他専門医へのセカンドオピニオンを求められる際には、紹介状を準備します。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年5月1日現在

	月	火	水	木	金
初診、再診	黒田	藤野	黒田 志村	谷脇 塚本	水谷 大西

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
再生不良性貧血	骨髓検査、染色体分析、フローサイトメトリー、 遺伝子検査、 免疫抑制療法（抗胸腺細胞グロブリン、シクロスポリン）、 蛋白同化ホルモン療法、TPO受容体作動薬同種造血幹細胞移植	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院
鉄欠乏性貧血	原因精査（消化管検索、子宮筋腫）、鉄剤内服	外来診療
その他の貧血	骨髓検査、染色体分析、フローサイトメトリー、 鑑別診断	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院
急性白血病	骨髓検査、染色体分析、フローサイトメトリー、 遺伝子検査、化学療法、自家造血幹細胞移植、 同種造血幹細胞移植、分子標的薬、CAR-T細胞療法	救急入院 JALSGプロトコール参加登録可能
慢性白血病	骨髓検査、染色体分析、フローサイトメトリー、 遺伝子検査、化学療法、分子標的療法、 同種造血幹細胞移植	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院 JALSGプロトコール参加登録可能
その他の骨髓増殖疾患	骨髓検査、染色体分析、フローサイトメトリー、 遺伝子検査、化学療法、 同種造血幹細胞移植	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院
骨髓異形成症候群	骨髓検査、染色体分析、フローサイトメトリー、 遺伝子検査、化学療法、アザシチジン、エリスロポエチン製剤 同種造血幹細胞移植	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院 JALSGプロトコール参加登録可能
悪性リンパ腫	リンパ節生検、染色体分析、フローサイトメトリー、 遺伝子検査、 病期決定のための検査（CT、MRI、PET） 化学療法、分子標的療法 自家造血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植、CAR-T細胞療法	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院 がん薬物療法部と協力し可能な限り外来で治療 JCOGプロトコール参加登録可能
多発性骨髄腫	骨髓検査、染色体分析、フローサイトメトリー、 遺伝子検査、PET全身骨レントゲン、免疫電気泳動 化学療法、プロテアソーム阻害剤、免疫調節薬、 抗体療法 自家造血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植、CAR-T細胞療法	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院 JCOG、日本骨髄腫学会 各プロトコール参加登録可能
特発性血小板減少性 紫斑病	ヘリコバクターピロリ菌の検索、除菌治療 副腎皮質ホルモン、脾摘、免疫抑制療法、 γグロブリン大量療法、TPO受容体作動薬	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院
その他の出血性疾患 凝固異常疾患	鑑別診断	外来診察後入院or外来診療 必要に応じて救急入院

2023年度診療実績

延べ入院患者 10,730人 平均在院日数 16.4日
新規入院 542人 外来 11,674人

府立医大 血液内科 医局 TEL 075-251-5740 FAX 075-251-5743

救急対応 内科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）
救急外来 TEL 075-251-5645・5646

膠原病・リウマチ・アレルギー科

■ スタッフ紹介



診療部長
川人 豊
病院教授(S62)
臨床免疫学

ここの 正孝 講師 (H5)
河野 妹尾 助教 (H14)
せの 藤井 病院助教 (H17)
ふじい 藤岡 病院助教 (H19)
ふじおか 木田 病院助教 (H20)
きだ 笠原亜希子 病院助教 (H22)
かさほら 神尾 病院助教 (H22)

いのうえ ひろのり 医員 (H27)
井上 柳田 医員 (H27)
やなぎだ しまだ 医員 (H29)
きたい 北井 医員 (H30)
ふじえだ 藤枝 医員 (H31)
しのはら 篠原 医員 (R4)
なかやま 中山 医員 (R4)

■ 私たちの業務

◆ 幅広い疾患スペクトルの疾患に対応

Common Diseaseとしての関節リウマチなどの関節炎、古典的膠原病、感染症に伴う免疫異常など、日常臨床で遭遇し、診断に迷うことが多い免疫疾患を疑わせる疾病全般について、経験豊富な専門医が診断、治療を行います。

◆ 他科との関係による集学的治療

膠原病、関節リウマチは全身性疾患であるため、内科の各専門分野や整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科などと連携して診療を進めます。

◆ 納得の医療

患者さんやその御家族に十分な情報提供と選択肢の提示を行い、納得の得られる透明性の高い診療を目指しています。セカンドオピニオンにも対応します。

◆ 最新の治療法の適応

大学病院としてエビデンスに基づく有効性の高い治療を進め、生物学的製剤を含む分子標的薬も積極的に使用しております。また臨床治験も行っております。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診	川人(午前)／ 柳田(午後)	妹尾	河野	妹尾	河野
	笠原	神尾	木田	藤井	嵐田
リウマチセンター	井上	藤岡	藤枝	川人	北井

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
関節リウマチ（RA）	関節のX線、超音波、MRI検査と血液学的検査を組み合わせ、早期リウマチの診断を行い、多種の抗リウマチ薬剤を各個人について適応を検討した上で、適切な治療を行います。また、リハビリテーション、手術による局所治療については、整形外科と協力して診療を行います。	生物学的製剤を含む分子標的薬については府内でも随一の使用経験があります。有効性の期待される臨床治験にも積極的に参加しています。
全身性エリテマトーデス（SLE）	臓器症状が多様なため、自己抗体や補体などの血清学的検査のみならず、CT、MRIなど多種の検査を行い総合診断します。ステロイドや免疫抑制剤、必要に応じて血漿交換や免疫吸着療法を行います。腎臓合併症では腎臓内科と共に組織的診断を行います。	初発時や増悪時は入院加療、後は外来で維持療法を行います。ループス腎炎難治例についても、免疫抑制剤や生物学的製剤の使用で腎炎の改善が得られるようになっていきます。
皮膚筋炎／多発性筋炎（DM/PM）	神経内科、皮膚科と共に、筋生検、筋電図、皮膚生検を施行し診断の上、ステロイドや免疫抑制剤での治療を行います。	初発時や増悪時は入院加療、後は外来で維持療法を行います。皮膚症状・筋症状・間質性肺炎の重症度に応じて免疫抑制剤を選択しています。
全身性強皮症（SSc）	必要であれば、皮膚生検を行います。呼吸器、循環器、消化器などの内臓合併症に注意して診療を進めます。	合併症の検索や治療などの入院を除き、外来診療を行います。重症度に応じて生物学的製剤や抗線維化薬などを選択しています。
混合性結合組織病（MCTD）	肺高血圧症に注意し、主にステロイドと血流改善剤などで主病型に応じた治療を行います。	合併症の検索や治療などの入院を除き、外来診療を行います。
血管炎症候群	難治性であり、組織診断を含めた早期の診断と治療が必要です。	初発時や増悪時は入院加療、後は外来で維持療法を行います。重症度に応じて免疫抑制剤を選択しています。
シェーグレン症候群	唾液分泌促進剤や一部免疫抑制剤にて治療を行います。眼科や歯科に併診してもらいます。	他臓器症状の検索や治療などの入院を除き、外来診療を行います。
ペーチェット病	眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科と併診し、総合的治療を行います。	合併症の検索や治療などの入院を除き外来診療を行います。重症度に応じて生物学的製剤や免疫抑制剤などを選択しています。

2023年度診療実績 入院患者数 162人

RA	SLE	筋炎	強皮症	MCTD	血管炎	ペーチェット	SpA	PMR	AOSD	その他
29	26	24	10	0	40	2	4	4	1	22

外来患者数 16,180人（新患者 300人）

府立医大 膠原病・リウマチ・アレルギー内科（内分泌・免疫内科）医局

TEL 075-251-5505 FAX 075-252-3721

ホームページアドレス <https://kpum-1nai.jp/immunity/>

<https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/clinical-departments/rheumatology-and-allergology.html>

救急対応 内科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

脳神経内科

■ スタッフ紹介

かさい たかし	准教授	(H10)	神経変性疾患	こいずみ ひでたか	助教	(H16)	不随意運動
こんどう まさき	講師	(H5)	高次機能	たなかまこと	助教	(H18)	脳卒中
おほら ともゆき	講師	(H11)	脳卒中	もりい ふきこ	助教	(H19)	変性疾患
の と ゆういち	講師	(H15)	神経筋疾患	こじま ゆうた	助教	(H23)	神経免疫疾患
たなか あきひろ	学内講師	(H16)	てんかん	おおや なこ	医員	(H24)	てんかん
いしりょうたろう	学内講師	(H17)	頭痛	ふかざわ りょうすけ	医員	(H26)	頭痛

■ 私たちの業務

◆ 最新の知見を日常臨床へ

日進月歩で知られる医学の世界で特にめざましい進歩を続ける脳神経内科学分野、これにともない私たちの診療もまた、日々変化しています。当科では最新の知見を日常臨床へ迅速かつ慎重に反映させ、“世界トップレベルの医療を地域へ”をモットーに診断・治療を行っています。

◆ 多岐にわたる疾患に対応

脳神経内科学が網羅する疾患は多岐にわたります。認知症、パーキンソン病、脳卒中、筋疾患、末梢神経障害、神経免疫疾患などの神経内科固有の疾患だけでなく、各診療科領域でみられる神経疾患の患者様を多数ご紹介いただいています。

◆ 専門外来の開設

2015年4月からは従来の脳卒中に加えて、「てんかん」「神経免疫」「ボトックス」「頭痛」の4つの専門外来を開設いたしました。

◆ 外来・病棟・救急、シームレスな対応

脳神経内科領域は対象疾患が多岐にわたります。長期にわたる在宅療養の支援から脳梗塞の超急性期血栓溶解療法まで、その診療体制は慢性期から超急性期までをカバーしなければなりません。予約診療によるスムーズな外来、神経機能のモニターや看護が常時可能な多職種チームによる病棟、そして脳神経内科医が24時間待機する救急外来にてあらゆるニーズに対応します。

◆ 充実したCommon Diseaseへの対応

未曾有の「少子高齢化社会」に対応できる脳神経内科をモットーにCommon Diseaseである認知症・頭痛・てんかん・パーキンソン病・脳卒中等の診療へ迅速・的確・最善の治療を提供します。「よくある疾患のようだが気になる」ところがある。」「年に一度は専門医の意見を聞いてみよう。」等のお考えを持たれた場合、かかりつけ医に御相談の上、当科でのセカンドオピニオンをご考慮ください。

◆ リハビリテーションを包括した神経疾患の診療

リハビリテーションは神経疾患を治療していく上で今や必須です。当科では脳卒中等に対する急性期リハビリテーションおよびボトックス治療による慢性期のリハビリテーションを含めた治療計画を提供し、実施しております。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
初 診	石井 能登		尾原 大矢		笠井 田中(章)
再 診	田中(瑛)〈脳卒中〉	笠井〈神経変性〉 田中(章)〈てんかん〉	能登〈神経筋〉 小泉(英)〈ボトックス〉 尾原〈脳卒中〉 大矢〈てんかん〉	近藤〈高次機能〉 森井〈神経変性〉 小島〈神経免疫〉	笠井〈神経変性〉 尾原〈脳卒中〉 小島〈神経免疫〉 深沢〈頭痛〉

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
脳血管障害	神経放射線学的診断、頸動脈エコー 超急性期・急性期治療、慢性期治療	年間100例以上を救急対応し、超急性期治療・tPA 静注療法・血管内治療を含めた治療を行っています。 リハビリ部門と緊密に連携し急性期・回復期のリ ハビリ、専門外来による慢性期治療も行っています。
末梢神経・筋疾患 ギランバレー症候群、慢性炎 症、性脱髄性多発神経根炎、 重症筋無力症、筋炎など	筋電図、神経・筋生検 遺伝子診断、免疫調整療法 血液浄化療法・グロブリン療法	電気生理検査などの検査、病態に応じた治療を行 います。急性疾患やクリーゼ例では救急対応します。 病態に応じてγグロブリン療法血漿交換などによる 治療も可能です。
認知症 アルツハイマー型認知症、レ ビー小体型認知症、前頭側頭 型認知症、正常圧水頭症など	鑑別診断 神経放射線学的評価 高次脳機能評価 初期治療、地域との連携 新薬の治験	認知症年間300例の新患の診断治療を地域連携しな がら行っています。アルツハイマー型認知症の初 期治療および新薬の治験を行っています。
パーキンソン病および類縁疾患	神経放射線学的診断（MRI検査、核 医学検査） 専門的治療	MRI検査、MIBG心筋シンチ、DATスキャンによ る診断、薬物治療を行っています。適宜、新しい診 断法や治験も行っています。
てんかん	神経放射線学的診断 脳波検査 専門的治療	てんかん専門医による専門的治療。 発作時の救急対応
運動ニューロン病 筋萎縮性側索硬化症、進行性 筋萎縮症など	筋電図、神経放射線学的診断 超音波検査 非侵襲的・侵襲的人工呼吸器の導入	鑑別診断、対症療法、地域医療との連携によるケア 患者の希望に沿った人工呼吸管理の導入や胃瘻造設 適宜、新しい治療も行っています。
頭痛 （脳脊髄液減少症を除く）	神経放射線学的検査 専門的アドバイス・治療	頭痛専門医による専門的診断と治療。
多発性硬化症・視神経脊髄炎	神経放射線学的検査 血清学的検査 電気生理学的検査、髄液検査 急性期治療、免疫調整療法	鑑別診断、急性期治療（ステロイドパルス療法、血 漿交換など）、インターフェロンなどによる免疫調 整療法
不随意運動	ボトックス治療	上下肢の痙性、片側顔面および眼瞼けいれん、ジス トニアなどに対する専門的ボトックス治療。
遺伝性神経疾患・希少難病 脊髄小脳変性症、シャルコー・ マリー・トゥース病など	神経放射線学的検査 電気生理学検査、髄液検査 遺伝子検査	脊髄小脳変性症の鑑別診断・対症療法、ケアに対す るアドバイス、シャルコー・マリー・トゥース病、 CADASILの遺伝子診断・新しい治療を行ってい ます。超希少疾患に対する診断および家族へのアドバ イスも行っています。必要に応じて遺伝カウンセリング と連携して診療にあたります。
神経感染症 髄膜炎・脳炎、HAM、プリ オン病、進行性多巣性白質脳 症など	神経放射線学的検査・髄液検査 急性期治療 新薬による治療の試み	髄膜炎・脳炎に対する急性期治療。

2023年度診療実績

入院：平均在院日数 18.9日 新規入院患者数 276人

府立医大 脳神経内科 医局 TEL 075-251-5793・5794 FAX 075-211-8645
 ホームページアドレス <http://www.neurology-kpum.com/>
 脳神経内科外来 TEL 075-251-5013（外来時間帯）
 救急対応 救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

消化器外科

■ スタッフ紹介



診療部長
くぼた けん
窪田 健
准教授 (H6)
上部消化管外科(胃)

ふじわら 藤原 准教授 (H元) 上部消化管 (食道)	おとし 齊 講師 (H9) 上部消化管 (食道・胃)
しおさき 塩崎 講師 (H13) 肝臓・胆道・脾臓	りょう 玲 講師 (H14) 上部消化管 (食道・胃)
もりむら 森村 講師 (H14) 肝臓・胆道・脾臓	ひろたか 博真 講師 (H16) 下部消化管 (大腸)
こにし 小西 講師 (H17) 下部消化管 (大腸)	ともひろ 有祐 講師 (H20) 下部消化管 (大腸)
やまもと 山本 講師 (H21) 肝臓・胆道・脾臓	ありた 有田 講師 (H22) 下部消化管 (大腸)
しみず 清水 助教 (H23) 上部消化管 (胃)	なにし 名西 助教 (H25) 上部消化管 (胃)
いまむら 今村 助教 (H26) 上部消化管 (胃)	ぎょう 木内 助教 (H26) 上部消化管 (胃)
にしべつ 西別府 助教 (H26) 上部消化管 (胃)	
たかや 高畠 助教 (H26) 上部消化管 (胃)	
いづみ 井上 助教 (H26) 上部消化管 (胃)	

■ 私たちの業務

◆ 診療科の紹介

- 14名のスタッフが上部消化管、下部消化管、肝胆脾の各領域に分かれて専門分野の診療を担当しています。
- 消化器悪性腫瘍を中心に診療を行っています。その他、胆石症、潰瘍性大腸炎等の良性疾病、虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔等緊急疾患に対する外科治療も行っています。
- 特に鏡視下手術を積極的に行っており、日本内視鏡外科学会技術認定医9名を中心に多数の腹腔鏡下手術やロボット支援下鏡視下手術を行っています。

◆ 各分野の特徴

☆上部消化管グループ

- 食道癌は年間70例前後の食道切除術を行っています。進行癌に対しては術前化学療法+手術を中心とした集学的治療を行っています。
- 手術術式では、開胸手術と同等のリンパ節郭清を可能とする、腹腔鏡と縦隔鏡を用いた縦隔鏡下食道切除術を独自に開発し、ESD適応外の早期癌、表在癌及び開胸ハイリスク症例を中心に本術式を用いた低侵襲手術を行っています。
- 胃癌は年間50-60例の切除術を行っています。胃癌治療ガイドラインに基づいた治療を基本とし低侵襲手術（腹腔鏡手術、ロボット支援手術）を積極的に導入しています。一方で高度進行癌に対しては審査腹腔鏡検査等を取り入れ、術前後の化学療法、放射線療法を組み合わせた集学的治療を行っています。
- 胃・十二指腸に発生したGISTやその他の比較的悪性度の低い腫瘍に対しては腹腔鏡と上部消化管内視鏡を併用した消化器内科との合同手術（LECS; Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery）を行い、切除範囲を最小限にする工夫をしています。

☆下部消化管グループ

- 小腸、大腸に対する良性疾病、悪性疾病、救急疾患に対する診療を行っています。全身麻酔下の手術件数は約210例程度です。
- 大腸癌に対しては腹腔鏡手術を積極的に行っており、約9割の症例に腹腔鏡手術を行っています。
- 直腸癌に対して早期癌には括約筋直腸切除（ISR）、進行癌には術前化学療法や術前化学放射線療法を行う等、術後成績の向上と肛門温存率の向上に努めています。また、ロボット（da Vinci）支援下の直腸癌・結腸癌手術も保険診療で行っています。
- 潰瘍性大腸炎に対して腹腔鏡下大腸全摘術を積極的に行うほか、クローン病や腸閉塞症に対する手術にも腹腔鏡手術を行っており、良好な成績を報告しています。

☆肝胆脾グループ

- 肝腫瘍は転移性肝癌、肝細胞癌を中心に年間60から70例の切除を行っており、腹腔鏡下肝切除術も導入して低侵襲な治療に努めています。肝細胞癌はガイドラインに従って切除のほか病態に応じた治療を放射線科、消化器内科と協力して行っています。
- 胆道癌、脾臓癌に関しては年間30例前後の手術を行い、周術期の抗癌剤治療など集学的治療を行って血管に浸潤がある場合でも積極的に切除しています。
- 肝胆脾の手術の中でも肝切除や脾体尾部切除の手術にはロボット（da Vinci）支援下手術や腹腔鏡下手術を行っています。
- 当施設は、日本肝胆脾外科学会の定める高度技能専門医3名が所属しており、日本肝胆脾外科学会高度技能専門医修練施設Aに認定されており、また、2名が肝胆脾領域の日本内視鏡外科学会技術認定を取得しており、高難度手術から低侵襲手術まで幅広い手術を行っています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
新 患	担当医	藤原・井上	担当医	窪田	担当医
再 診	高畠（胃）	藤原（食道） 森村（肝胆脾） 有田（大腸） 清水（大腸）	窪田（胃） 山本（肝胆脾） 名西（大腸）	塩崎（食道） 小西（食道・胃） 木内（大腸） 西別府（胃）	今村（肝胆脾）

■ 実際の診療

領 域	疾 患	手 術	全例数	うち腹腔鏡もしくは ロボット支援下手術
食道疾患	食道悪性疾患	食道亜全摘	39	38 (縦隔鏡)
		咽頭喉頭食道摘出	2	0
		食道疾患合計	41	38
胃疾患	胃悪性腫瘍	胃全摘術	3	2
		幽門側胃切除術	25	23
		噴門側胃切除	9	9
	その他の胃疾患		19	18
		胃疾患合計	56	52
小腸大腸疾患	小腸腫瘍	小腸切除術	10	5
	原発性大腸悪性腫瘍	切除術	120	114
	腸閉塞	腸閉塞手術	8	3
	急性虫垂炎、憩室炎	虫垂切除など	9	8
	下部消化管穿孔等緊急手術	腸管切除、ドレナージなど	21	5
	潰瘍性大腸炎、家族性大腸腺腫症	大腸全摘術	1	1
	クローン病		6	4
	その他疾患に対する全身麻酔手術		51	17
		小腸大腸疾患合計	226	157
肝胆膵疾患	原発性肝癌・転移性肝癌	肝切除術	58	41
	胆石症、胆嚢ポリープ	胆嚢摘出術	31	31
	胆道癌、膵腫瘍	膵頭十二指腸切除術	22	
		膵体尾部切除術	23	17
	その他疾患に対する全身麻酔手術		16	2
		肝胆膵疾患合計	150	91

府立医大 消化器外科 医局 TEL 075-251-5527 FAX 075-251-5522
 ホームページアドレス <http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/dgstv-surg/>
 消化器センター 外来 TEL 075-251-5023 FAX 075-251-5025

救急対応 消化器センター外来 TEL 075-251-5023 (平日9～16時)
 救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

心臓血管外科

■ スタッフ紹介



診療部長
小田 晋一郎
教授 (H10)

神田 圭一	准教授 (S61)	血管外科
沼田 智	准教授 (H7)	成人心臓外科・血管外科
川尻 英長	講師 (H18)	成人心臓外科・血管外科
小林 卓馬	助教 (H20)	成人心臓外科・血管外科
眞鍋 嘉一郎	医員 (H20)	成人心臓外科・血管外科
権代 竜郎	医員 (H28)	成人心臓外科・血管外科
中島 智仁	医員 (R2)	成人心臓外科・血管外科
岡本 雲平	医員 (R3)	成人心臓外科・血管外科
夜久 裕亮	医員 (R4)	成人心臓外科・血管外科

■ 私たちの業務

◆ 良好な手術成績

心臓の手術といえば、一般の方々には「命をかけて」手術を受けなければならないととられがちです。しかし、実際には冠動脈バイパス術、弁膜症の手術も1%以下の危険性です。これは全国やアメリカの平均の死亡率（約3%）と比べて低い数字です。しかし、患者様の状態が悪くなってからの緊急手術は危険率が高くなりますので、手術が必要であれば早めの手術をお勧めしています。

◆ 身体に優しい（低侵襲）手術

最近ではどの分野の手術も身体に優しい、いわゆる低侵襲な方法を模索しています。心臓血管外科の分野では一つは冠動脈バイパス術における人工心肺を使用しない心拍動下手術です。十数年前から重症例に限り行っていましたが、最近では冠動脈バイパス術の第一選択になっており、当施設では約800例の患者様に行い、手術中の脳梗塞の発生はゼロであり、手術死亡は0.5%です。最高齢93歳の方に行い、社会復帰されています。もう一つは胸部及び腹部大動脈瘤に対して行うステント・グラフトであり、この方法は血管を露出し、ステントで裏打ちした人工血管をたたみ込んでカテーテルにローディングし、大動脈の患部でアンローディングし人工血管を内挿する方法で、人工心肺を使用せず、手術時間は約2～3時間、手術室で抜管して病棟に帰れます。2015年からは透視装置を備えたハイブリッド手術室が稼働しはじめ症例は増加しています。さらに2016年より心臓大動脈弁を経カテーテルに留置する手術（TAVI）を循環器内科と共同で行っております。

◆ 自己組織を温存する手術

弁膜症の手術、特に僧帽弁の手術では最近では変性疾患による閉鎖不全が増加しています。このような僧帽弁に対してはほとんどの症例で形成術（修復術）が可能で人工弁置換術を回避できます。心房細動がなければワーファリンを中止できますので、患者様の高いクオリティー・オブ・ライフが期待できます。また、右開胸小切開低侵襲心臓手術（MICS）を推進しています。胸骨を切開せず右側胸部に6cm程の小切開を置き、僧帽弁形成術等を行っております。早期退院、社会復帰を実現しています。

◆ 迅速な対応

当科では夜間あるいは日曜・祭日の緊急に対応しております。患者様のご紹介や病気の御相談にご利用ください。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診	沼田〈心臓〉	川尻〈心臓・血管〉	神田〈血管〉	眞鍋〈心臓・血管〉	小林〈心臓・血管〉

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●虚血性心疾患 狭心症・心筋梗塞 左室瘤 中隔穿孔 左室自由壁破裂	冠動脈バイパス術 (心拍動下に行うのが第一選択) 左室形成術 穿孔閉鎖術 左室修復術	循環器内科と連携し、心エコー、心臓カテテル検査等の後、適応があれば手術をします。
●弁膜症 大動脈弁狭窄症 大動脈弁閉鎖不全 僧帽弁狭窄症 僧帽弁閉鎖不全 三尖弁閉鎖不全	大動脈弁置換術、 経力カテテル的大動脈弁置換術 大動脈弁置換術 僧帽弁置換術、形成術 僧帽弁形成術が第一選択 心房細動があればメイズ手術を併用 三尖弁形成術	循環器内科と連携し、心エコー、心臓カテテル検査等の後、適応があれば手術をします。
●心不全	左室形成術 両室ペーシング 補助人工心臓	循環器内科と連携し、心エコー、心臓カテテル検査等の後、適応があれば手術をします。
●収縮性心膜炎	心膜剥離術（人工心肺非使用心拍動下）	循環器内科と連携し、心エコー、心臓カテテル検査等の後、適応があれば手術をします。
●大動脈疾患 胸部大動脈瘤 腹部大動脈瘤	人工血管置換術 スtent・グラフト内挿術(人工心肺非使用) 人工血管置換術 スtent・グラフト内挿術	CT、血管造影を行い適応があれば手術をします。
●末梢血管疾患 閉塞性動脈硬化症	血管バイパス術 (自家静脈、人工血管を使用)・血管内治療	CT、MRI、血管造影を行い適応があれば手術をします。 外来で診察をし、治療します。

府立医大 心臓血管外科 医局 TEL 075-251-5752 FAX 075-257-5910
 ホームページアドレス <http://www.cvs-kpum.com/>

救急対応 循環器センター外来 TEL 075-251-5030 (外来時間帯)
 救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

呼吸器外科

■ スタッフ紹介



副病院長
診療部長
井上 匡美
教授 (H2)
呼吸器外科学

しもむら 下村	まさのり 雅律	准教授	(H14)	呼吸器外科
おかだ 岡田	たつお 悟	学内講師	(H19)	呼吸器外科
ふるや 古谷	たつお 竜男	助教	(H24)	呼吸器外科
なかぞの 中園	ちあき 千晶	医員	(H24)	呼吸器外科
うちほり 内堀	あつき 篤樹	医員	(H28)	呼吸器外科
にしむら 西村	ともき 友樹	医員	(H28)	呼吸器外科
かめやま 亀山	けんじ 堅司	医員	(H29)	呼吸器外科
しめがき 標	れおな 玲央名	医員	(H29)	呼吸器外科
かきふち 垣淵	だいち 大地	医員	(H31)	呼吸器外科
きたむら 北村	え 彩恵	医員	(R3)	呼吸器外科
はなふさ 花房	さき 沙貴	医員	(R4)	呼吸器外科
たかはし 高橋	きょうせい 京聖	医員	(R4)	呼吸器外科

■ 私たちの業務

◆ 多岐にわたる呼吸器外科疾患に対応

増加するさまざまな呼吸器疾患に対して、最新の外科治療を行っています。

肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸、多汗症、炎症性疾患、未確診腫瘍などに対応できるようにしています。また各科との協力による拡大手術や連携手術も行っています。

呼吸器内科、放射線科、臨床病理部が一体となった診療体制を作り、患者様に負担の少ない医療を目指しています。

◆ 胸腔鏡下手術の利用

患者様にはより少ない侵襲で手術が可能のように内視鏡（胸腔鏡）を主に用い、2018年より保険収載された縦隔腫瘍、肺癌に対するロボット支援下内視鏡手術も積極的にを行っています。また、小さな傷でより早いリハビリ開始を行うことにより入院期間の短縮を図っています（平均術後入院期間7日間）。しかしすべての手術において安全性と根治性が優先されるようにしております。

◆ 充実したチーム医療

入院から退院まですべての患者様をチームで管理することになっています。

手術と同様に術後管理における安全管理は外科の重要な項目であり、毎朝の病棟担当医によるカンファレンスを行うことによって患者様の問題点を浮き彫りにし、解決方法を決定しています。

紹介医の手術見学や回診にもチームとして対応し、症例のカンファレンスへの参加も自由に行っています。当然ながら患者様を中心とした医療の連携に努めています。

◆ 学会、研究会活動

原発性肺癌や胸腺腫瘍に対する分子生物学的研究を行っており、臨床応用を目指した研究を行っています。また、積み重ねた症例は次の患者様にお役に立つように検討を重ね、学会などに報告しています。また紹介元の先生方にも役に立てるように臨床結果報告を随時させていただいています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
総合初診	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
1 診		岡田	井上		下村
2 診			古谷		中園

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
肺癌	術前検査として必要なデータ 病理組織診断 気管支鏡下肺生検 CTガイド下肺生検 臨床病期の決定 画像診断 CT、MRI、PETなど 耐術能 心電図、呼吸機能検査、栄養状態など 心臓超音波検査	外来で必要な検査を確認 検査入院 患者様への説明と同意 手術方法（術式）の決定 約10日間の入院
縦隔腫瘍	上記と同様	約10日間の入院 悪性の場合、集学的治療の必要な場合が多い。
重症筋無力症	脳神経内科との検討で手術方針を決定	術前術後の管理が大切 術後の治療は脳神経内科で行う。
転移性肺腫瘍	原発腫瘍の各科との検討 切除術後の状態の確認	手術適応を検討し切除 手術術式によるが約10日間入院
自然気胸	原則的には再発性、左右に既往のある場合 を手術適応とする。	胸腔鏡下手術 約3～5日入院
月経随伴性気胸		ホルモン療法なども考慮する。
手掌多汗症	代償性発汗についての理解が必要	内視鏡下交感神経焼灼術 左右7mmの傷で手術可能 3日間の入院
その他	感染性肺疾患については各疾患別に検討が必要。	

府立医大 呼吸器外科 医局 TEL・FAX 075-251-5739

救急対応 呼吸器センター外来 TEL 075-251-5023（外来時間帯）
救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

内分泌・乳腺外科

■ スタッフ紹介



診療部長
直居 靖人
教授 (H11)
乳腺疾患・
化学療法全般

さかぐち 阪口 晃一	准教授 (H7)	乳腺疾患全般・化学療法全般
もりた 森田 翠	学内講師 (H20)	乳腺疾患全般
かとう 加藤 千翔	助教 (H25)	乳腺疾患全般
まつもと 松本 沙耶	病院助教 (H26)	乳腺疾患全般
もり 森 裕美子	専攻医 (R2)	乳腺疾患全般
とう 湯 麗頼	専攻医 (H29)	乳腺疾患全般
ひろたに 廣谷 凪紗	医員 (H29)	乳腺疾患全般
わたなべ 渡邊 陽	医員 (H26)	乳腺疾患全般
きたの 北野 早映	医員 (H27)	乳腺疾患全般
まつい 松井 知世	医員 (H27)	乳腺疾患全般

■ 私たちの業務

◆ 乳腺疾患のトータルケア

私たちは、乳腺に関する様々な疾患の治療に取り組んでいます。
特に乳癌治療に関しては最新のEBMを取り入れ、かつ、インフォームド・コンセントを最重視したオーダーメイド治療を目指しています。

◆ センチネルリンパ節生検 (SLNB : Sentinel Lymph Node Biopsy)

センチネルリンパ節生検は乳癌手術時の腋窩リンパ節郭清に伴う術後のリンパ液貯留、上肢の運動障害、リンパ浮腫を回避し、患者様の高いQOLを実現します。

当科では、その適応を乳癌の術前診断時の腋窩リンパ節転移陰性乳癌症例 (cN0) とし、ラジオアイソトープ法と色素法の併用によりセンチネルリンパ節を同定し、OSNA法による高精度の遺伝子レベルの転移判定を実施しています。

◆ 乳房温存手術・乳房再建術

ご病状に合わせて乳房温存手術、乳房切除術を行います。ご希望に応じてローテーションフラップ法による乳房形成、インプラントを用いた乳房再建なども実施しています。

◆ 術前・術後の内分泌療法と化学療法

エビデンスに基づいた化学療法、ホルモン療法を実施しています。トリプルネガティブ乳癌に対する免疫療法、遺伝性乳癌に対する治療も行っています。必要に応じて術前化学療法も実施します。

◆ 手術症例

	乳がん手術症例
2023年	202
2022年	178
2021年	190
2020年	203
2019年	187

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年5月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診	直居・森	森田・北野		阪口・松本	加藤・廣谷
外来化学療法	渡邊			松井	

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
乳癌精密（二次）検診	マンモグラフィ、エコー、細胞診、 コアニードル生検、 画像ガイド下乳腺吸引術 （ステレオ・エコー）	良悪性鑑別に必要な検査は全て実施可能です。
良性疾患 ・線維腺腫 ・乳管内乳頭腫 ・乳腺症・乳腺炎	乳腺腫瘍摘出術 乳腺腺葉区域切除術 経過観察	必要に応じて切除する場合があります。 乳頭分泌を伴う病変に対して行います。
乳癌	乳房同時再建手術 センチネルリンパ節生検 乳房温存手術 全乳腺切除術 ・皮膚温存乳房切除術（SSM） ・乳輪乳頭温存乳房切除術（NSM） 乳房切除術 化学療法・ホルモン療法 再発治療	形成外科と合同で広背筋・腹直筋などの自家組織を用いた再建、インプラントを用いた再建などあらゆる乳房再建に対応いたします。 RI法＋色素法により安全に行います。 乳房を残す手術です。 乳輪・乳頭を切除する場合と温存する場合があります。 乳頭を含めて乳房を取り除きます。 乳癌の性質に合わせて治療を行います。 主として術後に実施しますが、手術前に行うこともあります。 それぞれの患者様の状況に応じて、QOLを重視した適切な集学的治療を行います。 ※すべての手術は健康保険が使えます。
乳癌全般	セカンドオピニオン （がんセカンドオピニオン外来より受付）	他院で乳癌の診断・治療を受けられた方、進行再発乳がんの治療、転院に関するご相談等承ります。

※多数の患者様のため、初診の場合でも長時間お待ちいただくことが予想されます。

お時間の余裕をもってお越しいただきますようお願いいたします。

府立医大 内分泌・乳腺外科 ホームページアドレス <https://www.kpumbreast.com>

救急対応 外科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）
救急外来 TEL 075-251-5645・5646



形成外科

■ スタッフ紹介



診療部長
ぬまじり としあき
沼尻 敏明
病院教授 (H8)
口唇裂・口蓋裂、
顔の外科、顔面
神経麻痺、
乳房再建

かわらざきあやこ
河原崎彩子

講

師

(H14) ケロイド、難治性皮膚潰瘍、手足、PRP多血小板血漿による再生医療、レーザー治療

なかむら ひろこ
中村 寛子

病

院

助 教 (H15) レーザー治療

よしざわ なな
吉澤 菜々

(H30) 顔面外傷、形成外科一般

たなか だいき
田中 大基

(H31) 形成外科一般

せきもと しゅうへい
関本 周平

(R3) 形成外科一般

ひろせ あい
廣瀬 愛

(R3) 形成外科一般

かしい ゆい
柏井 結

(R3) 形成外科一般

■ 私たちの業務

◆ 幅広い疾患に対応

取り扱っている疾患は外傷、腫瘍（および切除後の再建）、先天異常、美容と多岐にわたり幅広いニーズに対応することができます。

◆ 総合的医療を目指しています

形成外科は単に形態のみを追求する科ではありません。例えば口唇裂・口蓋裂の治療においては言語、咬合、外観が問題点となりますが、当科では言語聴覚士による言語専門外来、歯科の協力のもとに歯科矯正治療を取り入れた総合的治療を行っています。小耳症、手足の先天異常についても同様の方針で診療を行っています。

◆ 整容性を最大限配慮した外科治療

体表の傷口や変形を、確実に・きれいになおすことを念頭に治療にあたっています。

一般的な皮膚腫瘍の摘出や先天奇形に対する形成においても、できるだけ目立たず、小さい傷におさまるよう最大限工夫を行っております。

◆ 受傷時から後遺障害に至るまでの一貫した治療

顔面外傷では顔面骨骨折、顔面神経損傷、耳下腺損傷、眼窩、眼瞼損傷などを受傷時から総合的に診断治療します。これらの見落としは顔面変形や唾液瘻、複視、眼瞼運動機能障害をもたらします。瘢痕拘縮など後遺障害に対してもQOL改善に全力を尽くしています。

◆ 形成外科的特殊手技を用いた治療

形成外科では外科一般手技、例えば単なる皮膚縫合に関しても、より傷が目立たないような工夫を行っています。また、マイクロサージャリー（手術用顕微鏡を用いた手術）による微小血管吻合、神経縫合、リンパ管静脈吻合、遊離組織移植や皮弁、植皮、組織拡張器（tissue expander）を用いた特殊な方法によって、よりよい整容性・機能性を目指した治療を行っています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
初 診	沼尻・関本・田中	河原崎・田中・柏井	河原崎・中村	沼尻・田中	沼尻／吉澤
専門外来	乳房再建		レーザー治療 PRP再生医療 難治性潰瘍		口唇裂・口蓋裂、 言語聴覚士外来

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●外傷 顔面骨折 顔面軟部組織損傷 熱傷	鼻骨、眼窩底、頬骨、上顎骨、下顎骨骨折 顔面神経損傷、涙管損傷局所熱傷、全身熱傷	全ての顔面骨骨折に手術を含めて対処します 顔面神経縫合、涙管吻合後遺症の予防まで考慮した治療
●先天異常 口唇裂・口蓋裂 その他の奇形	口唇裂、顎裂、口蓋裂 術後口唇・鼻変形小耳症、埋没耳、副耳、手足合指症	哺乳指導・言語・歯科矯正治療を含めた総合的治療を行います。口唇・鼻修正術 軟骨フレームによる耳介再建術、手足指形成
●腫瘍 良性皮膚腫瘍 悪性皮膚腫瘍	粉瘤、脂肪腫、母斑、血管腫など 基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫、ボーエン病、パージェット病など	外来手術にて対応可能です。よりよい整容性を求めた手術を行います。
●腫瘍切除後組織欠損 頭頸部 体幹	頭蓋骨・頭皮欠損、上顎・下顎欠損、気管欠損、眼球・眼窩欠損、その他顔面軟部組織欠損、乳房欠損、胸壁欠損、腹壁欠損	マイクロサージャリーを用いた遊離複合組織移植、義眼床再建、皮弁・組織拡張器を用いた乳房・胸壁・腹壁再建
●美容	あざ、しみ、血管腫 眼瞼下垂、睫毛内反・外反など	最新レーザー機器を駆使した治療 傷が目立ちにくい手術を行います。
●瘢痕・ケロイド	術後醜状瘢痕、ケロイド	各種保存療法から手術・放射線療法まで症状にあわせて対応します。
●難治性潰瘍	褥瘡・下肢潰瘍	褥瘡の手術治療を行います。 下肢潰瘍では、PRP多血小板血漿による再生医療を行っています。
●その他	陳旧性顔面神経麻痺、リンパ浮腫など	遊離組織移植による顔面動的再建、リンパ管静脈吻合など

2023年 手術実績 710件

外傷	先天異常	腫瘍	瘢痕拘縮	難治性潰瘍	炎症疾患	その他	レーザー治療
9件	84件	196件	30件	97件	9件	7件	278件

府立医大 形成外科 医局 TEL 075-251-5730

ホームページアドレス <https://prs-kpum.jp/top.html>

救急対応 外科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

脳神経外科

■ スタッフ紹介



診療部長
はしもと なおや
橋本 直哉

教授 (H2)
脳腫瘍
脳血管障害
小児
機能的疾患

たつざわ 立澤	かずのり 和典	准教授	(H6)	間脳・下垂体腫瘍
たかはし 高橋	よしひこ 義信	講師	(H7)	脳腫瘍・脳血管障害
なんど 南都	まさたか 昌孝	講師	(H9)	脳血管障害・脳血管内治療
やまなか 山中	たくみ 巧	講師	(H10)	小児疾患・脳腫瘍
まるやま 丸山	だいすけ 大輔	助教	(H14)	脳血管障害・脳血管内治療
うめばやし 梅林	だいすけ 大督	助教	(H17)	脊椎脊髄疾患・機能的疾患
たにやま 谷山	いちた 市太	助教	(H18)	脳腫瘍・脳血管障害
かわべ 川邊	たくや 拓也	客員講師	(H10)	脳腫瘍・ガンマナイフ
おがわ 小川	たかひろ 隆弘	医員	(H19)	脳腫瘍・脳血管障害
ながい 永井	としき 利樹	医員	(H25)	脳神経外科一般
にしい 西井	しょう 翔	医員	(H26)	脳神経外科一般

■ 私たちの業務

◆ “Time is Brain”：超急性期の診断と治療に対応します。

脳神経外科の特色のひとつは脳血管障害（脳卒中）や頭部・脊椎外傷（神経外傷）などの救急医療にあります。より高度な診断治療を要する重症クモ膜下出血や脳塞栓症および神経外傷に、迅速かつ精確に対応し、救命率の向上にのみならず機能予後の改善を図っています。現在6床の脳卒中ケアユニット（SCU）が稼働しており、脳卒中チームの医師がSCUホットラインを通じて24時間、365日にわたり救急対応しています。

◆ 重症・難治性疾患における根治的治療と機能予後の改善

難治性の神経膠腫（グリオーマ）、小児腫瘍や頭蓋底疾患に対して、神経外視鏡・内視鏡、ナビゲーションシステムや各種モニタリングといったハイテク・IT機器を駆使して、高度な手術手技を基盤とする積極的な外科治療を施行し、疾患の根治性と機能予後を高めています。関連診療科と連携協調して治療後の生活（QOL）及び仕事（QOW）の質の向上を図った診療を行っています。

◆ 脳を守って活かす治療：無症候例・軽症例に対する予防治療

最近では脳ドックの普及により、無症状で偶然に発見される髄膜腫などの脳腫瘍や、脳動脈瘤、脳梗塞が増えています。私たちは病態の自然経過やPET検査から腫瘍の増殖能や脳循環予備能などを的確に未来予測し、患者さんの年齢や社会生活を加味して治療時期や治療方針を個別的に決定、オーダーメイド医療を実現します。

◆ 科学的根拠に基づいた医療（EBM）と物語・対話による医療

最新の大規模臨床試験の結果を踏まえた世界標準の医療を基盤としながら（EBM）、私たち独自の治療経験、研究結果の蓄積を加え、患者さん個人の背景や生活様式に応じた対話による医療を提供し、優れた治療成績を得ています。

私たちの社会的役割は、国内の脳神経外科施設が整いつつある今日、より専門性の高い最先端高度医療を提供し、関連診療機関と交流を図りながら地域に信頼される診療を確立することにあります。スタッフ全員の知識・技術力、専門性、さらには人間性を向上させ、チーム医療によってより安全な診療を実現します。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
初 診	橋本 〈脳腫瘍・小児・血管障害・機能的疾患〉	立澤 〈下垂体疾患・機能的疾患〉	橋本 〈脳腫瘍・小児・血管障害・機能的疾患〉	高橋 〈脳腫瘍・脳血管障害〉	山中 〈小児・脳腫瘍・血管障害〉
再 診	南都 〈脳血管障害〉 川邊 〈ガンマナイフ・脳神経外科一般〉	梅林 〈脊椎脊髄疾患・痛みの外科／痙攣〉 小川 〈脳神経外科一般〉	立澤 〈脳神経外科一般〉	丸山 〈脳血管障害〉 谷山 〈脳神経外科一般〉	永井／西井 〈脳神経外科一般〉

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●脳腫瘍 脳原発悪性腫瘍 転移性脳腫瘍 良性腫瘍	・CT、MRI、PET、脳波 →開頭手術、放射線治療（陽子線含む）、化学療法、免疫療法、電場療法などの集学的治療 →開頭手術、定位放射線治療（ガンマナイフ）、全脳照射 →開頭手術（内視鏡手術を含む）、放射線治療	・手術はナビゲーションシステム、蛍光誘導手術、覚醒下手術、各種モニタリングを駆使して、安全に腫瘍を摘出します。 ・原発巣の治療科と連携し、頭蓋内転移巣を制御します。
●脳血管障害 くも膜下出血 未破裂脳動脈瘤 脳内出血 脳梗塞 内頸動脈狭窄 脳動静脈奇形 硬膜動静脈瘻	・CT、MRI、脳血管撮影、超音波検査、脳血流シンチ、 →血管内手術、開頭手術 →内科的治療、開頭手術、内視鏡手術 →内科的治療、血栓回収術、ステント留置術 →血管内手術、開頭手術、放射線治療	・脳神経内科や救急科と連携し脳卒中に対し迅速に対応します。 ・未破裂脳動脈瘤や内頸動脈狭窄に対する脳卒中予防の治療も積極的に行っています。 ・血管内手術を積極的に行っています。 ・早期から回復期リハビリテーションを行います。
●頭部外傷（神経外傷） 急性硬膜外出血 急性硬膜下出血 慢性硬膜下血腫	・CT、MRI、脳波、高次脳機能検査 →急性期薬物治療、開頭血腫除去術、外減圧術、リハビリテーション →穿頭血腫洗浄術（局所麻酔下）	・救急科と連携し、速やかに対応致します。重症例は緊急入院の上、頭蓋内圧モニタリングなどを駆使して神経集中治療を行います。
●小児疾患 脳腫瘍 水頭症 脊髄髄膜瘤 脊髄脂肪腫 キアリ奇形 頭蓋縫合早期癒合症 もやもや病	・CT、MRI、脳波 →開頭手術 →シャント手術、内視鏡手術 →閉鎖術 →摘出術 →大孔減圧術 →頭蓋形成術 →バイパス手術	・あらゆる小児疾患に対応いたします。 ・手術ではナビゲーションシステム、各種モニタリングなどを駆使し安全に行います。 ・小児科や小児外科と連携して集学的治療を行います。
●脊椎・脊髄疾患 頸椎症性脊髄症・神経根症 腰部脊柱管狭窄症 腰椎すべり症 頭蓋頸椎移行部疾患 脊髄・脊髄腫瘍	・動態レントゲン、CT、MRI →薬物治療、前方固定術、椎弓形成術、後方固定術 →摘出術、放射線治療、化学療法	・神経症状と画像検査から手術部位を決定し、検査結果から多数ある除圧術・固定術のうち最適な方法を選択します。 ・腫瘍の種類に応じて適切な治療方針を決定します。手術は顕微鏡下の脳の手術と同じ精度で行います。
●機能的疾患 顔面けいれん 三叉神経痛 難治性疼痛 てんかん 不随意運動症 痙攣	・MRI、脳波、その他の生理検査 →薬物治療、微小血管減圧術 →脊髄刺激、脳深部刺激術 →選択的扁桃体海馬切除術、焦点切除術 →脳深部刺激術 →バクロフェンポンプ留置術	・病態に応じて薬物治療と手術加療を行います。 ・薬物治療には種々の鎮痛剤や抗てんかん薬、ボツリヌス治療などがあります。

2023年 手術実績（下段は2022年）

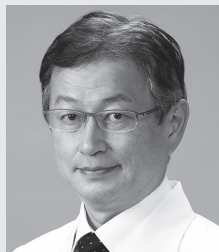
脳腫瘍手術	脳血管障害 （うち血管内治療）	外傷	小児疾患	脊椎・脊髄	機能的手術 （神経減圧術、他）
102	64 (51)	26	38	39	14
80	65 (48)	8	40	37	11

府立医大 脳神経外科 医局 TEL 075-251-5541 FAX 075-251-5544
 ホームページアドレス <https://neurosurgery-kpum.jp>

救急対応 脳神経外科 TEL 075-251-5013（外来時間帯）
 救急外来 TEL 075-251-5645・5646

整形外科

■ スタッフ紹介



診療部長
たかはし けんじ
高橋 謙治
教授 (H2)
関節外科
(股関節)

たかはし けんじ 高橋 謙治	教授 (H2)	関節外科 (股関節)
いこま かずや 生駒 和也	准教授 (H8)	関節外科 (足の外科)
しらい としはる 白井 寿治	准教授 (H8)	骨軟部腫瘍
おだ りょう 小田 良	講師 (H9)	リウマチ外科・手・末梢神経外科
ながえ まさてる 長江 将輝	講師 (H9)	脊椎・脊髄外科
てらうち りゅう 寺内 竜	講師 (H10)	骨軟部腫瘍
おか よしのぶ 岡 佳伸	講師 (H11)	小児整形・外傷
いのうえ あつお 井上 敦夫	講師 (H11)	関節外科 (膝関節)
とのむら ひとし 外村 仁	講師 (H13)	脊椎・脊髄外科
つちだ しんじ 土田 真嗣	講師 (H16)	手・末梢神経外科
いしだ まさし 石田 雅史	講師 (H14)	関節外科 (股関節)
ほりえ なおゆき 堀江 直行	講師 (H14)	難治・病的骨折
きだ よしかず 木田 圭重	講師 (H16)	関節外科 (肩関節)
すけなり つとし 祐成 毅	助教 (H20)	関節外科 (肩関節)
はやし しげき 林 成樹	助教 (H20)	関節外科 (股関節)
おおくぼ なおき 大久保直輝	助教 (H21)	骨粗鬆症、リウマチ外科
いしばし ひでのぶ 石橋 秀信	助教 (H21)	脊椎・脊髄外科
まつうら ひろたか 松浦 宏貴	助教 (H23)	難治・病的骨折

■ 私たちの業務

◆ 多岐にわたる運動器疾患を総合的に診療します。

取り扱う疾患は関節疾患(股・膝・足・肩・肘など)、脊椎・脊髄疾患、骨・軟部腫瘍、小児整形、手・末梢神経外科、関節リウマチ、骨粗鬆症、骨折およびスポーツ整形など多岐にわたります。それに加え、加齢に伴う疾患の増加やスポーツ人口の増大による幅広い年代層のスポーツ障害など疾患構成も複雑化しています。また、ひとりひとりの幸福に対する考え方は多様化していますので、私たち整形外科のスタッフは、このような多様な価値観を尊重した医療を心掛けています。

◆ 専門外来制で安心と納得の最先端医療を提供します。

一流の専門スタッフにより、患者さんが納得し安心できる医療を行っています。さらに関節リウマチや骨粗鬆症などに代表される他科との連携、手術後に代表されるリハビリテーション部との連携、さらに地域の診療所・病院との連携など、広いつながりを重視した最善の医療を提供しています。ご紹介には紹介状をご作成いただき、担当医師の初診外来曜日(下記)の受診をお願いいたします。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
初診外来	高橋・長江・木田・ 林・石橋	寺内・土田・松浦	石田・祐成	生駒・外村	白井・小田・井上
再診外来 (予約制)	寺内(骨軟部腫瘍) 林(股関節) 石田(股関節) 岡(小児整形外科センター) 和田(小児整形外科センター)(初診)	白井(骨軟部腫瘍) 井上(膝関節) 大久保(リウマチセンター)	長江(脊椎) 石橋(脊椎) 土田(手・神経) 祐成(肩関節) 和田(小児整形外科センター)	松浦(難治・病的骨折) 林(股関節) 小田(リウマチセンター)	生駒(足・足関節) 外村(脊椎) 木田(肩関節) 大久保(骨粗鬆症)(午後) 岡(小児整形外科センター)(初診)

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
股関節クリニック	大腿骨頭壊死症 変形性股関節症 寛骨臼形成不全症	大腿骨頭回転骨切り術や弯曲内反骨切り術、寛骨臼回転骨切り術などの関節温存手術を行っています。 また人工股関節全置換術も数多く行い早期の退院を目指しています。
脊椎・脊髄クリニック	頸椎症性脊髄症 腰部脊柱管狭窄症 椎間板ヘルニア 脊椎・脊髄腫瘍、側弯	内視鏡や顕微鏡視下手術を取り入れ、独自の低侵襲手術法を開発しています。側弯の矯正をはじめ、各種固定術も行っています。
骨・軟部腫瘍クリニック	骨軟部腫瘍	悪性腫瘍に対して化学療法と手術療法による集学的治療を行い多くの症例で良好な治療成績を得ています。
小児整形外科クリニック (小児整形外科センター)	发育性股関節形成不全(先天性股関節脱臼) ペルテス病 先天性内反足	小児の整形外科的疾患の保存療法と手術療法に取り組んでいます。最新の創外固定器を使用した脚延長術に力を入れています。
膝関節クリニック	変形性膝関節症 靱帯損傷	近年は膝周囲骨切り術を積極的に行っています。人工膝関節置換術、鏡視下靱帯再建術も従来通り取り組んでいます。
足の外科クリニック	外反母趾 靱帯損傷 変形性足関節症	病態に応じて保存療法および骨切り術や人工関節などの手術療法を多数実施しています。
手の外科クリニック	腕神経叢損傷・末梢神経障害 多指症 腱損傷	神経の再生を含めて、手の機能回復を主眼とした治療を行っています。
肩関節クリニック	投球障害肩 腱板損傷 反復性肩関節前方脱臼	内視鏡視下手術をはじめ、最新の低侵襲手術を取り入れています。投球障害肩には競技復帰をめざしたコンディショニング指導も行っています。
リウマチクリニック (リウマチセンター)	関節リウマチ 膠原病に伴う骨関節障害	関節リウマチの薬物療法だけでなく、積極的な機能温存を目指した手術療法やリハビリテーションにも取り組んでいます。
難治・病的骨折クリニック	難治・病的骨折 外傷	治療に難渋している骨折や骨転移による病的骨折などを中心に治療を行っています。
骨粗鬆症クリニック	原発性骨粗鬆症	正確な診断に基づいて薬物療法を中心とした最新の治療法を行っています。
スポーツクリニック	関節外傷 靱帯損傷	関節鏡視下手術を中心にスポーツ外傷、障害の治療を行っています。

より円滑な診療のために ◆お願い◆

- 1) 初診の患者さんは原則として紹介状をご持参ください。
- 2) 初診の患者さんは当日の初診担当医が診察させて頂くことになりますので、特定医師あての紹介状をお持ちの場合はその医師の初診担当医の曜日に御受診ください。出番は臨時で変更することもございますので電話にてお確かめ頂くことをおすすめいたします。
- 3) 再診（専門）外来は予約制となっております。
- 4) 当科受診のお問い合わせは整形外科外来（075-251-5016）まで、なるべく午後2時から4時お願いいたします。
- 5) 多くの紹介患者様が来院され、やむを得ず長時間お待ちになる場合がございますので、ご了承ください。
- 6) 治療の円滑化のため、検査・治療などを関連病院で行う場合がございますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

府立医大 整形外科 医局 TEL 075-251-5549
救急対応 整形外科 TEL 075-251-5016（外来時間帯）
救急外来 TEL 075-251-5645・5646

産婦人科

■ スタッフ紹介



診療部長
森 泰輔
教授 (H13)
婦人科腫瘍、
生殖内分泌

藁谷 深洋子	准教授	(H14) 周産期
寄木 香織	講師	(H16) 婦人科腫瘍
伊藤 文武	講師	(H20) 女性ヘルスケア、内視鏡手術
前田 英子	学内講師	(H12) 女性ヘルスケア、遺伝性疾患
田中 佑輝子	学内講師	(H19) 周産期、子宮内膜症
古株 哲也	学内講師	(H20) 婦人科腫瘍
片岡 恒	学内講師	(H20) 婦人科腫瘍、生殖内分泌
沖村 浩之	助教	(H22) 生殖内分泌、不妊症
垂水 洋輔	助教	(H24) 婦人科腫瘍、生殖内分泌
志村 光揮	助教	(H24) 周産期
田原 菜奈美	病院助教	(H24) 女性ヘルスケア
楠木 泉	教授 (看護学科) (H3)	子宮内膜症、内視鏡手術

■ 私たちの業務

産科領域

◆ 総合周産期母子医療センターとして

MFICU（母体・胎児集中治療管理室）3床、NICU9床、GCU12床を配し、365日24時間常に母体／新生児搬送受け入れ体制を整備することで、ハイリスク妊娠に対する専門的治療や母体救命救急医療、高度な新生児医療を提供しております。搬送（母体・産褥）依頼は原則、断らないことをモットーに京都府周産期連携・支援体制の砦となります。ぜひご紹介ください。

◆ 胎児異常の受け入れ

小児科（NICU）はもちろん、小児心臓血管外科、小児外科、小児泌尿器科による専門的治療が充実しており、多くの胎児異常に対応可能です。これら診療科との合同カンファレンスを毎週行っており、妊娠中から密に連携することで出生後のスムーズな治療が実現できています。

◆ プレコンセプションケア外来

コンセプションとは受胎すなわち、新しい命を授かることをいいます。プレコンセプションケアとは、将来の妊娠を考えながら女性やカップルが自分たちの生活や健康に向き合うことです。基礎疾患を持つ女性を中心に多くの診療科と連携しながら、妊娠を許可できるのか、薬剤の調整は必要か、また妊娠／分娩が患者さんにとってどのようなリスクになるのかなどの情報提供を行っています。

◆ 遠隔診断

胎児異常の早期発見のため、遠隔地より超音波画像を転送してもらい、リアルタイムに胎児異常を診断することを試みようとしています。協力していただける施設の先生方には是非ご一報いただきたいと思います。

婦人科領域

◆ 女性の生涯にわたるニーズに的確に答える医療

内分泌疾患（思春期、性成熟期、更年期、老年期）、不妊症・子宮内膜症、良性・悪性腫瘍、性感染症など婦人科疾患の全領域にわたる女性のニーズに的確に答えるため各領域に専門の医師を配置しています。

◆ 思春期から更年期、老年期まで

思春期における月経困難症、月経不順、にきびなど月経に関するトラブルに力を注いでおります。更年期障害の治療はもとより、閉経後加齢によって著しく増加する骨粗鬆症、動脈硬化、認知機能低下を予防的観点から研究し、女性のトータルヘルスケアを行いたいと考えております。

◆ 不妊症・子宮内膜症

当科では治療が難しいといわれる子宮内膜症に対して特殊外来を設けて、月経痛の軽減・不妊治療・チョコレートのお胞の治療など患者様のニーズにあった的確な医療を心がけています。内視鏡の治療はもとより、薬剤療法にも様々な工夫を凝らしております。

◆ 腫瘍外来

子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんなどの婦人科悪性腫瘍に対して、手術療法・抗がん化学療法・放射線療法を中心に、他科とも協力し集学的治療を行っています。

◆ 婦人科遺伝診療外来

産婦人科疾患に限らず、遺伝性腫瘍が疑われる場合は患者およびそのご家族に対して遺伝カウンセリングや遺伝学的検査に関する情報を提供します。検査後のフォローも行います。また、遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）に対してはリスク低減卵巣摘出術も行っています。

※女性医師の外来は、月～金曜日の午前中です。女性医師による診察をご希望の方は、産婦人科外来受付にご希望の旨お伝えください。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月		火		水		木		金	
婦人科	1 診(新患)	森	1 診(新患)	楠木	1 診(新患)	伊藤	1 診(新患)	古株	1 診(新患)	寄木
	2 診(婦人科一般)	片岡	2 診(婦人科一般)	前田	2 診(婦人科一般)	前田	2 診(子宮内膜症)	楠木	2 診(女性ヘルスケア)	伊藤
	3 診(妊娠)	沖村	3 診(婦人科一般)	担当医	3 診(妊娠)	沖村	3 診(プレコンセプションケア)	田中／担当医	3 診(婦人科一般)	青山
	5 診(腫瘍)	寄木	5 診(腫瘍)	森	5 診(腫瘍)	垂水	5 診(腫瘍)	片岡	5 診(腫瘍)	古株
					産婦人科遺伝相談	前田	産婦人科遺伝相談	前田		
周産期	1 診(妊婦健診)	藁谷	1 診(妊婦健診)	田中	1 診(妊婦健診)	藁谷	1 診(妊婦健診)	志村	1 診(妊婦健診)	田中
			午後(胎児外来)	藁谷					午後(胎児外来)	藁谷

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
前置胎盤	超音波、MRI	自己血貯留、全身麻酔による予定帝王切開
常位胎盤早期剥離	超音波	全身麻酔による緊急帝王切開、DICの予防・治療
子宮内胎児発育遅延	超音波、NST、形態異常の検索、MRI	娩出時期の決定、NICUとの連携
一絨毛性双胎・品胎	妊娠早期の膜性診断	TTTSの早期診断、NICUとの連携
胎児形態異常	超音波、MRI、羊水染色体検査	関連各科との連携
内分泌関連 排卵障害 更年期障害 骨粗鬆症 高脂血症 月経困難症	基礎体温、採血ホルモン値測定 問診、一般婦人科診療 骨密度測定、採血 採血 超音波、採血	薬物療法 ホルモン補充療法、漢方薬、サプリメント 薬物療法 薬物療法 内分泌療法、漢方
不妊症関連 子宮内膜症 不妊症	超音波、MRI、採血 基礎体温、採血ホルモン値測定 超音波、子宮卵管造影、 精液検査	薬物療法、腹腔鏡 タイミング指導、排卵誘発、人工授精、 卵管鏡下卵管形成術、体外授精-胚移植
腫瘍関連 子宮筋腫 卵巢腫瘍 子宮頸がん 子宮体がん 卵巢がん など	超音波、MRI 超音波検査、MRI、PET、腫瘍マーカー 腫瘍マーカー、コルポスコピー MRI、CT、PET 上下腹部消化管検査 子宮鏡	子宮筋腫：薬物療法、手術（腹式、腹腔鏡、子宮鏡） 卵巢腫瘍：手術（腹式、腹腔鏡） 悪性腫瘍：手術、抗がん剤治療、放射線療法 緩和ケア 遺伝性腫瘍に関する相談 ロボット支援下手術

2023年診療実績

入院患者数 延べ10,197人 外来：19,541人（新患患者 801人）

分娩総数	帝王切開	良性手術				悪性手術		生殖補助医療	
		開腹	腔式	腹腔鏡*	子宮鏡	開腹	腹腔鏡*	採卵	胚移植
257	144	5	14	284	21	61	30	72	70

* ロボット支援下手術を含む

府立医大 産婦人科 医局 TEL 075-251-5560 FAX 075-212-1265

救急対応 婦人科外来 TEL 075-251-5557（外来時間帯）
 周産期外来 TEL 075-251-5693（外来時間帯）
 救急外来 TEL 075-251-5645・5646

眼科

■ スタッフ紹介



診療部長
そとぞの ちえ
外園 千恵
教授 (S61)
眼科学・角結膜
疾患・眼感染症・
小児眼科

うえの 上野 ひえだ 稗田	もりお 盛夫 おむ 牧	准教授	(H8)	緑内障
あきひで 渡辺 ふくおか 福岡	あきひで 彰英 ひでき 秀記	講師	(H5)	角膜、屈折矯正手術、斜視・弱視
きたざわ 北澤 かまだ 鎌田	こうじ 耕司 か さや花	講師	(H10)	眼形成・眼窩・涙道
たなか 田中 みえ 三重野	ひろし 寛 のひろき 洋喜	助教	(H14)	角結膜
ぬま 沼 こうさく 幸作	か か	助教	(H16)	角膜、円錐角膜
		助教	(H17)	斜視・弱視、ロービジョン
		助教	(H19)	網膜
		助教	(H20)	緑内障
		病院助教	(H24)	網膜

■ 私たちの業務

◆ 角膜再生医療（あたらしい角膜移植術）

当科で2002年に臨床研究を開始した自己（オート）の口腔粘膜による培養上皮シートの移植は2022年1月に国の承認を得ました。2023年より当院での治療を開始しています。また、2013年に臨床研究を開始した、水疱性角膜症を角膜移植ではなく細胞移植により治療する「角膜内皮細胞移植」も今年度より開始します。

◆ トップレベルの専門家集団

角膜、緑内障、網膜、視機能、眼形成を5本の柱とした様々な専門外来があり、あらゆる眼科疾患に最新の治療方法により対応しています。涙液関連眼表面疾患の分野では重症のドライアイ、結膜弛緩症、マイボーム腺疾患に対して、新しい非侵襲的検査法、治療法を開発して的確な診断と治療を行っています。緑内障分野では、最新の検査機器を用いて診断を行い、低侵襲緑内障手術（MIGS）を含めた数多くの緑内障手術を手がけています。網膜分野では、網膜剥離や眼外傷といった緊急疾患の対応はもちろんのこと、27ゲージ硝子体手術の導入によるさらなる低侵襲化、加齢黄斑変性に対する抗血管内皮増殖因子（VEGF）治療や光線力学的療法に積極的に取り組んでいます。視機能分野では近視矯正手術、斜視矯正手術を安全・確実に実施するのみならず、近視の進行予防に取り組んでいます。さらに、多焦点眼内レンズを用いた白内障手術は選定療養で行っています。眼形成分野では、眼瞼下垂や涙道閉塞など眼瞼・眼窩・涙道疾患に対して多数の手術を施行しており、特に眼窩骨折、眼瞼・眼窩腫瘍は全国屈指の症例数を誇っています。

◆ 地域医療機関としての連携

50%の初診患者様は、西日本各地の診療所や病院などからの紹介です。治療には病診連携・病々連携を実践しており、50以上の関連病院と全国にまたがる関係病院をネットワーク化してあらゆる眼科疾患に対応しています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年5月15日現在

		月	火	水	木	金
一般外来	1診 2診	外園 北澤	渡辺 沼	上野 田中	稗田 三重野	福岡 鎌田
専門外来		〈角膜〉 福岡・稗田・上田 木下・稲富・小泉 〈屈折矯正・小児近視治療〉 稗田・中村 〈網膜〉 沼・草田	〈緑内障〉 上野・三重野・ 福澤 〈ロービジョン〉 鎌田	〈網膜・ぶどう膜〉 永田・青木 中野 〈円錐・CL〉 北澤・百武・山岸 〈SJS〉 外園・上田	〈網膜〉 田中・吉岡 福澤 〈眼形成・涙道〉 渡辺・奥（拓） 城野 〈調節〉 中島	〈斜視・弱視〉 中村・中井 〈ドライアイ〉 横井（則）・小室・加藤 蘭村 〈アレルギー〉横井（桂） 〈ロービジョン〉鎌田 〈神経眼科〉奥（英）

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
角・結膜疾患 角膜潰瘍 角膜混濁 角膜ヘルペス 円錐角膜 アレルギー性結膜炎 ドライアイ	原因菌同定／点眼、点滴 細隙灯顕微鏡／角膜移植、レーザー表層切除 生体染色検査／点眼、内服 角膜形状解析／コンタクトレンズ、角膜内リング、紫外線クロスリンキング、角膜移植 抗体価測定／点眼、内服 メニスコメトリー・インターフェロメトリー／点眼、涙点閉鎖術、結膜手術、涙液トボグラフィー	外来で対応、重症の場合は入院 移植は入院、レーザーは外来で対応 外来で対応 水曜日の専門外来で対応 外来で対応、月曜日と金曜日の専門外来で対応 外来で対応、重症例は金曜日の専門外来で対応
緑内障	眼圧測定、視野検査、眼底検査／点眼、手術	外来で対応、重症の場合には火曜日の専門外来にて対応
白内障	視力検査、細隙灯顕微鏡／手術	外来にて対応 手術は外来・入院いずれでも可能
網膜疾患 網膜剥離 黄斑変性 糖尿病網膜症 ぶどう膜炎 視神経炎	眼底検査／手術 眼底検査、蛍光眼底造影／抗VEGF療法、光線力学的療法、レーザー手術 眼底検査、蛍光眼底造影／レーザー手術 眼底検査、血液検査／点眼、手術 視野検査、中心フリッカー／点滴	外来・入院にて対応 外来にて対応 外来・入院にて対応 水曜日の専門外来で対応 外来・入院にて対応
視機能疾患 近視（屈折異常） 角膜形状異常 斜視 弱視	ウェーブフロントセンサー／眼鏡、コンタクトレンズ、屈折矯正手術 角膜形状解析／眼鏡、コンタクトレンズ、手術 両眼視機能検査／眼鏡、手術 屈折検査／眼鏡、アイパッチ、点眼	月曜日の専門外来にて対応 月曜日の専門外来にて対応 外来経由で金曜日の専門外来にて対応 外来経由で金曜日の専門外来にて対応
眼形成疾患 眼瞼下垂 涙道閉塞 眼窩底骨折 眼窩腫瘍 眼瞼腫瘍	挙筋機能検査、前眼部検査／手術 通水検査、涙道造影／手術 CTスキャン／手術 生検または切除・再建術 生検または切除・再建術	木曜日の専門外来にて対応 木曜日の専門外来にて対応 木曜日の専門外来にて対応 木曜日の専門外来にて対応 木曜日の専門外来にて対応

診療実績（関連施設での実施を含む）

白内障	白内障手術1,400件程度	結膜	結膜弛緩症手術100件程度
角膜	角膜移植手術230件程度（内皮移植手術100件程度）	緑内障	緑内障手術480件程度
網膜	網膜硝子体手術850件程度、硝子体内注射1,000件程度	視機能	屈折矯正手術50件程度、斜視手術180件程度
眼形成	眼形成手術1,100件程度		

府立医大 眼科 医局 TEL 075-251-5578 FAX 075-251-5663

ホームページアドレス <http://www.ganka.gr.jp/>

救急対応 眼科外来 TEL 075-251-5040（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

皮膚科

■ スタッフ紹介



診療部長
益田 浩司
 准教授 (H8)
 アレルギー性
 皮膚疾患

浅井 純	講師 (H13)	皮膚腫瘍・皮膚外科
峠岡 理沙	講師 (H14)	アレルギー性皮膚疾患
井岡奈津江	助教 (H13)	皮膚科全般
丸山 彩乃	助教 (H21)	皮膚科全般
在田 貴裕	助教 (H23)	皮膚科全般
中江 真	助教 (H26)	皮膚科全般

■ 私たちの業務

◆ 皮膚疾患全般にわたる総合的診療

皮膚疾患全般の総合的診療を行っています。一般外来、専門外来、外来手術・処置、理学療法、入院加療により、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患、皮膚腫瘍、水疱症、膠原病、感染症などの広い分野の皮膚疾患の治療を行っています。難しい症例については検討会にはかり、全員で議論して、適切な診断、検査、治療ができるよう配慮しています。皮膚疾患全般において常に最新の知見や技術を取り入れて、最善の診療ができるよう努力しています。また、必要に応じ、他科との連携治療を行っています。

◆ 専門外来及び特殊理学療法の充実

一般外来のほかに、アトピー、腫瘍、乾癬、皮膚外科、蕁麻疹、リンパ腫、アレルギーの各専門外来を設け、経験豊富な医師による診療を行っています。また母斑、粉瘤などの小手術を手術予約外来で行っているほかに、アレルギーの検査としてパッチテストやプリックテストを積極的に行っています。紫外線療法では従来から行われてきたPUVA療法に加え、ナローバンドUVB装置も導入しています。

◆ 急な容体の変化にも24時間対応

医療ニーズは健康意識の高まりとともに、高度化・専門化してきています。皮膚科医が24時間待機する当院救急外来では、患者様の急な容体の変化にも24時間対応できる体制を整え、適切な治療を速やかに提供しています。

◆ 入院による治療

入院を要する疾患については、医師、看護師、管理栄養士などによるチームで診療にあたり、毎週火曜日に行われるカンファレンスでは、医局員全員で治療方針につき検討します。また院内他科との関係も密に取り合い、総合的に治療を進めます。皮膚悪性腫瘍をはじめ手術を必要とする疾患、膠原病や自己免疫性水疱症、またアトピー性皮膚炎の教育入院、薬剤アレルギーの精査、乾癬に対するナローバンドUV-B療法導入入院など、幅広く受け入れています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

曜日	月		火		水		木		金	
	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師
皮膚科	初診	在田貴裕 医員	初診	浅井 純 講師	初診	峠岡理沙 講師	初診	益田浩司 准教授	初診	丸山彩乃 医員
	//	服部淳子 医員	再診	中江 真 医員	再診	水谷浩美 医員	再診	中西麻理 医員	再診	高島彩加 医員
	9:00~10:00		//	丸山彩乃 医員	//	弓場千晶 医員	//	井岡奈津江 医員	//	在田貴裕 医員
	再診	横井友紀 医員	//	服部淳子 医員	//	安池里紗 医員	//	高本美智 医員	//	大田梨紗 医員
	//	高満真成 医員	蕁麻疹	益田浩司 准教授						
	膠原病・リンパ腫	鈴木史方里 医員								
	皮膚外科 腫瘍	浅井 純 講師								
(午後)			蕁麻疹 (予約)	益田浩司 准教授						

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●湿疹 アトピー性皮膚炎 接触皮膚炎	特異的アレルギー検査、原因検索（パッチテスト等） 症状に応じた外用療法、内服療法、生物学的製剤等	原因検索や生活指導を積極的に行います。 詳細な問診の上アレルギー検査を実施。
●蕁麻疹	血液検査、特異的アレルギー検査 内服療法、生物学的製剤	必要に応じて原因の検索を行います。蕁麻疹外来（毎週火曜日）
●中毒疹・薬疹 薬剤・感染症によるもの 等	血液・尿検査、皮膚生検、原因薬剤同定検査など 原因の除去、抗アレルギー剤内服、ステロイド剤外用など	薬剤が原因として疑われる場合には、他科とも連携をとり、被疑薬剤の変更等を指導します。積極的に検査を行っています。
●水疱症 主として自己免疫性水疱症（尋常性天疱瘡、類天疱瘡など）	皮膚生検、血中自己抗体定量など ステロイド剤全身投与、免疫抑制剤全身投与、血漿交換	原則として入院で治療を行います。
●炎症性角化症 乾癬、類乾癬、扁平苔癬、毛孔性紅色粒糠疹	皮膚生検、血液・尿検査など 悪化因子の除去、外用療法、レチノイド内服、免疫抑制剤内服、光線療法、生物製剤	光線療法や生物学的製剤を用いた治療を積極的に実施し、症状のコントロールを図ります。 乾癬外来（毎週金曜日）
●膠原病 皮膚筋炎、全身性エリテマトーデスなど	血液検査、皮膚生検など ステロイド治療、難治例には免疫抑制剤併用	症状に応じ、他科とも連携をとり、入院治療を含めた治療を行います。
●皮膚腫瘍	皮膚生検、全身検索 手術、化学療法、放射線療法	入院もしくは外来で治療を行います。 腫瘍外来（毎週月曜日）
●感染症 真菌感染症など	各種真菌検査 外用・内服療法	症状にあわせた抗菌薬で治療します。
●皮膚潰瘍	外用・内服、手術、持続陰圧療法	必要に応じ、入院加療します。
●色素異常症 あざ 色素斑	皮膚生検 冷凍凝固療法・手術療法	

2023年度診療実績

入院患者 253人 外来患者 25,605人（1日平均105人）

府立医大 皮膚科 医局 TEL・FAX 075-251-5586

ホームページアドレス <http://kpum-dermatology.jp/index.html>

救急対応 皮膚科外来 TEL 075-251-5040（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

泌尿器科

■ スタッフ紹介



診療部長
うきむら おさむ
浮村 理
教授 (S63)
前立腺癌・腎癌・
排尿障害・
低侵襲治療

ほんごう ふみや	本郷 文弥	准教授 (H3)	腎癌、腹腔鏡・ロボット手術
おくみ まさよし	奥見 雅由	准教授 (H9)	腎移植、腹腔鏡・ロボット手術、泌尿器悪性腫瘍
ないとう やすゆき	内藤 泰行	講師 (H5)	小児泌尿器、腹腔鏡・ロボット手術
ふじはら あつこ	藤原 敦子	講師 (H11)	女性泌尿器、前立腺癌、排尿障害、腹腔鏡・ロボット手術
しらishi たけし	白石 匠	講師 (H10)	前立腺癌、腹腔鏡・ロボット手術
うえだ たかし	上田 崇	講師 (H12)	精巣腫瘍、前立腺癌、腹腔鏡・ロボット手術
みやした まさつぐ	宮下 雅重	助教 (H20)	前立腺癌、腎移植、ロボット手術
いのうえ ゆうた	井上 裕太	助教 (H21)	尿路上皮癌、小児泌尿器、腹腔鏡・ロボット手術、腎移植
あじき じゅん	安食 淳	助教 (H23)	小児泌尿器、腹腔鏡・ロボット手術
さいとう ゆみこ	齋藤 友充子	助教 (H24)	女性泌尿器、排尿障害、腹腔鏡・ロボット手術

■ 私たちの業務

◆ 専門分野のプロフェッショナル（専門医・指導医）による診療

当科が扱う疾患は癌（腎がん、前立腺がん、膀胱がん、尿路腫瘍、精巣腫瘍など）、排尿障害、小児泌尿器、女性泌尿器、メンズヘルス・男性不妊症、尿路結石、尿路性器感染症など多岐に渡り、女性男性を問わず子供から大人まで受診されます。これらニーズを満たすため、各領域ですべて専門医・指導医を専門外来に配置し、最先端の診療を行っています。これらの専門医・指導医は日本のトップクラスの経験を有し、十分な説明の上、納得のいく診療を提供しています。2023年からは腎移植の手術を泌尿器科で担当し、腎臓内科と協力し新体制を構築しています。

◆ QOLを考えた患者さんに優しい治療

疾患の治療を目標に、身体的負担が少ない低侵襲療法・治療選択肢を積極的に導入し、早期の社会復帰と生活の質（QOL）の維持を図ります。低侵襲な腹腔鏡手術の中でも、前立腺癌手術・腎癌手術に関しては本邦でも有数の手術症例数を持ち手術成績も良好です。最近では女性泌尿器科領域に加え、膀胱尿管逆流症、停留精巣などの小児泌尿器科疾患にもこの技術を取り入れ、特に小児腎癌にはさらに低侵襲な経皮的凍結療法も施行して日本をリードしています。

◆ 高齢の患者さん・女性の患者さんに対応できるスタッフ

高齢化に伴い、たくさんの方が泌尿器科領域における種々の不快な症状を感じておられます。とくに頻尿、排尿困難、尿失禁、性機能障害などは頻度が高く、加齢とともに訴えが増します。このような症状の中には、増加しつつある前立腺癌、前立腺肥大症、過活動膀胱、男性更年期障害など、泌尿器科領域の疾患を原因とする患者さんが含まれています。泌尿器科受診により、これらの疾患が診断できるだけでなく治療法の呈示が可能となります。また、女性の患者さんの中で希望される方に対しては女性医師が可能な限り対応できる体制をとり、尿失禁・骨盤臓器脱にも対応し、先端的な診断・治療に取り組んでいます。

◆ 最先端のがん薬物治療

転移性腎癌に対しては積極的に、新しい薬物療法（分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬療法）を導入しています。さらに、高度先進医療に積極的に取り組んで癌（前立腺癌・腎癌）を標的化して治療し、治療に関連した侵襲を極力減らすよう努めています。膀胱癌に対しては集学的治療の一環として、膀胱内薬物注入療法・標準的化学療法を行うだけでなく患者さんの状態を考慮した治療選択を行っています。また、新規分子標的薬の臨床試験にも参加しています。とくに進行性精巣腫瘍に対しては、治療困難な場合でも先端的手術・先進的化学療法を行っており、全国からの紹介患者さんを多数受け入れています。

◆ 前立腺腫瘍センター

近年の前立腺がん罹患数の増加は著しく、男性の腫瘍性疾患の中で第1位になりました。患者数増加という時代のニーズに専門家がいち早く対応するため、最先端の診断技術を導入し、病態に応じた個々の患者さんに最適な治療選択肢（ロボット手術・陽子線治療・小線源療法・強度変調放射線療法・フォーカルセラピー・PSA監視療法）の提供に努めています。

◆ ダヴィンチ・ロボットによるロボット支援手術

2013年4月より手術支援ロボットを導入し、2020年4月より新たにダビンチX、および、ダビンチXiの2台が稼働しています。ロボット支援手術の最大の利点は、手術の安全性と確実性が改善されることです。現在、ロボット支援腹腔鏡下手術として保険適用となっている前立腺癌に対する前立腺全摘除術、小児腎癌に対する腎部分切除術、浸潤性膀胱がんに対する膀胱全摘除術、先天性水腎症に対する腎盂形成術および骨盤臓器脱に対する仙骨脛固定術をロボット支援手術で実施しています。2024年より国産ロボット Hinotori も導入して手術選択肢を大きくしています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年7月1日現在

	月	火	水	木	金
新患・再診（午前）		浮村			浮村
初診（午前）	白石・上田	本郷・宮下	内藤	白石・上田	藤原
再診（午前）	井上裕太	齋藤	井上魁・河原	安食	多賀
専門外来	〈前立腺腫瘍〉 沖原 (第2週AM) 白石・上田 (PM)	〈小児泌尿器〉 安食 (AM) 内藤 (PM) 〈腎移植〉 奥見 (AM)	〈メンズヘルス〉 辻本・宮崎	〈小児泌尿器〉内藤 (AM) 〈女性泌尿器〉藤原・齋藤 (AM) 〈腎腫瘍〉本郷 (PM) 〈尿路腫瘍〉井上裕太 (PM) 〈前立腺腫瘍〉宮下 (PM) 〈腎移植〉奥見 (AM)	〈前立腺腫瘍〉 白石・齋藤 (AM)・ 藤原 (PM) 〈精巣腫瘍〉 上田(第2・4週:PM) 〈尿路腫瘍〉多賀 (PM)

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●泌尿器癌 腎細胞癌	CT・MRIなどの放射線学的評価・（腹腔鏡、ロボット支援）手術・免疫療法・分子標的療法（進行例）・凍結療法	腎がんに対する治療選択肢として、世界最先端の治療選択肢を提供しています。手術の主流は、腎機能温存と癌制御の両立を図ることが可能なロボット支援腎部分切除術です。最も低侵襲で保険適用のある局所標的化治療としての凍結療法（Cryoablation）は、手術に代わる治療として京都府内はもちろん府外からも多くの患者さんの紹介を得ており、特に高齢であったり、他疾患を患っているなどの理由で、侵襲的治療を回避したい方には朗報です。
膀胱癌	CT・MRIなどの放射線学的評価・内視鏡検査・ロボット支援手術・化学療法（進行例）・免疫療法（進行例）	早期癌には内視鏡手術を施行し、補助療法として膀胱内薬物注入療法を施行しています。局所進行癌にはロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術を実施しています。有転移症例や手術不能症例には化学療法・免疫療法を行います。可能な限り外来で施行し患者負担の軽減に努めています。
腎盂尿管癌	CT・MRIなどの放射線学的評価・内視鏡検査・腹腔鏡手術・化学療法（進行例）・免疫療法（進行例）	標準的治療として腹腔鏡下根治的腎尿管全摘除術・リンパ節郭清術を施行しています。
前立腺癌	前立腺針生検（MR/US画像融合技術）・超音波検査・CT・MRI・核医学検査などの放射線学的評価 ロボット支援手術・内分泌療法・陽子線治療・放射線療法（外照射、小線源療法）・化学療法・監視療法・癌標的化治療	世界最先端の診断・病期診断・治療に取り組んでいます。診断・病期診断の質は治療成績に直結する課題であり、その充実が当科の良好な治療成績の理由の一つになっています。確定診断の為に前立腺針生検は、癌の空間的位置と性状を正確に特定できるMRIと超音波との融合生検を世界に先駆けて導入しています。癌の制御を第一とし、かつ生活の質の維持も重視した治療選択肢として、即時治療を要しない場合にはPSA監視療法を、また根治療法としてロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術及び陽子線治療を中心とした放射線治療（外照射・小線源療法）を実施しています。進行性（転移）癌には先進的な薬物治療（ホルモン療法）を提供しています。癌だけを治療し、他の正常な部分の機能を可能な限り温存する癌標的化治療の開発にも取り組んでいます。
精巣腫瘍	CT・MRIなどの放射線学的評価・化学療法（進行例）・機能温存手術	早期癌は精巣摘除のみで治癒が期待できます。進行例には化学療法と射精神 経温存後腹膜リンパ節郭清術を施行し、国内でも有数の治療成績を得ており、全国から紹介患者さんが受診されます。
●腎移植	泌尿器科と腎臓内科とが協力し、術前外来、腎移植術入院、退院後維持期を併診にて管理	生体腎移植の場合 生体腎（ドナー）に対し腹腔鏡下での腎採取術により低侵襲な医療を提供します。 免疫抑制導入療法 免疫グロブリン大量療法および血漿交換による脱感作療法も行い、最先端の腎移植医療を提供します。
●排尿障害 前立腺肥大症 神経因性膀胱	超音波検査など・薬物療法・内視鏡的手術 排尿動態検査・薬物療法など	原則的に薬物療法を施行し、必要に応じて内視鏡的手術などを施行しています。 最新の検査による正確な病状把握の後、可能な限り薬物療法を行います。間欠的自己導尿法の指導・管理も行います。病態に応じて鍼治療や漢方薬も取り入れています。
尿失禁	排尿動態検査・薬物療法・手術	詳細な問診や検査により正確な病状を把握した後、原則的に骨盤底筋体操や薬物療法を実施しますが、症状改善を認めない腹圧性尿失禁の重症例には積極的に手術（TOT手術やTVT手術）を実施しています。短期間の入院で手術加療が可能で治療成績も良好です。
●尿路結石症 腎・尿管結石症	超音波検査・CT・MRIなどの放射線学的評価・体外衝撃波結石破碎術（ESWL）・内視鏡的手術	自然排石されない場合はガイドラインに沿った手術治療を行います。体外衝撃波結石破碎術（ESWL）は原則1泊2日で、内視鏡的手術（TULやf-TUL）は1週間程度入院が必要です。早期の結石破碎治療を希望される方には当科関連病院とも連携し積極的に紹介を致します。
●小児泌尿器科疾患 停留精巣	触診・超音波検査などの画像診断・手術	触知精巣は標準的な鼠径部切開で行い、移動精巣は鼠径部を切開せずに陰嚢部切開のみで固定術を行う方法にも取り組んでいます。非触知精巣は、腹腔鏡による精巣固定術や摘除術など低侵襲な治療法を行っています。
先天性水腎症	超音波検査・核医学検査などの放射線学的評価・手術	創と痛みの少ない腹腔鏡下腎盂形成術を施行し、ロボット支援腹腔鏡下腎盂形成術にも取り組んでいます。
膀胱尿管逆流	超音波検査・膀胱造影などの放射線学的評価・手術	当科において本邦で初めて施行した腹腔鏡下逆流防止術や、内視鏡的逆流防止術に取り組み、良好な成績を得ています。
夜尿症・尿失禁	検尿・超音波検査など・薬物療法・夜尿アラームによる治療	夜尿症ガイドラインに従い治療に取り組んでいます。これまでに多くの患者さんに夜尿アラームによる治療・薬物療法などを実施し、良好な成績を得ています。子供たちの尿失禁にも取り組んでいます。
●アンドロロジー（男性学） 男性不妊症	薬物療法・手術	薬物療法のほか、無精子症に対する精巣内精子回収法や精索靜脈瘤の手術を他病院と連携して行っています。
性機能障害（ED）	カウンセリング・薬物療法	新しい薬物療法はもちろんのこと、血管作動薬などによるED治療および射精障害に対する治療を実施しています。
男性更年期障害	カウンセリング・薬物療法	カウンセリング・男性ホルモンの補充療法などの取り組みを行っています。
●女性泌尿器疾患 骨盤臓器脱	排尿動態検査、内診、MRIなどの放射線学的評価、リングベッサリー、手術	女性における骨盤臓器脱に対しては内診や画像検査による正確な病状把握の後、骨盤底筋体操やリングベッサリーなどの保存的治療の他、メッシュを用いた手術（膈からアプローチするTVM手術や腹腔鏡で腹部からアプローチする腹腔鏡下仙骨脛固定術、ロボット支援手術）を実施しています。重症尿失禁に対してはその種類によりボツリヌストキシン治療や中部尿道スリング術を行います。

府立医大 泌尿器科 医局 TEL 075-251-5595 FAX 075-251-5598

ホームページアドレス <http://kpum-urology.com/>

救急対応 腎・尿路センター外来 TEL 075-251-5033（外来時間帯）

救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

■ スタッフ紹介



診療部長
ひらの しのぶ
平野 滋
教授 (H2)
頭頸部腫瘍・
音声外科

たき 瀧
まさかつ 正勝
ながお 光
つじかわ 敬裕
なかもら 高志
中村 高志
むくだい しのぶ
棕代 茂之
ふせ 慎也
布施 慎也
さぶ 純代
佐方利純代
おかもと しょうた
岡本 翔太

講師
学内講師
学内講師
助教
助教
助教
助教
助教
助教

(H10) 耳疾患の診断治療、中耳手術、めまい
(H15) 頭頸部腫瘍の診断治療、頭頸部外科
(H16) 頭頸部腫瘍の診断治療・頭頸部外科
(H16) 耳疾患の診断治療、中耳手術、難聴、人工内耳
(H17) 喉頭疾患の診断治療、音声外科、頭頸部外科
(H23) 喉頭疾患の診断治療
(H24) 頭頸部腫瘍の診断治療
(H27) 鼻副鼻腔疾患の診断治療

■ 私たちの業務

◆ 多様な疾患に対応

耳鼻咽喉科・頭頸部外科として、耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・頸部・顔面・気管疾患と幅広い疾患を対象とし、質の高い医療を提供することを目指しています。

◆ 診療体制

外来（最大7診）、病舎（約30床）、救急（医師が24時間待機）を有し、年間患者数（新患約4,000人、入院約600人、救急約2,800人、手術件数約600件）となっています。これらの患者様のさまざまな病態にリアルタイムに対応しています。

◆ 常に最新の治療を

常に新しい研究・診断・治療を検討し行っています。治療に際しては可能な限り機能の温存を目指し、進行癌に対しても放射線・化学療法を積極的に導入し、集学的治療による機能温存につとめております。最新の光免疫療法や陽子線治療も症例に応じて施行しております。

◆ 患者様に密着した医療

医療機関の先生方との連携医療で患者様に密着した実地医療を行っています。患者様をご紹介いただいた医療機関への逆紹介も行っています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年7月1日現在

	月	火	水	木	金
1 診	平野	辻川	布施	瀧	永尾
2 診	棕代	末松	岡本	中村	佐方利
特殊外来 (午前)		瀧・中村 〈中耳〉	瀧・中村 〈難聴・眩暈〉	辻川・永尾・棕代 〈頭頸部腫瘍〉	平野 〈頭頸部腫瘍〉
特殊外来 (午後)	平野・棕代 布施 〈喉頭・嚥下〉	中村 〈小児難聴〉		岡本 〈鼻〉 末松 〈小児難聴〉	

■ 実際の診療

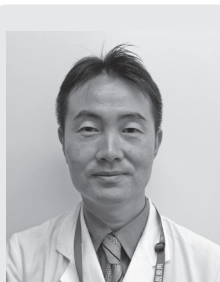
病名・病態	必要な診療	当科の対応
●喉頭疾患 声帯ポリープ、ポリープ様声帯、声帯結節	喉頭ファイバースコープ検査、喉頭ストロボスコープ検査、音声機能検査、保存・手術療法	高解像度な光学システムを用いた外来での検査、喉頭微小手術、保存的加療、音声治療を組み合わせた治療
声帯麻痺	原因検索、鑑別診断、手術療法	症例により声帯内転術、声門開大術等
嚥下障害	嚥下造影検査、内視鏡検査、手術療法	症例によって機能改善手術、誤嚥防止手術
喉頭狭窄	喉頭ファイバースコープ検査、画像検査、手術療法	病態に応じた手術治療
●頭頸部腫瘍 甲状腺腫瘍	画像検査（CT、エコー、シンチ等）、甲状腺機能検査、細胞診、手術療法	手術療法、エコーによる経過観察、分子標的薬
唾液腺腫瘍	画像検査、細胞診、手術療法	手術療法
咽頭、口腔腫瘍	画像検査（CT、MRI、エコー、FDG-PET、シンチ等）、組織診断、腫瘍マーカー、手術・放射線・化学療法	早期癌には経口切除や放射線治療、進行癌には化学放射線療法あるいは消化器外科・形成外科との共同手術により機能再建を含めたチーム医療で対応
喉頭腫瘍	喉頭ファイバースコープ検査、画像検査、組織診断手術・放射線・化学療法	必要により入院・全麻下喉頭鏡検査、病期に応じてレーザー手術・放射線・化学・手術治療
副鼻腔腫瘍	画像検査、組織診断手術・放射線・化学療法	動注陽子線治療など
●耳疾患 慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、中耳奇形、耳硬化症外耳道狭窄・閉鎖症	聴力検査、画像検査、手術療法	鼓室形成術やアブミ骨手術を積極的に施行 埋め込み型骨導補聴器や人工内耳埋込術も行う
顔面神経麻痺	神経学的検査、手術療法、薬物療法	外来でのステロイド点滴治療、症例により顔面神経管開放術
難聴	聴力検査（ABR、ASSR、幼児聴力検査含む）、鑑別診断	府下乳幼児難聴精査の中核で療育機関とも連携、成人を含めた補聴器適合も行っている 難聴の遺伝子診断も行う
めまい	平衡機能検査（caloric test、ETT、OKP含む）、画像検査（MRI、MRA）、診断的治療	必要時は緊急入院治療で対応、BPPVでは症例により頭位変換療法も行う
●鼻・副鼻腔疾患 慢性副鼻腔炎	画像検査、嗅覚検査（アリナミンテスト）、手術療法薬物療法	日帰りまたは入院での内視鏡下手術（入院1週間）、外来での保存加療 症例によりナビゲーションシステム使用
アレルギー性鼻炎	アレルギー抗原検索（抗体検査、誘発テスト、皮内テスト、鼻汁好酸球検査）手術療法、免疫療法、薬物療法、生活指導	外来でのレーザー焼灼術、入院での手術（後鼻神経切除手術による改善率は90%）、外来での免疫療法も積極的に行っている
●その他 睡眠時無呼吸症候群	鼻咽腔・喉頭ファイバースコープ、手術療法	必要時、扁桃・アデノイド手術
顔面外傷	画像検査、手術療法	鼻骨骨折など必要なら形成外科・眼科とも共同で手術

府立医大 耳鼻咽喉科 医局 TEL 075-251-5603 FAX 075-251-5604
頭頸部外科 ホームページアドレス <https://kpument.com>

救急対応 耳鼻咽喉科外来 TEL 075-251-5030（外来時間帯）
救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

精神科・心療内科

■ スタッフ紹介



診療部長
なるもと じん 迅
教授 (H7)
老年精神医学・
認知症

とみなが 富永 敏行	准教授	(H9)	心身医学・認知行動療法
なかまえ 中前 貴	講師	(H15)	強迫症(強迫性障害・OCD)の薬物療法・認知行動療法
あやに 綾仁 信貴	講師	(H18)	臨床精神医学・臨床疫学・医療安全
いいだ 飯田 直子	講師	(H20)	児童青年期精神医学、摂食障害、発達障害
わたなべ 渡辺 杏里	助教	(H23)	強迫症(強迫性障害・OCD)、ニューロモデュレーション、司法精神医学
くわはら 桑原 明子	助教	(H18)	児童青年期精神医学、発達障害
なかじま 中嶋 義幸	助教	(H23)	発達障害
おおや 大矢 希	助教	(H24)	リエゾン・コンサルテーション精神医学・老年精神医学
かとう 加藤 佑佳	助教	(H18)	神経心理学
よし 吉井 宗喜	講師(併任)	(H12)	ストレス精神医学、リハビリテーション医学
なかむら 中村 佳永子	講師(併任)	(H8)	老年精神医学
しほ 柴田 敬祐	講師(併任)	(H15)	老年精神医学
おの 小野 淳子	助教(併任)	(H21)	児童青年期精神医学
まつもと 松本 佳大	助教(併任)	(H26)	強迫症(強迫性障害・OCD)の薬物療法・認知行動療法
はやしだ 林田 圭祐	助教(併任)	(H28)	児童青年期精神医学、摂食障害、発達障害
まさき 正木 大貴	客員講師	(H10)	認知行動療法
にしむら い 西村伊三男	客員講師	(H5)	認知行動療法
あべ 阿部 能成	客員講師	(H22)	強迫症(強迫性障害・OCD)の薬物療法・認知行動療法

■ 私たちの業務

◆ 診療概要

不眠・不安・うつ・物忘れ・幻覚などのあらゆる精神症状に対して診断・治療を行っています。
これらの症状は、職場や家庭、学校などでのストレスが原因で起こる場合も、脳の障害によって起こる場合もあります。そこで正確な診断を行うために、頭部MRI・CT・SPECT、脳波、心理検査などの専門的な検査を行いつつ、うつ病・躁病・統合失調症・社交不安障害・強迫症(強迫性障害・OCD)・パニック障害・老年期認知症などさまざまな精神疾患に対して、薬物療法・mECT(修正型電気けいれん療法)・rTMS(反復経頭蓋磁気刺激)・精神療法・リハビリテーションなど総合的な治療を行っています。

◆ 外来－入院治療の連携

一般外来診療に加えて、より専門的な治療を集中的に行うために専門外来を設け、主に予約診療を行っています。入院では、家族との連携を密にし、サイコエデュケーションも積極的に採り入れ、社会復帰を容易にするために早期の退院を目指して治療を行っています。

◆ 専門外来

リエゾン外来

手術などの治療に伴うせん妄(一時的な混乱)、および様々な身体疾患の治療や臓器移植に伴う不眠・不安・うつなどの精神的な不調の治療を行っています。身体疾患を抱えている患者様とご家族様が、入院治療中に経験する心理社会的な問題の相談に応じています。

児童青年期外来

児童青年期の精神症状に対して、発達特性・性格傾向・心の葛藤・家族関係などを総合的に評価します。そして、心理教育・精神療法・薬物療法・環境調整などを適宜組み合わせ治療を行っています。

老年期外来

老年期にみられるうつ、記憶障害(物忘れ)、幻覚、妄想などに対して画像検査や詳細な高次脳機能検査を用いて、臨床診断と生活機能評価を行っています。認知症性疾患に対しては、家族への対応の指導や薬物療法を導入し、行動障害への対処や福祉機関の紹介など介護者の負担軽減も視点に入れ全般的な指導を行っています。

強迫症(強迫性障害・OCD)外来

国際的な評価尺度(Y-BOCS)を用いて強迫症状の評価を行っています。また、選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)を中心とした薬物療法と曝露反応妨害法などの認知行動療法を併用し効果を高めています。

認知療法外来

認知療法とは、合理的な認知・行動技能を治療の中で患者様が習得することによって治療効果を得ようとする精神療法の一つです。当科では、身体表現性障害や不安障害の患者様を対象に認知療法を行っています。

■ 外来診療担当医師予定表

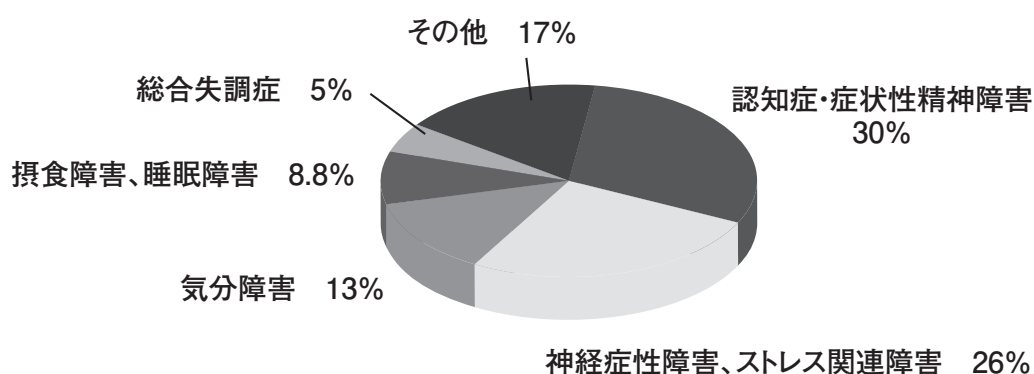
令和6年4月1日現在

区分	月	火	水	木	金
1 診	吉井	富永	西村	成本	中前
2 診	渡辺	大矢	小野	飯田	綾仁
3 診	桑原	松本	中嶋	林田	赤井
4 診					
児童青年期(予約制)	桑原		小野	飯田	桑原
認知療法(予約制)	正木(隔週)	富永			
老年期(予約制)	成本・今井		中村・柴田		中山
強迫症(強迫性障害・OCD)(予約制)		松本	阿部		
リエゾン(予約制)	高岡	橋谷・羽賀	秋元	廣田	中島
心理検査(予約制)	担当心理士		担当心理士		

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
統合失調症など	薬物療法、mECT（修正型電気けいれん療法）、支持的精神療法 サイコエデュケーション	幻覚妄想などの精神病症状の重症度に応じて外来または入院で治療を行います。
気分障害 うつ病、躁うつ病など	薬物療法、支持的精神療法、認知療法、 mECT、rTMS（反復経頭蓋磁気刺激）療法 心理検査	外来治療を中心に、休養や環境調整、自殺企図防止などを目的とした入院治療を行います。
パニック障害 全般性不安障害 社交不安障害 強迫症（強迫性障害・OCD） 適応障害 身体症状症（身体表現性障害） 摂食障害など	認知行動療法 SSRIや抗不安薬などを用いた薬物療法 心理検査、画像診断	一般外来と「強迫症（強迫性障害・OCD）」「認知療法（身体表現性障害、不安障害）」「児童青年期」の専門外来での治療を中心に、必要に応じて入院治療を行います。
認知症性疾患 アルツハイマー型認知症 レビー小体型認知症など	高次脳機能検査、画像診断（頭部CT、MRI、 SPECTなど）、脳波検査 薬物療法、家族の疾病への理解ないしは啓発	主に専門外来で対応しています。精神症状の治療を目的とした入院も可能です。詳細な認知機能検査と画像検査による鑑別診断を行っています。
症状性精神障害 身体疾患に伴う精神障害 ステロイド性精神障害など	支持的精神療法、薬物療法 心理検査、脳波検査 画像診断（頭部CT、MRI、SPECTなど）	外来と入院で診断・治療を行います。

初診患者の診断別内訳（1130人、令和4年度）



府立医大 精神科・心療内科 医局 TEL 075-251-5612 FAX 075-251-5839
ホームページアドレス <http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/psyche/>

救急対応 メンタルケアセンター外来 TEL 075-251-5033（外来時間帯）
救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

放射線科

■ スタッフ紹介



診療部長
やまだ けい
山田 恵
教授（H元）
画像診断

早川 克己	教授（特任）（S49）	画像診断	安池 政志	助教	（H20）	画像診断
山崎 秀哉	准教授	（S63）	放射線治療	吉川 達也	助教	（H21） 画像診断/IVR
鈴木 弦	准教授	（H7）	放射線治療	木元 拓也	助教	（H22） 放射線治療
酒井 晃二	准教授（特任）（H3）	医用画像処理	秋山 新平	助教（任期付）（H23）	画像診断/核医学	
後藤真理子	准教授（特任）（H13）	画像診断	金山 大成	助教	（H23）	画像診断/IVR
佐藤 修	講師	（S60）	画像診断	川畑加奈子	助教	（H24） 放射線治療
赤澤健太郎	講師	（H13）	画像診断	中井 義知	助教	（H23） 画像診断/核医学
渡邉 啓太	講師	（H19）	画像診断	小原 雄	助教	（H25） 画像診断/ データマネジメント
廣田 達哉	講師（学内）（H11）	画像診断/IVR	ながさわ 長澤 慎介	助教	（H25）	放射線治療
武中 正	助教	（S62）	放射線治療	岡本 敏幸	助教（任期付）（H26）	画像診断/IVR
高畑 暁子	助教	（H13）	画像診断	河上 享平	助教	（H26） 画像診断
尾方 俊至	助教	（H14）	放射線治療	西本 雅和	助教	（H26） 画像診断/IVR
喜馬 真希	助教	（H18）	画像診断/核医学	吉野 祐樹	助教	（H26） 放射線治療
小谷 知也	助教	（H18）	画像診断/核医学	梶川 智博	助教	（H29） 放射線治療
相部 則博	助教	（H19）	放射線治療	さ 波 理恵	助教（特任）（H8）	発生遺伝学
増井 浩二	助教	（H20）	放射線治療	まさい 正井 範久	助教（任期付）（H6）	放射線治療

■ 私たちの業務

◆ 多種多様な腫瘍が対象

放射線治療は全身のあらゆる部位に用いられ、ほぼ全診療科に渡る非常に多種多様な腫瘍性疾患を対象としています。治療目的、治療期間、併用療法なども様々で、副作用の内容や程度も個々の患者様で非常に違いがあります。多くの場合は外来通院による治療が可能ですが、患者様の状態次第、あるいは化学療法併用時など治療内容次第では入院が必要となる場合もあります。なお、入院が必要な場合は原発巣などに応じて適切な各診療科にお願いしてください。永守記念最先端がん治療研究センターでは、2019年4月から陽子線によるがん治療を開始しております。

◆ 患者様へやさしく低侵襲治療

針先程度の小さな傷跡のみで、局所麻酔で行う、IVR（画像誘導下治療）と呼ばれる技術を用いた検査・治療を行っています。対象となる疾患は、肝臓や腎、膀胱、頭頸部などの腫瘍性病変、門脈圧亢進症、静脈奇形などの血管奇形や内臓動脈瘤、透析シャント不全など多岐に渡っています。また、疾患によっては手術と同等の治療効果が得られることがあります。「手術を勧められたけど、もっと侵襲の少ない治療がないだろうか？」といわれる患者様もご紹介ください。

◆ 生理機能の画像化と特異的治療

PET/CTも含めた癌の転移検索や脳血流量の測定、心機能測定など各種核医学診断を行うことができ、他施設からの検査依頼を受けています。また、RIを用いた治療が可能な特殊病舎を有しており、甲状腺機能亢進症や甲状腺癌の転移巣、転移性骨腫瘍などに対する治療が可能です。

◆ CT、MRI、核医学などの画像診断による正確な病巣描出と早期発見

画像が現代の医学に果たす役割は重大であり、その比重も年々増えています。当科では従来のレントゲン写真に加えてコンピュータ断層画像（CT）や磁気共鳴画像（MRI）を駆使して診療に必要な画像情報を取得し、これらに診断レポートを作成し依頼医に届けています。また各診療科との合同カンファレンスへ出席し画像に関するコンサルティングを行っています。このように放射線画像を通して、病院の中央部門として医療の質の担保と向上に貢献しています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年7月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診 （IVR以外は放射線治療）	長澤・鈴木	IVR：廣田 増井	鈴木・増井	IVR：廣田	山崎・鈴木
永守がんセンター	相部・木元	相部・川畑	相部・木元	川畑・木元	相部・木元

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●放射線治療 脳腫瘍 頭頸部腫瘍 食道癌 乳癌 肺癌 前立腺癌 各種転移性腫瘍 癌性疼痛・骨転移 脊椎転移に伴う麻痺	手術、補助的放射線治療、化学療法、放射線単独療法 手術、化学療法併用ないし放射線単独療法 手術、化学放射線療法、放射線治療単独 術後放射線療法、各種転移部位に対する放射線治療 放射線治療、化学療法併用 確定診断、内分泌療法 手術又は放射線治療（外照射及び組織内照射） 病状に応じた検査、治療 MRI検査、薬物療法、放射線治療	当院脳神経外科からの紹介、諸検査の上治療をします。 当院耳鼻科からの紹介、耳鼻科との綿密な連携で治療に当たります。 消化器内科・外科との連携により、放射線治療単独のほか、適宜化学療法や手術を併用して治療します。 乳腺外科からの紹介、治療をします。 当院呼吸器内科からの紹介、治療をします。 当院泌尿器科を通して紹介。CT画像を元にコンピュータ計算した綿密な治療計画で治療します。早期癌では組織内照射（ヨードシース療法）の適応になることもあります。 外来経由で検査、必要に応じた治療をします。外来経由で検査・治療をします。緊急対応も受け付けます。また、外来通院の場合に、通院の負担を軽減するため1～数回の短期間治療とする場合もあります。
●IVR（画像誘導下治療） 肝腫瘍（肝細胞癌、肝転移） 各種悪性腫瘍 門脈圧亢進症（肝性脳症や食道胃静脈瘤など） 血管奇形、内臓動脈瘤 透析シャント不全 各種検査	経皮的エタノール注入療法、経皮的ラジオ波凝固療法、選択的肝動脈化学塞栓術、リザーバー動注化学療法 腎癌に対するCTガイド下凍結療法、膀胱癌や頭頸部癌に対する選択的動注療法、多血性腫瘍に対する選択的動脈塞栓術、埋め込み型中心静脈カテーテル留置（抜去） バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓療法（BRTO）、経皮経肝門脈塞栓術（PTO）、部分的脾動脈塞栓術（PSE）など 静脈奇形に対する硬化療法、動静脈瘻/奇形に対する塞栓術、内臓動脈瘤に対する塞栓術 経皮的血管拡張術、ステント留置術 CTガイド下生検（肺、縦隔、腹部臓器、骨など）、副腎静脈サンプリングなど	放射線科入院の場合は、火曜日IVR外来（廣田）を受診していただき、適応や手技の内容についてご説明させていただきます。入院後に手技を行います。 また、当該疾患の診療科の管理が必要な場合は、当院の当該科経由で紹介を頂き、入院後に必要なIVRを行います。
●アイソトープ治療 甲状腺機能亢進症 甲状腺癌 転移性骨腫瘍	血液検査、薬物療法、RI治療 画像診断、血液検査、手術、RI治療 画像診断、血液検査、放射線治療、RI治療	外来もしくは入院にてRI治療を行います。 外来経由で検査、入院にてRI治療を行います。 外来にてRI治療を行います。
●画像診断 画像診断を要する各種疾患	CT、MRI、単純写真、核医学	迅速な撮像と的確な診断レポートを作成します。

府立医大 放射線科 医局 TEL 075-251-5620 FAX 075-251-5840

ホームページアドレス <http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/clinical-departments/radiology.html>

<https://radiol.kpu-m.jp>

救急対応 放射線科外来 TEL 075-251-5895（外来時間帯）

救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

麻酔科（術前外来）

■ スタッフ紹介



診療部長
あまや ふみまさ
天谷 文昌
(H5)
麻酔、ペインクリニック

うえの ひろし 准教授
いしい きちよ 講師
石井 祥代 講師
ないとう よしふみ 講師
内藤 慶史 学内講師
いいた 淳 助教
飯田 真央 助教
きのした まお 助教
木下 しほんすけ 助教
やまきた 俊介 助教
山北 知見 助教
やまだ 知見 助教
山田 やすひこ 助教
堀井 靖彦 助教
Pipat Saeyup 助教
やもち しようこ 助教
矢持 祥子 助教

(H9) 麻酔、ペインクリニック、区域麻酔
(H16) 麻酔
(H17) 麻酔
(H18) 麻酔、心臓麻酔、区域麻酔
(H21) 麻酔、心臓麻酔、小児麻酔、区域麻酔
(H21) 麻酔、心臓麻酔
(H21) 麻酔、小児麻酔
(H22) 麻酔
(H21) 麻酔、小児麻酔
(H28) 麻酔

■ 私たちの業務

◆ 麻酔術前診察クリニック PAC: Preoperative Anesthesia Clinic

2010年9月より新たに麻酔術前診察クリニックを病院外来部門として開設し、予定手術を受ける患者に対して、通院レベルで術前に受診を促すことにより、十分なインフォームド・コンセントの取得、医療安全の確保、術前入院期間の短縮に繋がっています。具体的には、まず「麻酔を受けられる方へ」というパンフレットを配布しますが、このパンフレットには手術までの手順、麻酔方法や術後鎮痛サービスなどについて、わかりやすく解説されています。また各患者自身により記入された問診票からは、安全に麻酔・手術が遂行されるための詳細かつ正確な情報を収集するよう努めています。次に麻酔の流れ全般を説明するビデオもしくはDVDを供覧し、視覚的な理解を深めるよう促進いたします。最後に麻酔科の専門医師による事前の術前検査結果の評価、健康状態の把握・診察を行い、その上で麻酔の説明をし、インフォームド・コンセントの取得を行います。これらの手順を通じて、より安全に手術が遂行されるように努めています。

◆ 手術麻酔管理 Anesthesia Service

中央手術室での麻酔管理を中心に臨床各科から依頼される年間5,000件以上の麻酔管理を麻酔科医師が対応しています。心臓血管外科、脳外科、消化器外科、産婦人科、移植外科、内分泌・乳腺外科、呼吸器外科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科、形成外科、眼科、小児外科、小児心臓血管外科、歯科口腔外科の麻酔管理に携わります。また、血液内科による骨髓移植や消化器内科による内視鏡的粘膜下層剥離術、循環器内科による骨髓細胞移植による血管再生、小児循環器・腎臓科による生検などの麻酔管理に対応しています。経食道超音波診断装置を用いた心臓外科麻酔や新生児を含む小児麻酔・小児心臓外科麻酔など、難度が高く特殊な麻酔にも、経験豊富なスタッフが高度な麻酔技術を提供できる体制を整備しています。麻酔法では、すべての全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、そして依頼により局所神経ブロックなどに対応しています。また、一日24時間を通じて院内外の緊急手術に対応できる体制を整えています。さらに脳死肝移植認定施設として、随時、これらの先進手術医療に対応できるようにしています。

◆ 術後管理・術後鎮痛サービス POPS: Post-Operative Pain Service

集中治療：重症患者の術後は、集中治療部門スタッフと連携し、成人集中治療室（ICU、Intensive Care Unit）、小児集中治療室（PICU、Pediatric Intensive Care Unit）での管理を行います。

術後鎮痛サービス：現代では麻酔の技術により手術中に痛みを感じないことは至極当然のこととなりました。さらに手術後の創部痛は、患者に身体的かつ精神的な苦痛をもたらすのみならず、喀痰排出不良などによる呼吸器合併症の併発、離床遅延による深部静脈血栓症の発症などにも関連することから、現在では可能な限り安全な方法で除去するべきであると考えられています。加えて、高齢化社会の進行や医療費増大などの社会情勢の変化の影響を受けて、術後疼痛を安全に効率良く緩和することで、より早い離床、手術による入院期間の短縮に繋げていくことも求められています。当院麻酔科では2011年度より、痛みを感じたときに鎮痛剤の投与が患者自身で行える「自己疼痛管理法（PCA法、Patient-controlled Analgesia法）」を術後鎮痛サービス（POPS）の一環として積極的に導入することで、術後のより効果的な鎮痛を行っています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金	土
麻酔術前診察クリニック	山北	飯田	木下	石井/内藤	堀井	—
中央手術室麻酔管理	堀井	山北	飯田	木下	内藤	（当直体制）
術後鎮痛サービス	内藤	堀井	山北	飯田	木下	—

■ 実際の診療

〈麻酔科管理の手術〉

麻酔科管理の手術では、以下のように緊急性に応じて対応しています。

1) 予定手術：中央手術室に設置された麻酔科管理申し込み締め切りまでに申し込まれる手術。

(ア) 定期優先枠手術

(イ) 空き枠利用手術

2) 臨時手術：予定手術の締め切り後に申し込まれる手術。

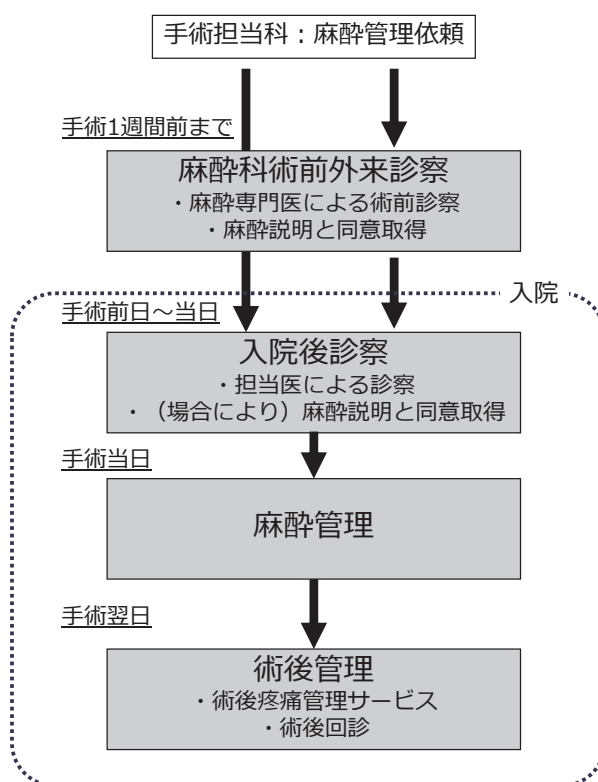
(ア) 準緊急手術：翌日以後、およそ一週間以内に必要な手術

(イ) 緊急手術：一日以内に必要な手術

注) 長時間手術申し込み：午後8時を超えるような長時間手術に関しては、上記対応外として、長時間手術申し込み枠に沿った管理を行います。

〈麻酔科術前外来受診の流れ〉

緊急手術を除く、すべての麻酔科管理の手術症例については、麻酔科術前外来の受診を当該科から申し込んで頂いております。予定手術では、手術の予定日の一週間前までに、準緊急手術（麻酔科管理申し込み締め切り後、1週間以内に希望される手術）では、予定日の前日までに受診できるようご配慮をお願いしております。術前外来では、麻酔のインフォームド・コンセント取得を行うため、原則的に、家族もしくは法定代理人を含む付き添いの方の同伴が必要とさせていただいております。



府立医大 麻酔科 医局 TEL 075-251-5633 FAX 075-251-5843

ホームページアドレス <http://www.f.kpu-m.ac.jp/k/anesth/>

救急対応 麻酔科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

疼痛・緩和ケア科

■ スタッフ紹介



診療部長
あまや ふみまさ
天谷 文昌
教授 (H5)
ペインクリニック
緩和医療

准教授 (麻酔科) (H9)	ペインクリニック、緩和医療
講師 (H16)	ペインクリニック、緩和医療
助教 (H28)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H18)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H19)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H20)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H20)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H22)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H22)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H26)	ペインクリニック、緩和医療
病院助教 (H28)	ペインクリニック、緩和医療
大学院生 (H19)	ペインクリニック、緩和医療
公認心理師	臨床心理

■ 私たちの業務

ペインクリニック外来は、2014年度より「疼痛・緩和ケア科」と名称を新たにし、従来のペインクリニック外来の診療内容に加え、がんやその治療による様々な苦痛（痛み、倦怠感、吐き気、息苦しさなど）を緩和する診療（緩和ケア外来）を充実させた体制となりました。緩和ケア外来は、原則として予約制で紹介患者さんのみの診療となります。

ペインクリニック外来は、再診はすべて予約制ですが、初診は随時受け付けています。外来では局所麻酔薬を用いた神経ブロック治療を中心にしています。超音波装置を2台備えており、最近では超音波ガイド下に効果が正確、確実な神経ブロックを行っています。また、神経破壊薬や高周波熱凝固装置を用いた特殊な神経ブロックも行っています。重症例、手術適応症例では入院による治療も積極的に行っています。

当科で扱う主な疾患とその治療成績

- （1） 帯状疱疹関連痛、複合性局所疼痛症候群（CRPS）、頭痛、三叉神経痛、大後頭三叉神経症候群、口腔内疼痛、腰下肢痛、術後創部痛、肩こり、中枢痛、外傷後の痛み、下肢閉塞性動脈硬化症（ASO）による下肢の潰瘍、痛みなどを中心に診断・治療を行い、顔面神経麻痺、顔面痙攣など非疼痛疾患に対しても神経ブロックを応用した治療を行っています。その結果が、外来患者数の多さ（50～100名／日）と紹介患者の多さに反映され、十分に誇れるものとなっています。
- （2） 局所麻酔薬による神経ブロックは外来でも可能な手技で、特に当外来で最も多用されている星状神経節ブロックは、頭痛などの頭頸部の痛みが症状となる疾患、帯状疱疹関連痛、上肢の血行障害、顔面神経麻痺、突発性難聴など広い適応症を持っています。また、帯状疱疹痛に対しては入院下に持続硬膜外ブロックや交感神経節ブロックを行い、高い治療効果を上げています。
胸部・腰部交感神経節ブロックなどは帯状疱疹関連痛、CRPS、ASOなどの痛みにも有効です。腹部内臓由来のがん疼痛に対しては内臓神経ブロック、腹腔神経叢ブロックなども積極的に行っています。
三叉神経痛には超音波およびX線透視下に高周波熱凝固法を行いた神経ブロックを行い、低侵襲で高い効果を得ています。
眼瞼痙攣、顔面痙攣、痙攣性斜頸に対してボツリヌス毒素注射による治療を行っています。
また、神経ブロック療法に加えて、薬物療法として消炎鎮痛薬やオピオイド鎮痛薬、その他の鎮痛補助薬の処方に加えて漢方薬の処方も積極的に行っています。
- （3） 低出力レーザー療法、キセノンレーザー療法は、痛みを伴わず、簡単に治療時間が短く、合併症がないなどの利点がある非侵襲性治療法であり、最近特に多く施行されています。適応症として、帯状疱疹関連痛、肩関節周囲炎、腰痛症、CRPSなどがあり、星状神経節への照射は局所麻酔薬によるブロックと同様の効果があるため、神経ブロックに対し恐怖感を持つ患者にも有効です。また、鍼治療の一種で、鍼を刺さないでツボに小さい表面電極を置き低周波を流すSSP治療も行っています。
- （4） 難治性腰下肢痛に対して、硬膜外埋め込み式脊髄刺激電極による痛みの治療を行っています。
- （5） がんとその治療による様々な身体的苦痛（痛み、倦怠感、吐き気、息苦しさ、など）精神的苦痛（不眠、不安、気持ちのつらさ）、その他の問題に対して、薬物療法、神経ブロック療法、ケアなどを組み合わせて、症状緩和を行います。また、16床の緩和ケア病棟を併設し、がん患者さんとそのご家族が安心して過ごすことのできる環境づくりをサポートします。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
ペインクリニック	上野、早瀬、仲宗根、大屋、前田	小川、大屋、藤井、永井、越田、岡田	上野、藤原、仲宗根、松尾、大屋	天谷、早瀬、藤原、藤井、松尾、越田	天谷、上野、小川、早瀬、藤原、仲宗根、藤井、大屋、永井、松尾、越田、岡田、前田
緩和ケア外来	上野	小川	上野	天谷	上野
緩和ケア入院外来	松尾	藤原	小川	永井	藤井
永守がんセンター	—	—	—	大屋、藤井	—

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
带状疱疹関連痛 (带状疱疹・带状疱疹後神経痛)	硬膜外ブロック、星状神経節ブロック、腰部交感神経節ブロック、胸部交感神経節ブロック、その他神経ブロック療法、薬物療法	局所麻酔薬による各種神経ブロック、超音波ガイド下に確実な神経ブロックを行います。 低出力レーザー、キセノンレーザーの局所照射、SSP療法による痛み治療を行います。 NSAIDs、オピオイド、各種鎮痛補助薬、漢方薬を用いた薬物療法を行います。 予約制でアンギオ室にてX線透視下神経ブロックを行います。 重症例では入院により集中的、持続的に神経ブロック療法を行います。 手術療法としては脊髄刺激電極刺激装置植え込み術を行っています。 各種がんによる痛みに対して神経ブロック療法、薬物療法、心理療法などを組み合わせて行います。緩和ケア外来では、がん緩和ケアについての受診を行っています（紹介患者様のみ）。 その他、急性期慢性期を問わず、様々な原因によって生じる神経障害性疼痛、慢性疼痛、難治性疼痛に対して心身両面からの治療を積極的に行っています。
頭痛	星状神経節ブロック、その他神経ブロック療法、薬物療法	
三叉神経痛	各種三叉神経ブロック、レーザー治療、薬物療法	
口腔内の痛み	星状神経節ブロック、その他神経ブロックレーザー治療、薬物療法	
肩こり	星状神経節ブロック、トリガーポイント注射、その他神経ブロック療法、薬物療法	
腰下肢痛	硬膜外ブロック、各種神経ブロック、トリガーポイント注射、脊髄刺激電極装置、薬物療法	
肋間神経痛	肋間神経ブロック、その他神経ブロック、薬物療法	
複合性局所疼痛症候群 (CRPS)	星状神経節ブロック、腰部交感神経節ブロック、胸部交感神経節ブロック、その他神経ブロック療法、薬物療法	
中枢痛	薬物療法	
術後創部痛	各種神経ブロック療法、レーザー治療、薬物療法	
下肢閉塞性動脈硬化症、バージャー病	硬膜外ブロック、腰部交感神経節ブロックレーザー治療、動脈内注射、薬物療法	
がんとそれに関連する様々な苦痛（痛み、倦怠感など）	各種神経ブロック（腹腔神経叢ブロックなど）、薬物療法、心理療法	
顔面痙攣、眼瞼痙攣、痙攣性斜頸	ボツリヌストキシン注射、薬物療法	
顔面神経麻痺	星状神経節ブロック、薬物療法	
その他	様々な原因による神経障害性疼痛、慢性疼痛に対する集学的治療	

府立医大 疼痛・緩和ケア科 医局 TEL 075-251-5177 FAX 075-251-5178

ホームページ <http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/clinical-departments/pain-clinic-and-palliative-care.html>

救急対応 疼痛・緩和ケア科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）

救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

小児科

■ スタッフ紹介



診療部長
いへら ともこ
家原 知子
教授 (H2)
小児腫瘍学・
感染症

森本 昌史 教授 (S63) 小児神経学
細井 創 特任教授 (S57) 小児腫瘍学
糸井 利幸 客員教授 (S56) 小児循環器・川崎病
西田 眞佐志 客員教授 (S58) 小児腎臓学
菱合 隆 客員教授 (S62) 小児循環器・川崎病
西村 陽 客員教授 (H1) 小児神経学
小坂 喜太郎 客員教授 (H2) 小児内分泌代謝学
秋岡 親司 准教授 (H3) 小児免疫学
土屋 邦彦 講師 (H7) 小児腫瘍学・小児アレルギー学
中島 久和 特任講師 (H7) 小児内分泌代謝学
大曾 根真也 講師 (H8) 小児血液学・小児アレルギー学
千代 延友裕 講師 (H10) 小児神経学・臨床遺伝学
池田 和幸 講師 (H10) 小児循環器・川崎病
柳生 茂希 講師 (H12) 小児腫瘍学
宮地 充 講師(学内) (H13) 小児腫瘍学
長谷川 龍志 講師(学内) (H14) 新生児学・小児神経学
戸澤 雄紀 講師(学内) (H15) 小児神経学
中川 由美 客員講師 (H2) 小児循環器・川崎病
青山 三智子 併任講師 (H10) 小児アレルギー学

梶山 葉 助教 (H10) 小児循環器・川崎病
河井 容子 助教 (H13) 小児循環器・川崎病
橋口 加名栄 助教 (H15) 新生児学
大内 一孝 助教 (H16) 小児免疫学
吉田 秀樹 助教 (H16) 小児腫瘍・血液学
杉本 哲 助教 (H17) 小児内分泌代謝学
瑞木 匡 助教 (H19) 新生児学・小児神経学
森元 英周 助教 (H20) 新生児学・小児内分泌代謝学
河辺 泰宏 助教 (H21) 小児内分泌代謝学
富田 晃正 助教 (H22) 小児腫瘍学
大矢 暁 助教 (H24) 小児腎臓病学・小児腫瘍学
伊藤 育世 病院助教 (H17) 小児内分泌代謝学
井上 聡 病院助教 (H23) 小児循環器・川崎病
竹下 直樹 病院助教 (H25) 小児循環器・川崎病
森元 真梨子 併任助教 (H20) 小児アレルギー学
眞弓 あすさ 助教 (H20) 小児血液学
末松 正也 助教 (H20) 小児血液学
田中 誠治 助教 (H24) 小児血液学
松岡 太郎 助教 (H25) 小児神経学

■ 私たちの業務

小児の一般疾患はもちろんのこと、腫瘍、血液、神経、代謝・内分泌、アレルギー、免疫膠原病、周産期診療部NICU（新生児集中治療部門）、循環器・川崎病、腎臓と、幅広く取り組んでいます。同時に各小児科専門医が「疾患だけを見る」ことのないよう、患者である小児を一番に考え、一人の人間として全人的にみることを心がけ、小児疾患の診断治療・健康管理を行っています。

◆ 腫瘍・血液グループ

小児がん拠点病院に指定されており、一般病院では診断や治療が難しい小児・思春期の固形腫瘍患者に対して、最適な診断治療が行われるように、小児外科、脳神経外科、整形外科、放射線科などとカンファレンスを持ちながら集学的治療を行っています。陽子線治療を開始し、副作用の少ない治療をめざしております。全国共同治療研究の中で主任研究者を務める神経芽腫、横紋筋肉腫等の骨軟部腫瘍や、他にユーズング肉腫、腎芽腫、肝芽腫、稀な腫瘍等にも対応しています。難治性腫瘍に対しては、新規治療開発としての臨床試験を実施しております。

急性リンパ性白血病（ALL）や悪性リンパ腫などのリンパ性悪性疾患、急性骨髄性白血病（AML）や骨髄異形成症候群（MDS）などの骨髄性悪性疾患を扱っています。ランゲルハンス細胞性組織球症（LCH）については、全国共同治療研究の事務局をつとめています。このほか、再生不良性貧血や先天性溶血性貧血、免疫不全症、好中球減少症、血小板減少症、血友病などの診療をしています。骨髄、末梢血、臍帯血いずれのドナーにも対応した同種造血細胞移植を行っており、CD19選択的CAR-T療法も施行可能です。

◆ 神経グループ

神経外来では、てんかんなどの発作性疾患を中心に、脊髄性筋萎縮症・筋ジストロフィーなどの神経筋疾患や重症筋無力症・ギランバレー症候群などの神経免疫疾患の診断・治療、重症心身障児・者の慢性期管理などを行っています。診察は小児神経専門医およびてんかん専門医が行い、適切な診断と治療を心掛けております。また遺伝性疾患が疑われる患者さんは、必要場合は遺伝カウンセリングを受けていただいた後に、遺伝学的検査を行い、その結果の説明を分かりやすく丁寧にしよう心掛けております。

◆ 代謝・内分泌グループ

内分泌疾患としては、下垂体疾患（成長ホルモン分泌不全性低身長症、汎下垂体機能低下症）、成長障害（ターナー症候群、軟骨無形成症）、甲状腺疾患（先天性甲状腺機能低下症、甲状腺機能亢進症など）、副腎疾患（先天性副腎過形成症、クッシング症候群など）、水・電解質代謝疾患（尿崩症）、思春期早発症を含め生殖機能異常症などを扱っています。代謝疾患としては、肥満外来で、小児肥満に対して内分泌疾患の除外診断・栄養指導・運動指導を行っています。小児糖尿病（1型糖尿病、2型糖尿病）も数多く治療しています。先天代謝異常症では、アミノ酸代謝異常症（フェニルケトン尿症、メイプルシロップ尿症）、糖質代謝異常症（ガラクトース血症、糖原病）、有機酸代謝異常症（メチルマロン酸血症、プロピオン酸血症）、脂質代謝異常症（VLCAD欠損症、MCAD欠損症）、ムコ多糖症、ウイルソン病、尿素サイクル異常症などの診療に当たっています。

◆ アレルギー・免疫膠原病グループ

小児アレルギー外来では、生活のQOL、成長・発達を考慮した診療を行っています。食物アレルギーについては、食物経口負荷試験に基づく必要最小限の食物除去を行うことで、過剰な食事制限を回避し、児や家族の不利益を最小限とし、栄養指導をあわせて行うことで成長にも配慮しています。耐性獲得の困難な児に対して経口免疫療法を実施しています。同時に気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎を適切に治療することで総合的に改善を図っています。アレルギー疾患の病態解明のための臨床研究、新たな知見に基づく新規治療薬の使用や試験を行っています。

免疫膠原病外来は、免疫および炎症に関わる全ての疾患を対象に、専門医による診療を行っています。これらの疾患は、全身の全ての臓器に障害を起こす可能性がありますので、当科の専門グループのみならず、他科あるいは地域の医療機関、学校や行政と連携した裾野の広い診療を行っています。一方、専門医による使用が原則である生物学的製剤という、この10年間で最も革新的な治療薬を駆使した専門的かつ高度医療を進め、アンメットニーズに応える形で全人的医療を展開しています。

◆ 周産期診療部NICU（新生児集中治療部門）

染色体異常を含む先天異常や低出生体重児、新生児仮死、子宮内発育不全など、集中治療を必要とする新生児に対応するべく24時間体制をとっています。呼吸・循環・栄養管理など、医療の進歩とともに1,000g未満で出生した児の生存率も90%を超えています。また、中枢神経系疾患、消化管疾患、先天性心疾患などを有する場合、速やかに治療が行えるよう関連各科とも連携を密にしています。治療のみならずディベロップメンタルケア・カンガルケア等、児の健やかな成長と母児愛着形成を目的としたケアも同時にすすめています。NICU退院後は、外来で発達（運動面・知的面）、発育（体格のチェック）をみせていただき、その中で神経学的異常の早期発見に努め、京都府内の療育施設と連携をとりながら診療していきます。出生体重が1,500g未満の児には、学童期まで発達検査を行っています。

◆ 循環器・川崎病グループ

先天性心疾患では、内科部門と外科部門が連携して同時に治療に当たり、全国的にもトップクラスの治療成績を上げています。近畿圏のみならず全国、しばしば海外からも患者様を受け入れており、カテーテルインターベンション治療、非観血的三次元四次元画像診断法において全国有数の施設です。

また、子どもの後天性心疾患として最も多い川崎病についても全国有数の施設であり、急性期から遠隔期に至るまで幅広く診療しています。必要な治療や検査を計画的に提供するとともに、最新の情報もお伝えしています。

外来では心電図・心エコーを行い、初診の患者様でもその日のうちに診断し治療方針を決定しています。運動負荷テストや24時間心電図も独自に行っており、不整脈の診断と治療を行っています。立ちくらみや胸痛などの自律神経機能異常の診療も行っています。

◆ 腎臓グループ

腎炎、ネフローゼ症候群等の小児腎疾患に対し、腎生検を含めた診断治療を行っています。慢性腎不全患児に対しては持続透析・腹膜透析による管理や血液透析を行い、移植外科との連携により腎移植を行っています。先天性腎尿路奇形を有する患児や尿路感染症の患児に対しても、小児泌尿器科との連携により外科的・内科的管理を行っています。

府立医大 小児科 医局 TEL 075-251-5571 FAX 075-252-1399

ホームページアドレス kpum-ped.com

救急対応 小児医療センター外来 TEL 075-251-5043（外来時間帯）

救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646



■ 実際の診療

疾患群	主な疾患(病名)	当科の対応
●腫瘍疾患	神経芽腫 横紋筋肉腫 Ewing/PNET腫瘍 悪性ラブドイド腫瘍 Wilms腫瘍 肝芽腫 骨肉腫 胚細胞腫瘍 血管腫 脳腫瘍	神経芽腫、横紋筋肉腫等の骨軟部腫瘍や、腎芽腫、網膜芽腫、肝芽腫、その他の稀な小児がんに対応しております。外科系診療科、放射線科等との合同カンファレンス（カンサーボード）にて治療方針の決定を行っております。難治再発症例への対応や新規治療も実施しており、セカンドオピニオンもお受けしております。長期フォローアップ外来も併設しており、他施設で診療を受けた方のご相談にも応じております。良性腫瘍の診断や乳児血管腫の薬物治療にも対応しております。
●血液疾患	白血病 悪性リンパ腫 ランゲルハンス細胞性組織球症（LCH） 血球貪食症候群（HPS/HLH） 再生不良性貧血 先天性溶血性貧血 血小板減少症 血友病 免疫不全症 好中球減少症	小児造血器疾患全般を扱い、疾患に応じて化学療法・分子標的療法・免疫化学療法・免疫抑制療法・造血細胞移植・CAR-T細胞療法などを行い適切に治療いたします。また血友病などの凝固異常症の診療にも取り組んでいます。長期フォローアップにも力を入れて取り組んでおり、小児の血液疾患全般に対してセカンドオピニオンを積極的に受け入れています。
●神経疾患	てんかん、神経筋疾患、神経変性疾患、 神経系感染症、慢性頭痛など小児神経疾患全般	脳波検査、神経画像、脳血流シンチ、髄液検査、末梢神経伝導速度、筋生検、筋電図、誘発筋電図、テンシオンテストなど症例に応じた検査を外来・入院で行います 抗てんかん薬の内服指導、ACTH療法、ステロイド療法、免疫グロブリン療法など疾患に応じた治療を行います。
●代謝疾患	1型糖尿病、2型糖尿病 小児肥満 肥満合併症のチェック 先天代謝異常	外来や入院で精査・診断し、病型に応じてインスリン治療の導入や薬物治療を行います。 肥満外来で食事指導・運動指導を行います。 新生児マススクリーニング対象疾患の精密検査を行います。 治療用ミルクによる栄養療法、酵素補充治療を行います。
●内分泌疾患	成長ホルモン分泌不全性低身長症 甲状腺疾患 副腎疾患 尿崩症 思春期早発症 下垂体疾患 軟骨異常症	負荷試験や画像診断の精密検査を行います。 病態に応じたホルモン補充治療を行います。
●免疫・膠原病・リウマチ疾患	自己免疫疾患 リウマチ 膠原病 炎症性疾患	リウマチ専門医により免疫抑制療法・生物学的製剤を用いた分子標的療法を行います。また自己炎症症候群・炎症性腸疾患・原発性免疫不全症の診断・治療を行っています。
●アレルギー疾患	食物アレルギー アトピー性皮膚炎 気管支喘息 アレルギー性鼻炎・結膜炎・花粉症 高度専門的予防接種	食物経口負荷試験に基づく必要最小限の食物除去と食事指導と経口免疫療法の実施。発症予防。ステロイドや非ステロイド性抗炎症薬を用いた外用療法。重症例に対する全身治療（生物学的製剤、低分子化合物）、皮膚科専門医との連携。 予防治療および急性増悪（発作）対応。重症例に対する生物学的製剤によるコントロール。スギ花粉症・ダニアレルギーに対する舌下免疫療法 行政との連携による高リスク児に対する予防接種。
●NICUを退院した児	発育・発達フォローアップ	こまやかな診察と発達検査、育児指導を行っています。必要時、療育施設への紹介を行います。
●循環器疾患・川崎病	先天性心疾患 不整脈 心筋症・心筋炎 自律神経機能障害 川崎病	重症例には緊急対応し、PICUやNICUで治療を行います。先天性心疾患では小児心臓血管外科との連携により適切かつ素早い外科治療が可能です。 心臓カテーテル検査、3次元CT、運動負荷心電図、心臓電気生理学的検査などを駆使して、あらゆる小児循環器疾患の診断・治療に対応します。 急性期には大量ガンマグロブリン療法等の治療を行い、遠隔期の管理も行います。急性期・慢性期に係らず、治療方針についてのお問い合わせにも対応します。
●腎疾患	急性・慢性糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 急性・慢性腎不全 先天性腎尿路異常・尿路感染症	必要に応じて腎生検を行い、診断確定後に治療方針を決定します。 初発の場合、入院治療とします。 救急対応が可能です。腹膜透析（CAPD）などの透析療法、腎移植を行います。 腎尿路形態・機能検査、レノグラム、排尿時膀胱造影を行い、小児泌尿器科と連携して治療に当たります。

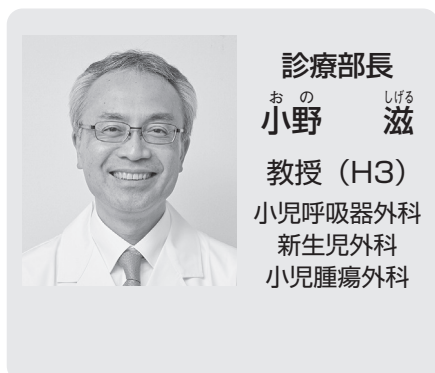
■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

曜日	月		火		水		木		金	
	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師
小児科	小児総合 1診 小児総合 2診 小児神経・遺伝(予約制) 〃 (第3・4週) 小児循環器(予約制) 〃 〃 (第2・4週) 乳児・発達(予約制) 小児免疫・膠原病(予約制 第4週以外)	家原知子 教授 吉田秀樹 医師 千代延友裕 講師 戸澤雄紀 講師 池田和幸 講師 河井容子 医師 堀山 葉 医師 堀本 匡 医師 秋岡親司 准教授	小児総合 1診 小児総合 2診 〃 (予約制) 小児アレルギー(予約制) 〃 (第1・3週) 〔川崎病(予約制)〕 〔1・3・5週〕 小児腎臓(予約制)第3週以外 小児長期フォローアップ(予約制) 〃	秋岡親司 准教授 宮地 充 講師 西村 陽 客員教授 森本昌史 教授 〔土屋邦彦 講師/森元真梨子 医師〕 青山三智子 併任講師 池田和幸 講師/岡本亜希子 医師 〔西田眞佐志 客員教授/大矢 暁 医師〕 土屋邦彦 講師 宮地 充 講師	小児総合 1診 小児総合 2診 〔大内一孝 医師/杉本 哲 医師〕 小児神経(予約制) 小児代謝・内分泌(予約制) 小児循環器(予約制) 小児長期フォローアップ(予約制) 小児腫瘍(予約制) 〃 小児血液・移植後フォローアップ(予約制) 小児血液長期フォローアップ(予約制) 小児化学療法(予約制) 小児免疫・膠原病(予約制) 小児神経(予約制) 小児循環器(予約制)	池田和幸 講師 〔大内一孝 医師/杉本 哲 医師〕 森本昌史 教授 河辺泰宏 医師 糸井利幸 客員教授 細井 創 特任教授 宮地 充 講師 富田晃正 医師 大曾根貴也 講師 吉田秀樹 医師 富田晃正 医師 〔秋岡親司 准教授/大内一孝 医師/中川憲夫 医師〕 森本昌史 教授 糸井利幸 客員教授	小児総合 1診 小児総合 2診 小児代謝・内分泌(予約制) 代測・肥満外来(予約制) 小児アレルギー(予約制) 小児循環器(予約制) 〃 小児長期フォローアップ(予約制) / 小児腫瘍(予約制) 第1・4・5週 小児長期フォローアップ(予約制) 小児腫瘍(予約制) 小児血液・移植後フォローアップ(予約制) 小児循環器(予約制) 〃 小児腫瘍(予約制) 〃	大曾根貴也 講師 長谷川龍志 講師 小坂喜太郎 客員教授 中島久和 特任講師 〔土屋邦彦 講師/森元真梨子 医師〕 堀山 葉 医師/河井容子 医師 池田和幸 講師 家原知子 教授 土屋邦彦 講師 宮地 充 講師 富田晃正 医師 大曾根貴也 講師 吉田秀樹 医師 堀山 葉 医師/河井容子 医師 池田和幸 講師	小児総合 1診 小児総合 2診 乳児・発達(予約制) 〃 胎児心エコー(予約制) 小児循環器(予約制) シナジス外来(第1・2・4週) 小児アレルギー・皮膚科(予約制)	土屋邦彦 講師 戸澤雄紀 講師 長谷川龍志 講師 森元英周 医師 横口加名栄 医師 中川由美 客員講師 河井容子 医師 担当医 土屋邦彦 講師
	乳児・発達/発達検査(予約制) 小児循環器(予約制) 小児肥満(第2・4週)(予約制) 小児免疫・膠原病(予約制) 〃 胎児心エコー	長谷川龍志 講師 河井容子 医師 〔杉本 哲 医師/河辺泰宏 医師〕 大内一孝 医師 〔秋岡親司 准教授/久保 裕 医師〕 菱谷 隆 客員教授	1ヶ月健診(予約制) 小児高度専門的予防接種(第4週 予約制) 小児頭痛外来(第2・4週 予約制) 小児アレルギー/アレルギー・地域連携(予約制) 小児代謝・内分泌(予約制) 小児腎臓(予約制) 小児循環器(予約制)	担当医 青山三智子 併任講師 西村 陽 客員教授 担当医 杉本 哲 医師 〔西田眞佐志 客員教授/大矢 暁 医師〕 堀山 葉 医師	小児長期フォローアップ(予約制) 小児腫瘍(予約制) 小児腫瘍(予約制) 〃 小児血液・移植後フォローアップ(予約制) 小児血液長期フォローアップ(予約制) 小児化学療法(予約制) 小児免疫・膠原病(予約制) 小児神経(予約制) 小児循環器(予約制)	細井 創 特任教授 宮地 充 講師 富田晃正 医師 大曾根貴也 講師 吉田秀樹 医師 富田晃正 医師 〔秋岡親司 准教授/大内一孝 医師/中川憲夫 医師〕 森本昌史 教授 糸井利幸 客員教授	小児長期フォローアップ(予約制) / 小児腫瘍(予約制) 第1・4・5週 小児長期フォローアップ(予約制) 小児腫瘍(予約制) 〃 小児血液・移植後フォローアップ(予約制) 小児循環器(予約制) 〃 小児腫瘍(予約制) 〃	家原知子 教授 土屋邦彦 講師 宮地 充 講師 富田晃正 医師 大曾根貴也 講師 吉田秀樹 医師 堀山 葉 医師/河井容子 医師 池田和幸 講師	小児神経(予約制)	戸澤雄紀 講師
	(午後)									

小児外科

■ スタッフ紹介



ふみの 文野 きん 金	しげひさ 誠久 きよかず 聖和	講師 (H9)	小児外科全般、小児腫瘍外科、脈管奇形
たかやま 高山 いぐち 井口	しょうへい 勝平 まさふみ 雅史	助教 (H21)	小児外科全般、新生児外科
		助教 (H23)	小児外科全般、直腸肛門奇形、小児内視鏡外科
		助教 (H25)	小児外科全般、小児腫瘍外科、小児内視鏡外科

■ 私たちの業務

◆ 小児外科専門医による高度な医療の実践

当科では「世界トップレベルの医療を地域へ」という京都府立医科大学附属病院の理念のもと、若手医師の育成を行いながら、新生児、乳児、学童、思春期にいたる小児外科疾患の診断・治療に高度な知識と経験を生かした医療を実践しています。

◆ 成育医療を目指した地域医療との連携

小児外科の場合、疾患の治療のみならず、術後の子どもたちの成長・発育もあわせて診療・指導していくことが大切です。手術を受けた子どもたちが健やかに育ち社会に適応できるよう、長期にわたって地域の先生方と連携を取りながら外来及び入院での検査・治療に当たっています。

◆ 小児救急

外傷、急性腹症、鼠径ヘルニア嵌頓、異物などのcommon diseaseから、高度な技術を要する新生児外科疾患まで24時間体制で入院、検査、治療ができるよう、特に三次小児救急医療に万全の体制を取っています。

◆ 小児低侵襲手術（内視鏡手術）

手術を受けた子どもたちがよりよいbody imageで精神的、身体的に発育できること、そして手術侵襲や術後疼痛の軽減を目的に、できるだけ体に優しい低侵襲な手術を目指して、鏡視下手術の技術や可能なかぎり小さく目立たない創部を駆使して、小児外科手術の実践、開発に力を入れています。

◆ 周産期医療の一環として

近年、超音波機器、MRIなどの画像検査法の発達により、出生前に胎児異常が見つかる症例が増えています。このような場合は、産科への母胎搬送の後、産科、新生児科などの周産期医療チームと連携を取りながら、分娩時の緊急事態に備え、重篤な小児外科疾患に対して迅速な対応ができるようにしています。

◆ 小児がん拠点病院としての小児がんに対する高度外科治療の実践

平成25年に当院は地域の小児がん治療の拠点病院として、厚生労働省により「小児がん拠点病院」の一つに制定されました。ここでは、小児科や関連診療科とともに小児がん患者さまに対して集学的治療を行っており、当科は高度外科治療として、腫瘍生検、腫瘍切除、臓器移植、外科的支持療法を行っております。また、カンサーボードにより常に多診療科や多職種スタッフと連携しています。さらに当院のみならず、全国からの外科治療に関するセカンドオピニオンも受け付けております。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
一 診		【初・再診】 小野 教授(AM) 【再診】 青井 客員講師(PM)		【初・再診】 金 助教(AM・PM)	【初・再診】 高山 助教(AM・PM)
二 診	【初診】 担当医(AM)	【初・再診】 文野 講師(AM) 【再診】 高山 助教(PM)	【初診】 担当医(AM)	【初・再診】 井口 助教(AM・PM)	【再診】 担当医(AM) 【再診】 文野 講師(PM)

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
新生児外科 呼吸器 気道疾患 先天性横隔膜ヘルニア 嚢胞性肺疾患 消化器 食道閉鎖症 小腸閉鎖症 直腸肛門奇形 腹壁異常 腹壁破裂、臍帯ヘルニア	集中呼吸循環管理 集中呼吸循環管理（体外膜型人工肺） 集中呼吸循環管理 集中呼吸循環管理 集中呼吸循環管理 病型診断（X線撮影、尿道造影） 輸液・呼吸・循環管理	硬性気管支鏡、気管形成術 横隔膜修復術 肺切除術 根治手術 根治手術 人工肛門造設、根治手術 緊急手術（一次的または二次的手術）
小児悪性腫瘍	小児科、放射線科、病院病理部など、カンサーボードによる集学的治療の一環としての手術治療	腫瘍生検、腫瘍摘出術
肝・胆道疾患 胆道閉鎖症 胆道拡張症	他の乳児期肝疾患との鑑別診断 脾・胆管合流異常の有無の診断	肝門部空腸吻合術 胆道再建術
漏斗胸	重症度および手術適応の診断	矯正バーによる胸腔鏡補助下胸骨挙上術
便秘の診断・治療 ヒルシュスプルング病 慢性便秘症	注腸検査、直腸肛門内圧検査及び 直腸粘膜生検による鑑別診断	根治手術 内服、浣腸による排便管理
排便障害 遺糞症、直腸肛門奇形術後	注腸検査、直腸肛門内圧検査	内服、浣腸による保存的治療
重症心身障害児（成人例も含む）の消化管機能障害	原因検索を行い手術治療の必要性を検討します。（造影検査、pHモニター、食道インピーダンス、3D-CTなど）	腹腔鏡下噴門形成術・胃瘻造設術・喉頭気管分離術など
小児外傷、急性腹症、異物誤飲（例：実質臓器損傷・急性虫垂炎・腹膜炎、腸閉塞、急性陰嚢症、腸重積、消化管・気道異物など）	各病態に応じた迅速な診断治療	24時間体制で救急受入します。下記にご連絡下さい。
鼠径ヘルニア・陰嚢水腫・停留精巣	診断がつき次第、手術予定をたてます。	鼠径ヘルニア・陰嚢水腫手術（Potts法・腹腔鏡手術の両方を症例に応じて行っています。） 精巣固定術（鼠径法・陰嚢法・腹腔鏡法を選択します）

2023年1月～12月の症例数

入院患者数	536
男児	279
女児	257
新生児症例	26
死亡数	0

総手術数	306
新生児手術数	17
内視鏡下手術	79

府立医大 小児外科 医局 TEL 075-251-5809 FAX 075-251-5828
 ホームページアドレス <http://pedsurg.kpu-m.ac.jp/>

救急対応 小児医療センター外来 TEL 075-251-5043（外来時間帯）
 救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

小児心臓血管外科

■ スタッフ紹介



診療部長
おだ しんいちろう
小田晋一郎
教授 (H10)

やまぎし 山岸 ふじた 藤田 なかつし 中辻 ふ 夫 ごとう 後藤 さえん 佐園	まさあき 正明 しゅうへい 周平 ひろき 拓興 はるか 悠 やすたか 泰孝 かいと 海渡	特任教授 (S58) 小児心臓血管外科 助教 (H22) 小児心臓血管外科 医員 (H26) 小児心臓血管外科 医員 (H26) 小児心臓血管外科 医員 (R3) 小児心臓血管外科 医員 (R4) 小児心臓血管外科
---	---	--

■ 私たちの業務

子どもの心臓病（先天性心奇形）は病態、治療方法とも多岐にわたります。当科では診断方法の進歩、手術手技の工夫、手術補助手段の向上、術後管理方法の改良によって、良好な手術成績が得られており、年間手術症例数も本邦トップクラスとなりました（2014年：149例、2015年：170例、2016年：185例、2017年：167例、2018年：190例、2019年：163例、2020年：125例〔新型コロナウイルス感染症の影響のため減少〕、2021年：134例〔同左〕、2022年：153例、2023年：170例）。また手術成績の向上（術後30日死亡数 2017年：0例、2018年：1例、2019年：0例、2020年：1例、2021年：0例、2022年：1例、2023年：1例）とともに、術後遠隔期には健康な子どもと同様の生活能力、運動能力を得られるようになってきました（Quality of Lifeの向上）。

当科では常に手術成績の向上のために創意工夫を続けることをモットーとしており、世界的にも先進的な外科治療を行っています。数年前までは救命困難と考えられていた特別な心臓病の子どもたちも含めて、新生児から学童、成人にいたる様々な先天性心疾患に対して安全に手術を受けていただけるようになっていきます。また手術法だけでなく人工心肺手術時の血液透析の併用など補助手段の改良にも取り組んでいます。

◆ 新生児心臓手術

小児、先天性心疾患特有の生理、血行動態に合わせて最適のタイミングで適切な手術をできるように心がけています。一般病棟、小児集中治療室（PICU）に24時間受け入れ可能な体制をとっています。

◆ 低侵襲手術

無輸血心臓手術や整容性にも考慮した小切開手術にも積極的に対応しています。

◆ 独自開発の術式

自己組織の利用、生体適合素材の利用により子どもの成長に合わせた独自の外科治療の開発を行っています。

◆ 入院期間の短縮

心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などの軽症例では早期退院により、幼児・学童の幼稚園、学校への早期復帰を促しています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診			小田 藤田 (予約制)		山岸 (不定期、予約制)

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
心房中隔欠損症	幼児期・学童期の心内修復術	整容性を考慮した小切開手術（腋下の限局的切開：約5～7cmの小切開）
心室中隔欠損症 （肺高血圧あり）	乳児期の心内修復術	心肺機能温存のための乳児期早期手術、一酸化窒素吸入療法
心室中隔欠損症 （肺高血圧なし）	幼児期・学童期の心内修復術	無輸血手術、小切開手術
部分肺静脈環流異常症	幼児期・学童期の心内修復術	Double-Decker手術（独自開発）
ファロー四徴症	乳児期：姑息手術 幼児期：根治手術	人工血管による体-肺バイパス手術 Gore-Tex弁付きパッチ（独自開発）を用いた右室流出路再建術
完全大血管転位症	新生児期・乳児期の心内修復術	大血管スイッチ手術（Jatene手術） 冠動脈移植手術（ハーフトーントランカス スイッチ手術：独自開発）
単心室症		上大静脈-肺動脈吻合術（Glenn手術）を経た 下大静脈-肺動脈吻合術（Fontan手術：機能的 根治手術）
大動脈弁狭窄・閉鎖不全症	幼児期・学童期の心内修復術	自己肺動脈弁-大動脈弁移植術（Ross手術） Gore-Tex弁付き導管（独自開発）による右室 流出路再建術
総肺静脈還流異常症	新生児期・乳児期の根治手術	共通肺静脈-心房吻合術 左房後壁転位術（独自開発）
左心低形成症候群	新生児期：第1回姑息手術 乳児期：第2回姑息手術 幼児期：機能的根治手術	大動脈再建術（Norwood手術） 上大静脈-肺動脈吻合術（Glenn手術） 下大静脈-肺動脈吻合術（Fontan手術）
主要体肺動脈側副動脈合併肺動脈閉鎖症	乳児期・幼児期の段階的修復術	肺動脈統合術および肺動脈形成術 Gore-Tex弁付き導管（独自開発）による右室 流出路再建術

府立医大 小児心臓血管外科 医局 TEL 075-251-5837 FAX 075-251-5837
ホームページアドレス <http://cvs-kpum.com>

救急対応 小児医療センター外来 TEL 075-251-5043（外来時間帯）
救 急 外 来 TEL 075-251-5645・5646

歯 科

■ スタッフ紹介



診療部長
かなむら なりさと
金村 成智
病院教授 (S59)
歯科医学全般

やまもと 山本 俊郎	としろう おおせこ 大迫 文重	病院准教授 (H7)	歯科保存学、口腔外科学、障害者歯科学
あだち 足立 圭司	けいじ 小野龍太郎	講 師 (H13)	歯科保存学、口腔外科学、障害者歯科学
ふじの 藤野あかね	てつや 足立 哲也	助 教 (H15)	歯科保存学、口腔外科学、障害者歯科学
あだち 足立 哲也	み か 高松 美香	助 教 (H27)	歯科保存学、口腔外科学、障害者歯科学
		助 教 (H17)	歯科補綴学
		助 教 (H18)	歯科保存学、障害者歯科学
		医 員 (H25)	歯科保存学、障害者歯科学

■ 私たちの業務

歯科医学全般に対応 診療分野は、ほぼ全ての歯科疾患を対象としています。また、歯科疾患を有した有病者の治療を数多く手がけており、特に全身疾患（基礎疾患）があり一般開業歯科医では歯科治療を受けられない患者の治療に重点を置いています。

◆ 歯髄・根尖性歯周組織疾患

歯科の二大疾患である齲蝕が進行して発生し、症状としては著しい疼痛を伴います。治療としては、適切な根管治療が必要であり、日本歯科保存学会指導医・専門医を中心とした医員が治療を行っています。

◆ 歯周疾患

歯科の二大疾患のひとつで、歯科領域の生活習慣病といわれています。慢性疾患であるため長期的かつ計画的な治療、並びに歯科衛生士による口腔衛生指導を行っています。さらに歯周外科手術が必要な症例は、歯周病専門外来で対応しています。

◆ 口腔外科疾患

顎骨内埋伏歯、炎症、顎口腔腫瘍、嚢胞、外傷などに対して、術後の口腔形態及び機能温存に配慮した手術法にて対応しています。手術は中央手術室もしくは局所麻酔手術センターで実施しています。

◆ 有病者・障害者の歯科治療

医員は本院麻酔科において医科麻酔科研修を修了しており、外来通院下または入院下にて、一般歯科治療から障害者歯科治療、そして口腔外科疾患にいたるまで、日本障害者歯科学会指導医・認定医を中心とした医員が治療に当たっています。また、歯科治療恐怖症の患者などに対しても、笑気吸入鎮静法や静脈内鎮静法を用いた歯科治療や手術を行っています。

◆ 歯科インプラント治療

全顎的な検査を行い、口腔一単位とした総合的な治療を行っています。全症例にCT撮影を行い、術前シミュレーションソフトによる解析を実施しています。症例に応じて、外科用ステントを使用し、安全かつ確実な手術を実施しています。

◆ 顎関節疾患

顎や筋肉の痛み、顎を動かすと音がする、口が開かないなどの症状を呈する顎関節症に対し、運動療法、薬物療法、スプリント療法などの保存的療法を施行しています。

◆ 歯科矯正

唇顎口蓋裂といった口腔領域の先天異常等の公費助成対象症例に限り、医科と連携し、歯科矯正専門医（非常勤医）を中心とした医員による治療を行っています。

◆ ドライマウス（口腔乾燥症）

医科と連携をとり、口腔ケア・ドライマウス専門外来にて検査等にて病状を把握し、適切な対応法の選択および治療を行っています。

◆ 周術期の口腔機能管理（口腔ケア）

がん等に係る手術や、放射線療法、化学療法、移植療法、緩和ケアを受けられる患者に対して、周術期口腔ケアチームが術前から術後に至るまでの口腔機能管理（口腔ケア）を実施しています。また、人工呼吸器サポートチーム、頭頸部がん患者に対する周術期口腔ケアサポートチームならびに小児緩和ケアチームに参画しています。

◆ その他

各種医療用レーザーを用いた治療、顎顔面補綴などの特殊な治療も行っています。また、睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置による治療も行っています。救急に関しては、京都で唯一歯科疾患全般に対し24時間体制をとっています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

曜日	月		火		水		木		金	
	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師	外来名	担当医師
歯科	初診	山本俊郎 病院准教授	初診	大迫文重 講師	初診	金村成智 病院准教授	初診	小野龍太郎 医員	初診	足立圭司 医員
	再診（予約制）	高松美香 医員	再診（予約制）	山本俊郎 病院准教授	〃	高松美香 医員	〃	藤野あかね 医員	再診（予約制）	山本俊郎 病院准教授
	〃	担当医	〃	高松美香 医員	再診（予約制）	小野龍太郎 医員	〃	〃	〃	小野龍太郎 医員
	〃（第2週）	大迫文重 講師	〃	担当医	〃	担当医	〃（第1・3・5週）	雨宮 傑 客員講師	〃	高松美香 医員
	〃（第1・3・5週）	小野龍太郎 医員	〃	〃	〃（第2・3・4・5週）	足立圭司 医員	〃（第1・3・5週）	西垣 勝 客員講師	〃	担当医
(午後)	再診（予約制）	小野龍太郎 医員	再診（予約制）	大迫文重 講師	口腔ケア・ドライマウス外来（第1・3週）	小野龍太郎 医員	歯周病外来（予約制）	足立圭司 医員	再診（予約制）	大迫文重 講師
	〃	高松美香 医員	〃	小野龍太郎 医員	〃	〃	再診（予約制）	藤野あかね 医員	〃	足立圭司 医員
	〃	担当医	〃	高松美香 医員	再診（予約制）	足立圭司 医員	〃	担当医	〃	小野龍太郎 医員
	〃（第1・2・3・5週）	大迫文重 講師	〃	担当医	〃	高松美香 医員	〃（第1・3・5週）	雨宮 傑 客員講師	〃	高松美香 医員
	〃	〃	〃	〃	〃（第2・4・5週）	小野龍太郎 医員	〃（第1・3・5週）	西垣 勝 客員講師	〃	担当医

■ 実際の診療

病名・病態	必要な診療	当科の対応
●一般歯科疾患 う蝕 歯髄疾患 根尖性歯周組織疾患 歯周疾患（歯周病）	画像診断（歯科用X線等） 保存修復処置等 根管治療等 根管治療、外科的歯内療法等 歯周治療、歯周外科手術等	外来診察にて対応。 外来診察にて対応。 外来診察（局所麻酔手術センター等）にて対応。 外来診療（局所麻酔手術センター等）にて対応。 症例に応じて歯周病専門外来にて対応。
●口腔外科疾患 顎骨内埋伏歯、智歯周囲炎（親知らず） 顎骨骨髓炎、歯性上顎洞炎、重症歯性感染症 顎口腔腫瘍、嚢胞 顎骨骨折 歯牙脱臼 口腔内、その周囲の裂傷 顎変形症	画像診断（歯科用X線、CT、MRI、骨シンチ等）、細菌検査、細胞診、組織診断、血液・尿検査等 消炎処置、抜歯術 消炎処置、薬物療法、外科的処置等 外科的処置 整復固定術（観血的・非観血的） 外科的処置、固定処置 外科的処置 外科的処置	外来診療にて検査実施。 外来診療（局所麻酔手術センター等）にて対応。 症例に応じて、入院下で対応。 外来通院にて対応。重症例については入院下にて対応。救急対応も可能。 外来診察後、入院下にて対応。 外来通院にて対応。重症例については入院下にて対応。救急対応も可能。 外来診察後、入院下にて対応。
●有病者・障害者の治療	医科との連携、画像診断（歯科用X線等）、血液・尿検査、笑気吸入鎮静法・静脈内鎮静法・局所麻酔・全身麻酔での歯科処置等	外来診療（局所麻酔手術センター等）にて対応。 症例に応じて、入院下で対応。
●歯科インプラント治療	画像診断（歯科用X線、CT）、血液検査、術前シミュレーション解析、人工歯根埋入術等	外来診療（局所麻酔手術センター等）にて対応。
●顎関節疾患	画像診断（歯科用X線、MRI等）、運動療法、薬物療法、スプリント療法等	外来診療にて対応。
●歯科矯正	医科との連携、画像診断（歯科用X線）、歯科矯正治療等	口腔領域の先天異常等の公費助成対象症例に限り、外来診療にて対応。
●ドライマウス（口腔乾燥症）	医科との連携、血液検査、刺激時唾液分泌量測定検査（ガムテスト、サクソテスト）、口腔水分計による検査等	外来診察後、口腔ケア・ドライマウス専門外来にて対応。
●睡眠時無呼吸症候群	医科との連携、画像診断（歯科用X線等）、口腔内装置の作成等	外来診療にて対応。
●周術期の口腔機能管理（口腔ケア）	医科との連携、画像診断（歯科用X線）、周術期における口腔衛生指導等	外来診療にて対応。当院入院患者については院内ラウンドにて対応。

歯科診療実績（2023年度）

外 来	
延べ外来患者数	41,897名
初診患者数	3,816名

入 院	
延べ入院患者数	1,095名
新規入院患者数	218名

手術症例（全麻・局麻手術）	
手術件数	498例
腫瘍	34例
外傷	8例
炎症	27例
嚢胞	52例
抜歯（埋伏歯等）	368例
その他	9例

府立医大 歯科 医局 TEL・FAX 075-251-5641

ホームページアドレス <http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/clinical-departments/dentistry.html>

救急対応 歯科外来 TEL 075-251-5043（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

移植・一般外科

■ スタッフ紹介

のぼり 昇 しゅうじ 修治 講師

腎移植・肝移植・脾移植 一般外科

■ 診療業務

◆ 現在、移植手術は行っていません。

腎臓移植手術は、腎臓内科と泌尿器科が担当しています。

臓器移植後（腎移植、肝移植、脾移植）の免疫抑制療法についての診療はこれまでと同様に継続しています。

臓器機能に応じた免疫抑制剤の調整、臓器障害を生じ得る疾患（高血圧や糖尿病、感染症等）の診療を行っています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

	月	火	水	木	金
	昇 〈腎移植・肝移植・ 脾移植〉		昇 〈腎移植・肝移植・ 脾移植〉		昇 〈腎移植・肝移植・ 脾移植〉

府立医大 移植・一般外科

外科外来 TEL 075-251-5020（外来時間帯）

救急外来 TEL 075-251-5645・5646

漢方外来

■ スタッフ紹介



みたに かずお
三谷 和男

特任教授(S58)
東洋医学、内科学(脳神経内科)、
日本東洋医学会
漢方専門医・指導医、日本医師
会認定産業医

やまざき たけとし
山崎 武俊 医員(H4)

東洋医学、内科学(循環器内科)、日本東洋医学会漢方専門医・指導医、
日本内科学会認定医、日本循環器病医学会専門医

■ 私たちの業務

◆【病人様のための治療手段 漢方外来の特徴】

伝統ある京都府立医科大学病院という世界の最先端の治療を受けることが出来る環境の中での漢方診療は、決して西洋医学と対峙するものではありません。むしろ、西洋医学的な手法を存分に活かす中で、漢方治療を受けていただくことが出来ます。日本の医療体系は西洋医学が土台となっています。その前提で、漢方診療が展開されます。

「患者様と病人様の違いは?」「え?それって、同じじゃない?」いえ、来院される方の「つらさ、しんどさ」の裏づけとなる病変が客観的に(検査データ上)認められる場合には、まず西洋医学的な治療が優先されます。これが「患者様」の治療です。しかし「検査ではどこも悪いところはないんだけど、不調なんです」とおっしゃる方も多くおられます。そういった方々に対しても、漢方治療は大きな役割を果たします。これが「病人様」の治療です。来院される方の「つらさ」を丸ごと受け入れて治療を進めていくことは、漢方外来の大きな特徴です。「漢方薬を飲むこと」だけが漢方治療ではありません。来院される方の心身の中で起きている、様々な矛盾は何か?をともに考えていくわけです。

私たちは、いつも来院される皆さまと一緒に歩んでゆきたいと思っています。ですから、私たちが来院される方々の訴えをしっかり受けとめて、ともに共同作業で治療を進めると、「漢方治療って本当にいいですね」ということが理解していただけたと思います。

どうぞ、よろしくお願いします。

◆一より円滑な診療のためにお願い—

- 1) 現在かかっておられるお医者様の紹介状をなるべくご持参ください。紹介状がない場合には、まず総合診療科を受診していただいてからとなりますので、よろしくお願いいたします。
- 2) 漢方外来は予約制となっております。初診の患者様は当日の担当医が診察させて頂くことになりますので、特定医師あての紹介状をお持ちの場合はその医師の担当の曜日に御受診ください。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
初診・再診			山崎(第3週)	三谷(第4週)	

府立医大 漢方外来 TEL 075-251-5937 FAX 075-252-3721
内科外来 TEL 075-251-5020 (外来時間帯)

感染症科

■ スタッフ紹介



診療部長
ぬくい ようこ
貫井 陽子
教授（H11）
感染症内科学、
感染制御学、
薬剤耐性菌、
熱帯医学

診療副部長	やまもと ちえ 山本 千恵	助教（H22）	感染症学・呼吸器感染症学
助 教	ふるかわ いたろう 古川恵太郎	助教（H22）	感染症学・微生物学
助 教	はまし りょうすけ 濱島 良介	助教（H26）	感染症学・呼吸器感染症学・真菌感染症

■ 私たちの業務

京都府立医科大学附属病院は京都府で唯一の第一種感染症指定医療機関であり、またエイズ治療拠点病院にも指定されています。これらを含む感染症診療の充実のため、2014年度より感染症科が開設されました。また2015年6月には、海外渡航される皆さまの健康をサポートするため「渡航ワクチン外来」を開始しました。私たちは、日々発信される感染症の最新情報をいち早く現場に取り入れ、最適な医療を提供できるよう心がけています。

■ 感染症外来…当院感染症科外来では輸入感染症（マラリア、デング熱、渡航者下痢症など）やHIV/AIDS、梅毒 その他感染症全般の診療を行っています。

日本人の海外渡航者数はコロナ前までは急増しており、ポストコロナにおいても増加が見込まれています。海外で感染症にかかる事例も散見され、耐性菌感染症や熱帯病（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌、マラリア、デング熱、寄生虫感染など）は大きな脅威となっています。これらを適切かつ迅速に診断することは感染症指定病院の責務と考えますが、当科では臨床検査部と連携をとり、各種迅速検査、培養検査、遺伝子検査等を駆使して早期診断に努めております。

また当院はエイズ治療拠点病院として、より充実したHIV・AIDS診療を実施するため基盤を整備しました。HIV感染症は未だに治る病気ではありませんが、昨今の治療薬の進歩により「HIV感染症＝死の病気」ではなくなり、慢性的な感染症として位置づけられるようになっていきます。したがってHIV/AIDS患者さんが長期に安心して療養できるよう、当院では専門の医師が、薬剤師・社会福祉士を含む多くの関係者と綿密に連絡をとり、病気のコントロールだけでなく社会的・精神的にもサポートを行っています。

■ 渡航ワクチン外来…海外旅行・留学や海外赴任者のためのワクチン接種を行っています。当院では各種国産ワクチンのほか、海外製ワクチン（狂犬病ワクチン、A型肝炎ワクチン、腸チフスワクチン、麻しん、風しん、ムンプス三種混合ワクチン（MMR）、百日咳・ジフテリア・破傷風ムンプス三種混合ワクチン（Tdap））も取り扱っており、幅広いニーズにお応えすることが可能です。

① 渡航者相談 ② 予防接種 ③ マラリア予防についてのアドバイス ④ 証明書の作成

■ 感染症科コンサルテーション…各診療科に入院中の患者さんの感染症に関するコンサルテーションを受け、必要時には併診で診療にあたります。

府立医大 感染症科 連絡先 TEL 075-251-5652（感染制御・検査医学教室）
渡航ワクチン外来 TEL 075-251-5134（予約直通）

リハビリテーション科

■ スタッフ紹介



診療部長
三上 靖夫
教授 (S60)
リハビリテーション医学

さわだこうしろう 沢田光忠郎	(H15)	准教授
おおはしすずよ 大橋 鈴世	(H8)	講師
かわさきとし 河崎 敬	(H17)	講師
かきたまり 垣田 真里	(H18)	助教
さくらいももこ 櫻井 桃子	(H27)	助教

■ 私たちの業務

■ 外来診療

リハビリテーション科専門医による専門的な診断、治療、コンサルテーションなどを完全予約制で行っております。具体的な診療内容は以下をご参照ください。

- 様々な疾患が原因で生じた障害に関する診療
麻痺や高次脳機能障害などで生じた移動能力、食事能力、コミュニケーション能力の低下などを有する方の今後の対応について診療を行います。
- 脳血管障害や脊髄損傷で生じた痙縮に関する診療
脳血管障害や脊髄損傷によって生じる障害のひとつに、筋肉が突っ張ってしまう「痙縮」という症状があります。痙縮の部位、程度、日常生活の様子に応じて、運動療法、装具療法、ボツリヌス療法、ITB（髄腔内バクロフェン療法）など、適切な治療を提供します。
- 補装具に関する診療
これまで義肢、装具、杖、車いすなどを使用されてきた方や、今後の使用を希望される方に対して、義肢装具士などと連携し、身体機能、日常生活などに適した機器の選定・適合を行います。
- ポストポリオ症候群の発症・進行予防に関する診療
幼少期にポリオ（脊髄性小児麻痺）に罹患した方は、大人になってから、さらに筋力低下、機能低下などを生じる「ポストポリオ症候群」を発症する場合があります。この発症・進行予防目的の運動療法、補装具療法、生活改善などについて、ご相談に応じます。
- バラスポーツに関する診療
バラスポーツは、障害をお持ちの方の健康増進、生きがいの創造にも貢献します。すでに取り組まれている方、ご興味のある方はご相談ください。京都府立城陽リハビリテーション病院やサン・アビリティーズ城陽などと連携しています。

※当院では外来通院によるリハビリテーション治療（理学療法、作業療法、言語聴覚療法）は、実施しておりません。必要に応じて、当院短期入院または他施設の紹介で対応させていただきます。

※可能であればご持参いただきたいもの：原因となる疾患の発症から現在までの経過をまとめたメモ、これまでのリハビリテーション治療の内容に関する資料、過去に使用された、あるいは現在使用中の補装具、お薬手帳、身体障害者手帳、介護保険証 など

■ 入院診療

筋力低下、麻痺、痙縮歩行障害、摂食嚥下障害、言語障害、呼吸機能障害をはじめとした日常生活活動の低下を有する患者さんに対して、各診療科医師、病棟看護師、リハビリテーション部療法士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、義肢装具士などとチームを組んで、リハビリテーション治療を提供しています。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

曜日	月	火	水	木	金
担当	河崎	垣田	三上	沢田	大橋・櫻井
専門	リハビリテーション 診療一般 脳血管障害 脊髄損傷 バラスポーツ	リハビリテーション 診療一般 脳血管障害 摂食嚥下障害 脊髄損傷	リハビリテーション 診療一般 運動器障害	リハビリテーション 診療一般 脳血管障害 ポストポリオ症候群	リハビリテーション 診療一般 運動器障害 脳血管障害

府立医大 救急対応 リハビリテーション科外来 TEL 075-251-5013（外来時間帯）
救急外来 TEL 075-251-5645・5646

認知症疾患医療センター

■ スタッフ紹介

なるもと じん 教授
し ば た けいすけ 講師（併任）
な か む ら か え こ 学内講師（併任）
中村佳永子
い ま い あゆ 大学院生
今井 鮎
な か や ま ち か ら 大学院生
中山千加良
い と う あ み PSW
伊東 亜未
ま え だ さ あ や 公認心理師
前田 紗彩
あ ら き ま さ こ 看護師
新木 正子

■ 私たちの業務

京都府立医科大学附属病院は平成23年10月に京都府内最初の認知症疾患医療センターに指定されました。府内唯一の基幹型センターとして、府内9か所に設置されている地域型センターと連携しながら、京都府における認知症対策の企画立案に参加しています。

診療面では、かかりつけ医の先生方や地域包括支援センターなどの保険医療・介護機関等と連携を図りながら、鑑別診断とその初期対応、周辺症状と身体合併症の急性期治療に関する対応、専門医療相談等を実施しています。また、関係者への研修を通して、地域で認知症の人やその家族の生活をサポートできる人材の育成を行っています。

■ 新規相談日・時間

火曜日、木曜日、金曜日の午後、完全予約制です。

■ 対象となる方

認知症の可能性のある方

■ 診療の流れ

1. 平日9時～12時、13時～17時の間に下記専用電話まで、まずお電話下さい。
新規相談日を予約致します。
2. 受診日は患者さんに検査を受けていただき、ご家族からもお話を伺います。
検査：血液検査・心電図・認知機能検査・MRI
3. 2回目は専門医により検査結果の説明、診断、薬の処方、介護等の相談を行います。（月曜日と水曜日：午前・午後、金曜日：午前）

■ 新規相談時の持ち物

健康保険証、お薬手帳、紹介状、過去の頭部CT・MRIデータ

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年4月1日現在

	月	火	水	木	金
午前	今井		中村		中山
午後	成本	新規相談	柴田	新規相談	新規相談

府立医大 認知症疾患医療センター専用電話 TEL 075-251-5566

受付時間：平日9時～12時、13時～17時

中央部門のご案内

医療安全推進部……………	86
感染対策部……………	87
臨床工学部……………	88
医療情報部／診療情報管理室…	89
患者サポートセンター……………	90
循環器病総合支援センター・脳卒中相談窓口	91
移行期医療支援センター……………	92
周産期診療部……………	93
中央手術部……………	94
集中治療部……………	95
リハビリテーション部……………	96
内視鏡・超音波診療部……………	97
臨床検査部……………	98
病院病理部／病理診断科……………	99
輸血・細胞医療部……………	100
臓器移植医療部……………	101
放射線部……………	102
血液浄化部……………	103
がん薬物療法部……………	104
緩和ケアセンター……………	105
疼痛緩和医療部……………	106
遺伝子診療部・遺伝相談室……………	107
救命救急センター……………	108
救急医療部／救急医療科……………	109
看護部……………	110
薬剤部……………	111
栄養管理部……………	112
臨床治験センター……………	113
卒後臨床研修センター……………	114
がん・生殖医療センター……………	115
臨床研究推進センター……………	116
がんゲノム医療センター……………	117

医療安全推進部

■ スタッフ紹介



部長
なかむら たけし
中村 猛
(医療安全推進部
病院教授)

副部長	こうの 河野 正孝 (膠原病・リウマチ・アレルギー科講師)
副部長	おがわ 小川 寛 (疼痛・緩和ケア科講師)
副部長	やまぐち 山口 健司 (病院管理課長)
副部長	なかやま 中山 徳子 (看護部副看護部長)
副部長	くさぎ 草木 等之 (薬剤部副薬剤部長)
安全推進責任者	うちやま 内山 裕美 (看護部看護師長)
安全推進責任者	きむら 木村 美樹 (看護部副看護師長)
安全推進責任者	しばた 柴田 かおり (薬剤部)
部員	こやま 小山 光 (薬剤部副薬剤部長)
部員	おぐら 小倉 敬士 (臨床工学技術課)
部員	こばやし 小林 美彩 (放射線技術課)
部員	とくしげ 徳重 典生 (病院管理課)
部員	にし 西井 勇貴 (病院管理課)
部員	おかし 岡島 洋子 (病院管理課)
部員	あいば 相波 和枝 (病院管理課)

■ 私たちの業務

医療安全は病院長、医療安全管理責任担当副院長のガバナンスのもと、病院の全職員が積極的に取り組んで行くべき課題です。医療安全で患者さんは治りませんが医療安全がなければ患者さんを治すことはできません。医療安全推進部は当院の「医療に係る安全管理に関する業務」を行っています。現在専従4名の職員を含め多職種他部署からの人員で構成されています。医療安全推進部とともに各診療科、各部門、各病棟等の安全管理責任者である「セーフティマネージャー」（令和6年度は110部署96名が任命されています）が当院の医療の安全を担っています。

◆安全管理体制の構築

医療安全指針の作成、医療安全に関する各種委員会の運営調整、対外的業務（特定機能病院のピアレビュー（相互に訪問して医療安全体制を学習する）、法人監査委員会、厚生局・自治体の医療監視、病院機能評価等への対応）等を行っています。また院内（全診療科・全部署）共通に対応したほうが望ましいと考えられる医療行為や緊急時対応について標準的な手順を定めたもの（いわゆるマニュアル等）を整備しています。特定機能病院として高度で挑戦的な医療を、安全を担保しながら各診療科に積極的に行って頂けるように必要な支援を行います。

◆教育・研修の実施

医療安全の基本的な事項や、認定制度等については毎年研修を行うとともに、その時々の特典的テーマに沿って院内専門職の方に講師を依頼し研修を行っています。インターネット環境があればいつでも研修を受けることのできる環境が整備されています。また病院全体のMortality & Morbidityカンファレンスについても集中治療部のご協力のもと、定期的に実施しています。

◆医療事故を防止するための情報収集、分析、対策立案

院内で発生する事象の把握のためには「インシデントレポート」が最も重要です。特定の部署からは、あらかじめ規定された事象が発生した際には報告頂いています（オカレンスレポート）。また院内の全死亡症例は全て経過を確認しています。全ての報告は再発防止のためにあり、責任追及のためではありません。医療安全推進部はこれらの情報に基づいて、さらに情報を収集・分析し、必要時は対策を立案・周知・評価を行っています。

◆医療事故への対応

不幸にして多くは不可避免的に患者さんに一定以上の影響を及ぼすような事態が発生した場合、まずは医療としての最大限の対応と丁寧な説明が求められます。その後医療安全推進部は診療科・部門と一緒に最も適切な対応を考え、再発防止とより良い医療が行えるように必要な業務を行います。

◆安全文化の醸成

医療安全が高度な医療を提供するための重要なインフラであるという意識を全職員が持ち、立場に関係なく気づいたことは積極的にコミュニケーションが取れることが安全な医療の提供のために最も重要です。院内がそのような環境となるように医療安全推進部は日々努力しています。

府立医大 医療安全推進部 TEL 075-251-5747
FAX 075-251-5356

感染対策部

■ スタッフ紹介



部長
ぬくい ようこ
貫井 陽子

(感染症科
診療部長)

副部長	やまもと ちえ 山本 千恵 (感染症科助教)
副部長	ふじい きよこ 藤井 精子 (看護部副看護部長)
副部長	しらが ひさゆき 白神 久敬 (薬剤部副薬剤部長)
副部長	やまぐち けんじ 山口 健司 (病院管理課長)
助 教	ふるかわ いたろう 古川 恵太郎 (感染症科 助教)
助 教	はしま りょうすけ 濱島 良介 (感染症科 助教)
感染管理推進者	きくち けいすけ 菊地 圭介 (感染管理認定看護師)
感染管理推進者	なかにし あやみ 中西 文美 (感染管理認定看護師)
看護師	なかむら なおみ 中村 尚美
薬剤師	あおと かずひろ 青戸 和宏 (薬剤部)
薬剤師	こうぜん りな 幸前 里奈 (薬剤部)
臨床検査技師	きかい りえ 鬼界 里英 (臨床検査部)
臨床検査技師	かすが りこ 春日里佳子 (臨床検査部)

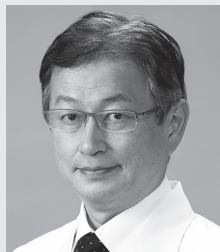
■ 私たちの業務

- ◆ 高度医療において、感染症は克服すべき最重要課題であり、治療の成功を左右します。また院内感染対策は、病院における危機管理のひとつであり、診療科や職種を越えた病院全体での取り組みが必要です。感染対策部は、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職員などの多職種で構成され各々の専門性を生かしながら高度先進医療提供の基盤となる感染制御活動を推進しています。
- ◆ 院内感染とは「病院内で患者及び医療従事者が感染する」ことであり、感染対策部の使命は、
 - 1) 患者さんを無用な感染から守ること。
 - 2) 医療従事者を感染から守り、安全に業務が遂行できるようにすること。患者さんを無用な感染から守るために、すべての医療従事者が手洗いおよび手指消毒をはじめとする感染予防対策が確実に実施できるよう指導教育しています。
医療従事者を守ることは、安全な職場を実現するだけでなく、医療従事者から患者さんへの交差感染を防ぐことにもつながります。
- ◆ 感染対策部の業務は大きく2つに分けられます。
 - 1) 病院内で発生する院内感染を予防すること、あるいは早期に発見し、適切な対応を行うことにより感染を最小限にとどめること。
 - 2) 病院以外の医療施設や介護施設など感染対策を必要とする施設に対して教育・啓発・指導を行い、京都府全体として感染予防対策のレベルをあげること。
- ◆ 抗菌薬適正使用推進チーム (AMT) と感染対策チーム (ICT) :
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA)、バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE)、多剤耐性緑膿菌 (MDRP)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) など多くの耐性菌が報告されていますが、「耐性菌をつくらない」と「耐性菌をひろげない」が重要な対策です。前者は、抗菌薬の適正使用が重要で、抗菌薬の種類や投与期間などについて感染症科とともに感染症治療を積極的に支援しています。
また後者は、適切な感染予防対策が実施されているかを病棟や外来を巡回し、チェックするとともに、感染対策上のアドバイスを実施しています。
- ◆ 耐性菌サーベイランス
耐性菌の出現を検査部と共同でモニタリングしています。
- ◆ 第一種感染症指定医療機関として、入院用病床が2床設置され、一類や二類感染症の患者を収容し治療します。
- ◆ 各診療科に感染対策推進医師1名、各外来及び病棟に感染対策推進看護師さらに中央部門には感染対策推進員を配置し、現場での感染対策が迅速かつ円滑に実施できるように組織づくりがされています。又感染予防対策リンクナース会を設置し、現場での問題解決に努めています。
- ◆ 専従の感染管理推進者を配置し、積極的に感染対策を実施しています。

府立医大 感染対策部 連絡先 TEL 075-251-5748 (部員室)

臨床工学部

■ スタッフ紹介



部長
たかはし けんじ
高橋 謙治
(整形外科
診療部長)

副部長 井上 美帆 (集中治療部副部長)
副部長 畑中 祐也 (臨床工学技士長)
副部長 藤井 精子 (看護部副看護部長)
主任臨床工学技士
小倉 敬士 (臨床工学技士)
副主査 菅原 浩樹 (臨床工学技士)
副主査 吉田 諭 (臨床工学技士)
副主査 関根 知美 (臨床工学技士)
副主査 藤川 拓弥 (臨床工学技士)
主任 坂本 亮 (臨床工学技士)
部員 岩淵 真侑 (臨床工学技士)
部員 山口 裕太 (臨床工学技士)
部員 藤川 万夢 (臨床工学技士)

部員 大野 凌平 (臨床工学技士)
部員 櫻木 海渡 (臨床工学技士)
部員 久富 愛 (臨床工学技士)
部員 石田 剛士 (臨床工学技士)
部員 米田 壺成 (臨床工学技士)
部員 小林明日香 (臨床工学技士)
部員 富樫 颯斗 (臨床工学技士)
部員 新羅 花枝 (臨床工学技士)
部員 下出 吉希 (臨床工学技士)
部員 井關早也香 (臨床工学技士)
部員 井ノ口朋那 (臨床工学技士)
部員 川村 大幹 (臨床工学技士)
部員 中谷 圭 (臨床工学技士)

■ 私たちの業務

高度な医療を提供するためには、医療機器は欠かせないものであり、医療とともに機器もめざましい進歩を見せています。同時に、機器の操作技術や管理も複雑化しており、医療従事者にはこれらを的確に扱うための正しい知識と技術が求められます。

院内では約180品目、5,000台以上の機器類が日々活躍しています。しかし、その機器類の性能を正しく、安全にかつ最大に引き出すには、しっかりとした日常的な保守点検・整備がなされた上で、治療に必要な操作技術が実践されなければなりません。

臨床工学部では信頼性の高い機器、臨床技術の提供並びに支援業務を通じて、より安全な診療体制の構築に取り組んでいます。

臨床工学部内には、医療機器の日常の保守整備を行うためにMEセンターを設置しています。同センターには第1種ME技術者を配置し、医療法で定められた医療機器の点検や日常的な点検・整備を徹底して実施しています。さらに、「確かで安全な機器の提供」を目的に機器の貸出しや医療従事者への研修トレーニングも行っています。

◆ トップレベルの専門技士集団

医療機器の操作は臨床工学技士が行います。症例は複雑多岐にわたり、安全な治療、機器の操作を遂行するには専門的な技術と知識を必要とするため、人工心肺、人工呼吸器、人工透析、特殊血液浄化、心臓カテーテル、不整脈治療、内視鏡に関連する学会の各認定資格を取得し、生命維持装置を必要とする診療を高度な技術面で支えています。

府立医大 臨床工学部 TEL 075-251-5780 (技師室)
075-251-5721 (MEセンター)

医療情報部／診療情報管理室

■ スタッフ紹介



部長
い かい ひろし
猪飼 宏

副部長兼診療情報管理室長（兼）

	阪口 晃一
副 部 長（兼）	岡下 武生
副部長兼副室長	木村 哲也
医 員（兼）	木谷 友哉
医 員（兼）	山本 有祐
医 員（兼）	寺内 竜
医 員（兼）	小原 雄
部 員（兼）	中山 徳子
部 員（兼）	浦松 敬宏
部 員（兼）	土井 恵介
部 員（兼）	芝田 雄登
部 員（兼）	木嶋 健太
部 員（兼）	棚田 康友
部 員（兼）	細谷 凌平
部 員（兼）	池野 寛康
部 員（兼）	奥村 敬太
部 員（兼）	菅原 浩樹
部 員（兼）	藤林 昌浩

部 員（兼）	小島 尚子
部 員（兼）	小田 順子
部 員（兼）	鈴木 優花
部 員（兼）	清水 敏弘
部 員（兼）	梅田 由紀恵
部 員（兼）	寺師 祐介
部 員（兼）	藤居 理加
部 員（兼）	糸数 龍哉
部 員（兼）	小川 慶子
部 員（兼）	水谷 清和
部員兼副室長（兼）	加藤 夏美
部員兼室員（兼）	大澤 透
部員兼室員（兼）	廣部 達也
部員兼室員（兼）	佐藤 益也
部員兼室員（兼）	新谷 明子
部員兼室員（兼）	小林美智代
部員兼室員（兼）	勝田美由紀
室 員（兼）	山本季江

■ 私たちの業務

高度化・チーム化が進む今日の診療現場において府民の皆様に質の高い医療を提供するためには、日々の診療録（カルテ）の記載をはじめ、検査・治療機器から生じる大量の情報を正しく記録し、安全に保管し、効果的に参照・活用できることがますます重要になっています。

1991年発足の医療情報部は部長以下3名の副部長・4名の医員・28名の部員で活動しています。時代に合わせた技術で病院情報システムの企画・開発・運用を行うために研鑽を重ねてきました。会計情報を主とした大型計算機の導入、2001年には光ファイバー通信ネットワークや処方・検査・給食等のフルオーダーリングシステムを実現。2008年に電子カルテ導入以後2014年、2020年の更新に合わせて安全な医療に向けた各種のチェックなど機能の充実を重ねています。他にも、携帯電話への診療予約メール通知システム（予約日の前日にお知らせ）や、千年カルテを活用した処方履歴・検査結果閲覧システムなど、スムーズな受診につながる機能を導入してきました。

2005年設置の診療情報管理室は、室長以下2名の副室長、7名の室員で構成されています。紙カルテ・電子カルテを問わず診療録の適切な管理・保管を軸足として、電子カルテ導入後の紙文書のスキャナ取り込みなどの業務を行っています。さらに2010年からはカルテ記載の量、さらに2015年からはカルテ記載の質を医師・看護師・コメディカルなど複数の目で点検し、精度の高いカルテ記載を支援してきました。

他にも、がん診療連携拠点病院として国や京都府のがん政策に貢献するために「全国がん登録」「院内がん登録全国集計」へのデータを提供したり、高度機能病院として医療の質の可視化・改善を進めるために各種の臨床指標の算出・共有・活用を進めたり、臨床各分野での全国共同研究へ情報技術面から支援したりなど、両部門が互いに協力しながら今後もますます高度化・多様化するニーズに応えてまいります。

府立医大 医療情報部 TEL 075-251-5254

患者サポートセンター

■ スタッフ紹介



副病院長
センター長
たかやま こういち
高山 浩一
(呼吸器内科
診療部長)

副センター長	くぼた たけし 窪田 健	消化器外科准教授
副センター長	つじた ひさこ 辻田比佐子	医療サービス課長
副センター長	みつもと 光本かおり	看護部副看護部長
センター長補佐	やまぐち かんじ 山口 寛二	消化器内科准教授
センター員	いつき ちはる 井月 千晴	病床管理看護師長

■ 私たちの業務

2024年4月に旧「地域医療連携推進部」「入退院センター」「がん相談支援センター」等を一つに統合しPFM（Patient Flow Management）強化のため患者サポートセンターを開設しました。患者さんが安心して生活を送ることができる医療を目指し、入院前から入院中、退院後を見据えて、患者さん一人ひとりの状況に応じた一連の医療を提供するために、効率的・総合的なサポートを実現し、院内のチーム医療の充実を目指します。また、京都府における基幹病院として、患者さんが高度で安全かつ、継続性のある医療を受けられるように、地域の医療機関との病診連携、病病連携を図るとともに、協力しながらそれぞれが持つ機能を分担し役割を果たすことで地域医療の向上をめざし貢献いたします。

◆業務

医療連携

地域の医療機関からの紹介（診療のご予約）、逆紹介に基づく診療に係る連絡調整、地域の医療機関等への当院の情報提供を行っています。

患者相談

患者相談では、疾患に関する様々な悩み、不安、疑問に対し、専門の相談員が皆様のお話を伺い、一緒に考え、問題解決に向けて次の一歩へつなげられるようにお手伝いをしています。がん相談支援センターではがんセカンドピニオンも対応しています。

入退院センター

入院支援

入院の手続きに関する流れ等の情報提供を行っています。入院前の面談を通して患者さんの基本情報や服用している薬剤情報など入院に必要な情報を収集し、入院前から退院を見据えた退院困難要因を抽出し、より早い段階からサポートできるように努めています。患者さんが安全にそして安心・納得して入院し、加療後は早期に住み慣れた地域で療養・生活が継続できるよう診療科や病棟、その他部門と連携・協働を図っています。

退院支援

患者さん・ご家族の退院後の生活の不安や悩みの相談に対応し、医療や看護、介護を要する患者さんの退院後の療養について、情報の提供や調整を行っています。専任の看護師・医療ソーシャルワーカーが、それぞれの専門性を活かしながら、医療・介護・福祉の総合的な視点から、院内のスタッフや地域の医療機関、訪問看護、居宅介護支援事業所、教育機関や福祉関連機関などと連携を取りながら患者さんの思いを尊重した退院調整を行います。

病床管理（ベッドコントロール）

病状や重症度、治療の必要性、患者さん・ご家族のニーズを把握し、病院全体の状況に応じた病床を確保します。患者さんにとって安全かつ適切な医療が提供できるよう、効率的な病床管理を実践します。

府立医大 患者サポートセンター

医療連携	TEL 075-251-5286（直通）
がん相談	TEL 075-251-5283・5284（直通）
がん相談（小児）	TEL 075-251-5605（直通）
入院支援	TEL 075-251-5182（直通）
退院支援	TEL 075-251-5258（直通）

循環器病総合支援センター・脳卒中相談窓口

■ スタッフ紹介



センター長
ま と ば さ と あ き
的 場 聖 明
(循環器内科学
教授)

副センター長

センター員

センター員

センター員

センター員

センター員

センター員

センター員

センター員 (専任)

センター員

センター員

センター員

はしちと

橋本

しらいし

白石

なんと

南都

まるやま

丸山

おほら

尾原

たなか

田中

さわだ

沢田

みつもと

光本

さくらぎ

櫻木

つじた

辻田

まつもと

松本

おがわ

小川

な お や

直哉

ひろかず

裕一

まさたか

昌孝

だいすけ

大輔

ともゆき

知行

ともこ

知子

ひさこ

比佐子

ふみえ

文絵

けいこ

慶子

脳神経外科学教授

循環器内科講師

脳神経外科講師

脳神経外科助教

脳神経内科講師

脳神経内科助教

リハビリテーション科准教授

副看護部長

看護師

医療サービス課長

病院管理課

患者サポートセンター

■ 私たちの業務

京都府立医科大学附属病院では、患者さんやご家族のほか、地域の方々からのさまざまな疑問や不安、悩みにお答えするために「循環器病総合支援センター・脳卒中相談窓口」を開設しています。

当センターでは、心臓病（心血管疾患：急性心筋梗塞、大動脈解離、慢性心不全など）、脳卒中（脳梗塞、くも膜下出血、脳内出血など）等の循環器病の患者さん及びその家族に対し、循環器病の治療やリハビリテーションと介護、福祉、就労に関する適切な情報提供と相談を行っています。

例えばこんなとき…ご相談ください。

- ・自分の病気について説明はされたけどよくわからなかった…
- ・これからのリハビリや運動について…
- ・毎日の食生活について…
- ・仕事や学校と治療の両立について…
- ・気持ちがなかなかおちつかなくて、誰かに話を聞いてもらいたい…
- ・もう一度、社会福祉制度について聞きたいな…

※担当医に代わり治療について判断するところではありませんので、予めご了承ください。

専門相談員が皆様のお話を伺い一緒に考え、問題を解決するお手伝いをしています。

※当院に受診されていなくても無料で相談できます。

※相談された内容が、ご本人の了解なしに担当医をはじめ、他の方にお伝えすることはありません。

どうぞ安心してご相談ください。

※子供から大人までご利用いただけます。

※相談の予約はいりません。

循環器病総合支援センター・脳卒中相談窓口 TEL 075-251-5824

相談時間 月～金（祝日除く） 午前9時～12時 午後1時～4時

（ご来院時は⑨患者相談窓口にお声かけください）

移行期医療支援センター

■ スタッフ紹介



センター長
いえはら ともこ
家原 知子
(小児科教授)

副センター長	ま と ば 聖 明	(循環器内科教授)
センター員	お だ しんいちろう 小田晋一郎	(小児心臓血管外科教授)
	か さい たかし 笠井 高士	(脳神経内科准教授)
	お お そ しんや 大曾根真也	(小児科講師)
	た ま が き けいいち 玉垣 圭一	(腎臓内科講師)
	な い とう やすゆき 内藤 泰行	(泌尿器科講師)
	な か に し な お ひ こ 中西 直彦	(循環器内科学内講師)
	つ か も と た く 塚本 拓	(血液内科学内講師)
	か じ や ま よ う 梶山 葉	(小児科助教)
	た か や ま し ょ う へ い 高山 勝平	(小児外科助教)
	お き む ら ひろゆき 沖村 浩之	(産婦人科助教)
	な か じ ま は な こ 中島 華子	(内分泌・糖尿病・代謝内科病院助教)
	な か い ゆ り こ 中井友理子	(がん相談支援センター、公認心理師・臨床心理士)
	さ くら ともこ 櫻木 知子	(循環器病総合支援センター、看護師)
	た け の うち な お こ 竹之内直子	(小児医療センター 小児看護専門看護師)

■ 私たちの業務

小児期に病気になって成人以降も医療を受ける必要がある患者さんは、小児科等の小児専門の診療科から、内科等の成人専門の診療科へ移行して、診療を受けていくことになります。移行をスムーズに行うためには、患者さんの自立支援等の準備を段階的に進めるとともに、多診療科・多職種でそれぞれの患者さんに合った医療を立案して提供する必要があり、このための医療を移行期医療と呼びます。厚生労働省はすでに、小児慢性特定疾病児童等への移行期医療支援体制を、各都道府県で構築するよう要請しています。

そこで、患者さんが切れ目なく継続して良質な医療を受け、よい人生を歩んでいただくことができるよう支援をする場として、2023年に移行期医療支援センターが設立されました。

(1) 相談窓口

移行に関するご相談に、幅広く対応いたします。社会福祉支援に関するご案内や、就労・自立支援も行います。

(2) 移行期医療ケースカンファレンスの実施

移行期医療を受ける患者さんについて多診療科・多職種でカンファレンスを行い、それぞれの患者さんに最適な医療を検討し、提案します。

(3) 研修

移行期医療に関する研修会を開催し、院内外で移行期医療を担う人材を育成します。

(4) 地域医療機関・支援施設との連携

地域医療の充実、研修会、カンファレンス等を通じて、患者さんが地域でも質の良い医療を受けられることを目指します。

府立医大 移行期医療支援センター TEL 075-251-5605

周産期診療部

■ スタッフ紹介



部長
いえはら ともこ
家原 知子
(小児科教授)

副部長 わらたに みよこ (産婦人科 准教授)
副部長 はせがわ たつじ (小児科 学内講師)
助教 はしぐち かなえ (小児科)
助教 すいき まさし (小児科)
助教 たなか ゆきこ (産婦人科)
助教 もりもと ひでちか (小児科)
助教 しむら こおき (産婦人科)

■ 私たちの業務

当院周産期診療部では、産科病棟、MFICU（母体胎児集中治療室）、NICU（新生児集中治療室）、GCU（新生児治療回復室）から構成されています。

MFICUは2018年4月より開設し、部屋はすべて個室で、現在3床が稼働しています。NICUは2021年8月よりNICU認可病床9床、GCU認可病床12床とNICUが増床され運営しています。また、2021年8月から周産期診療部は京都府総合周産期母子医療センターに指定されました。2004年度より開始された日本周産期・新生児医学会の周産期新生児専門医制度の下、基幹研修施設として、周産期（新生児）専門医を含む小児科医が診察にあたっています。

◆ 診療体制の特徴

MFICUでは、切迫早産、前期破水、妊娠高血圧症候群、胎児妊娠、胎児発育不全、膠原病合併症妊娠などのハイリスク妊娠、常位胎盤早期剥離や大量出血などの集中的治療が必要な症例において、24時間体制で医師と助産師が連携をとり集中的に治療をおこなっています。他に、児の先天性心疾患、消化器疾患、水頭症などの中枢神経系疾患など多くの疾患を扱っており、大学病院のメリットを活かして小児科、小児外科、脳神経外科など他科と連携をとって高度な周産期医療を行っています。

NICUでは、染色体異常を含む先天異常、早産児（出生体重1,500g未満を含む）、SGA（small for gestational age）児、新生児仮死など、集中治療を必要とする新生児を24時間体制で受け入れています。先天性心疾患、神経筋疾患、血液・腫瘍疾患、先天性代謝性疾患なども小児科の各専門グループと共同で治療にあたっています。急性期から退院まで、呼吸循環管理、脳保護、栄養、感染症などの治療を行うとともに、児の成長発達を考え、デベロップメンタルケア、母児愛着形成促進などにも力を注いでいます。

◆ 他科との連携による集学的治療

当院産科では、周産期（母体・胎児）専門医を中心に胎児の出生前診断や合併症を有する妊婦の管理などの診療にあたっています。胎児に見られる心疾患、消化管疾患、中枢神経系疾患、腎・尿路疾患に関しては、小児科循環器グループ、小児心臓血管外科、小児外科、脳神経外科、泌尿器科など関連した科と連携をとり、出生後NICUにて速やかに治療を開始しています。また、児の状態に応じて眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、皮膚科など、多方面にわたり新生児を診ています。

◆ フォローアップ外来（乳児・発達外来）

当外来では、NICUを退院したハイリスク児（発達に何らかの異常を認める可能性のある児）のフォローアップを行っています（毎週月曜日・金曜日：予約制）。早期発見と育児支援を目的とし、京都府内の療育施設と連携をとって診療にあたっています。特にハイリスク児については、学童期まで発達検査を行っています。また、経管栄養（胃瘻を含む）、気管切開、在宅酸素療法、在宅人工呼吸器管理などの医療的ケアが必要な児・その家族に対して、当院地域医療連携室や地域の小児科医師、訪問看護ステーションなどと共に、NICUからの退院支援、退院後の在宅支援を行っています。

◆ 教育

当院では、周産期専門医（新生児、母体・胎児）を取得することができます。また、新生児蘇生法の講習会も開催しております。ご興味のある方は、下記まで連絡をお願いいたします。

府立医大 周産期診療部

周産期(産科)外来

TEL 075-251-5693

NICU

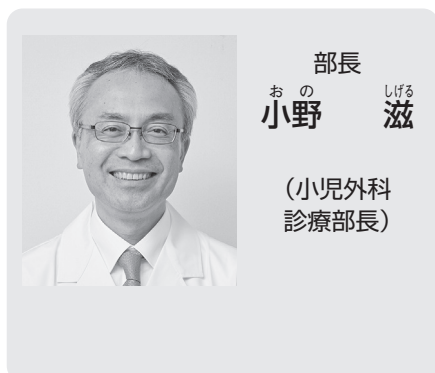
TEL 075-251-5690

小児医療センター外来

TEL 075-251-5043

中央手術部

■ スタッフ紹介



部長
おの しげる
小野 しのぶ
(小児外科
診療部長)

副部長 藤原 ひとし (消化器外科診療副部長)
看護師長 長谷川 佳代
副看護師長 青木 さとこ
山内 かおる
安部 なおこ

■ 私たちの業務

高度で安全な手術を一人でも多くの患者様に1日でも早く提供するために、各診療科と協力して手術室を効率よく配分・運用・管理することに努めています。

【局所麻酔手術センター】

局所麻酔症例の大部分を局所麻酔手術センターで実施し、中央手術部での全身麻酔症例の増加と臨時手術への対応能力の向上を図っています。日帰り手術も行っておりますので、診療科を通じて局所麻酔手術症例のご紹介をお願いします。

【ハイブリッド手術室】

手術台とX線撮影装置とが統合されたハイブリッド手術室では手術と同時に高画質3次元画像を構築し、大動脈のステントグラフト術、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）などの低侵襲手術を行っています。

【ロボット支援下手術】

daVinci Surgical systemを用いたロボット支援下手術を、泌尿器科（前立腺がん、腎がん）をはじめ、消化器外科（胃がん、直腸がん）、呼吸器外科（肺がん）、婦人科（子宮体がん）で行なっています。

【小児手術】

小児外科、および小児の先天性心臓疾患や脳神経疾患（脳腫瘍を含む）に対する高度で安全な手術を数多く提供しています。

【再生医療・移植医療】

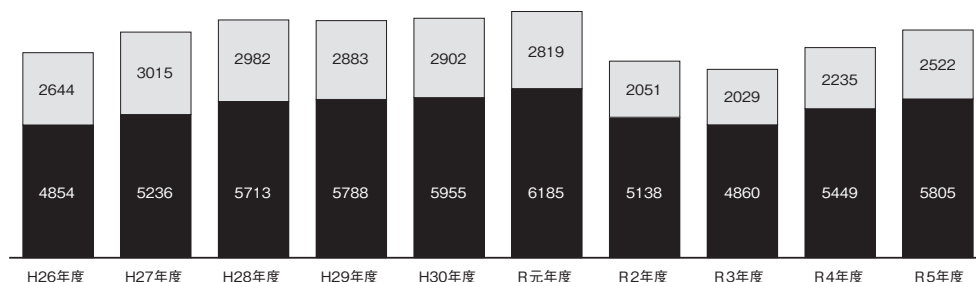
患者さん自身の骨髄幹細胞を用いて新生血管を作る再生医療や腎臓移植、角膜移植などを行っています。

中央手術部の運営は、総勢53名の看護師をはじめ、臨床工学士、看護補助員らの働きにより支えられています。また、新たな要望や問題点は、中央手術部運営委員会（部長、副部長、各診療科委員、各中央部門委員、看護師長、中央手術部看護師長、事務部長、病院管理課長で構成）で検討し、最先端の手術に対応できるように努めています。

さらに、年々増加する手術数（図）に対応するため、手術室を2室増設し（中央手術部、合計14室）、令和元年6月より運営を開始しました。（令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症への対応により手術数の制限を余儀なくされました。）

年度別手術室利用件数

■ 中央手術部 □ 局麻センター



府立医大 中央手術部 TEL 075-251-5890（管理室）

集中治療部

■ スタッフ紹介



部長
こ お ぐ ち くに ひ こ
小尾口邦彦
(麻酔科学教室・
集中治療部
准教授)

副部長	井上 美帆	集中治療、小児集中治療、麻酔
医員	井上 敬太	集中治療、麻酔、心臓血管麻酔
医員	恒石 鉄兵	集中治療、呼吸療法
医員	渡邊 慎	救急医療、集中治療
医員	須藤 和樹	集中治療、麻酔
医員	北口 菖子	集中治療、麻酔
医員	壹岐 豊	集中治療、救急
医員	細野 一樹	集中治療、救急

■ 私たちの業務

集中治療部は上記の専任スタッフで構成され、成人を対象とするICU（中央診療棟5階集中治療部）と、小児を対象とするPICU（同4階小児集中治療室）で重症患者の診療に当たっています。急性期医療を実践する病院の中核的サービス部門として、各診療科と連携・協力しながら安全で質の高い重症患者管理を提供すべく尽力しています。また、主にERからの重症患者を収容するEICUがあり、EICUへのカンファレンスにICU医師が参加し、緊密に情報共有しています。

ICUとPICUをあわせて12ベッドあり、年間合計で約800名の患者さんを収容しています。大学病院ならではの、心臓血管外科術後や循環器内科の高度なカテーテル治療後の患者の入室が非常に多いです。2024年4月に救命救急センターが開設したことにより、ERからの多彩な患者の入室数が増えました。限られたベッド数であるので、ベッドマネージメントの重要性がアップしていますが、各診療科・一般病棟の最大限の協力により医療安全を保っています。

私事ではありますが、筆者は、一昨年7月より当部門に赴任しました。非常に高いレベルの大手術が日常の医療として行われていることに驚きを覚えました。多くの患者は、慢性腎不全、重症糖尿病、虚血性心疾患など併存症を有します。垣根なく各専門診療科が積極的に併診に関与するので、患者の早期回復・早期退院につながっていると実感する毎日です。

人工呼吸器や人工透析器、体外式心肺補助装置など最新の高度医療機器を利用した先進医療も集中治療の特徴としてあげられます。高度医療であるほど医療安全の確保が重要ですが、各専門診療科の医師と集中治療医、さらには看護師・臨床工学技士・薬剤師・管理栄養士、各種院内サポートチームなどの多職種の医療従事者が協働して、複雑な病態の重症患者さんの治療に当たっています。重症患者診療においては集中治療部の医師が主導する集学的チームアプローチが行われることで、患者さんの救命や早期回復に繋がるといわれています。我々の集中治療部はこれを実践できる京都府内でも数少ない施設の一つです。多職種カンファレンスも積極的に行われています。

本院では、大手術や、移植医療、再生医療など、大学病院でしか行えない高度で難しい急性期診療を積極的に推進しています。率直に言って、現在のICU・PICUの病床数はニーズにこたえるのには不十分な面がありますが、整備計画が進んでおり、数年後にはICUを集約しワンフロア化・ベッド数大幅拡充がみこまれています。これにより、さらに医療安全の向上や治療成績の向上に貢献できるのではないかと考えています。

大学病院の使命である教育や研究にも力を入れています。日本全国あるいは世界的な集中治療ネットワークに参画し、臨床研修を遂行しています。質の高い臨床研究により、診療の質が改善され、一人でも多くの重症患者さんが救命できることを目指しています。

リハビリテーション部

■ スタッフ紹介



部長
三上 靖夫
みかみ やすお

(リハビリテーション科診療部長)

副部長（講師）
副部長（講師）
副部長（療法士長）
講師
講師
助教
理学療法士（係長）
理学療法士（係長）
理学療法士（係長）
理学療法士（主任療法士）
理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士

白石 裕一
おほし すずよ
大橋 鈴世
く ぼ 秀一
いのうえ あつお
井上 敦夫
むくだい しげゆき
棕代 茂之
もりい ふ 子
森井 美貴子
おくだ もとき
奥田 求己
やまばた し 保
山端 志保
せ お 和弥
瀬尾 ま い
山名 麻衣
しみず なおと
清水 直人
とえだ あい 葵
戸枝 まき
やまぐち まき
山口 正喜
おだ まきや
織田 将也
もとき りょうすけ
本木 涼介
き た ふみか
喜多 郁果

理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士
理学療法士
作業療法士（係長）
作業療法士
作業療法士
作業療法士
作業療法士
作業療法士
作業療法士
言語聴覚士（主任療法士）
言語聴覚士

松尾 祐香
うえしま ひろ香
上島 大輝
ふじわら そうた
藤原 颯太
よしだ 詳啓
吉田 いのうえ 航
井上 ま 子
木村 眞子
うめもと 明
梅本 あきら
はら だそういちろう
原田 宗一郎
まつい よしなり
松井 善也
かわべ しようこ
河邊 祥子
しんかい こうすけ
新海 弘祐
きたざわ みずき
北澤 瑞希
ろくざわ けいすけ
録澤 景介
さかした ふ 代
阪下 英代
たかはし すみれ
高橋 紫鈴

■ 私たちの業務

リハビリテーション医学・医療は、機能回復のみではなく、心身に障害を持つ人々の全人間的復権を理念として、潜在する能力を最大限に発揮させ、日常生活活動（ADL）を高め、家庭や社会への参加を可能にし、その自立を促進するものです。

リハビリテーション医学の対象となる疾患は多岐にわたり、代表的なものとしては、運動器疾患（骨折などの外傷、変形性関節症、脊椎疾患、リウマチ性疾患、スポーツ障害など）、中枢神経疾患（脳卒中、脳腫瘍など）、循環器疾患（狭心症、心筋梗塞など）、呼吸器疾患、摂食嚥下障害などがあげられます。年齢としても、新生児から超高齢者までが対象となります。

リハビリテーション部は中央診療部門に属し、急性期のリハビリテーション治療（各疾患・障害による合併症や不動による合併症などの予防・早期改善、ADL訓練による社会復帰の推進）を中心とした診療を行います。

診療は、各診療科からの依頼により、リハビリテーション部とリハビリテーション科の医師が診察・評価を行い、理学療法、作業療法及び言語聴覚療法を処方します。理学療法は、運動機能の改善を目標として、筋力増強や関節可動域改善、歩行練習などを行います。作業療法は、麻痺などの機能障害に対しADL能力の改善を目標として訓練を行います。循環器のリハビリテーション治療は心筋梗塞、狭心症、心臓手術後の社会復帰、再発予防および合併症予防を目的として、安全かつ効果的な運動を実施します。言語聴覚療法は、失語症・構音障害・音声障害などによるコミュニケーション障害の改善を目的に治療を行っています。

また、基礎的・臨床的研究にも積極的に取り組み、機能評価室には最新型の3次元動作解析装置を導入し、床反力計による歩行分析、動作解析などを行うことの出来る体制を整えています。学会発表も積極的に行い、リハビリテーション医学の基礎発展に貢献するとともに、実際の臨床の場にフィードバックしていくことを目標としています。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
三上 教授 沢田 准教授 白石 講師 井上 講師 棕代 講師 森井 助教	森井 助教	白石 講師 大橋 講師 棕代 講師	森井 助教	白石 講師 大橋 講師 井上 講師

府立医大 リハビリテーション部 TEL 075-251-5552（受付）

内視鏡・超音波診療部

■ スタッフ紹介



部長
内視鏡室長
こにし ひでゆき
小西 英幸

(内科学教室
消化器内科学
部門准教授)

副部長(超音波室長) やまの てつひろ 山野 哲弘 (感染制御・検査医学教室/
内科学教室循環器内科学部門講師)
講 師(内視鏡室) よしだ なおひさ 吉田 直久 (内科学教室消化器内科学部門講師)

■ 私たちの業務

内視鏡・超音波診療部は2015年に名称変更した新しい部署です。2014年にE棟2階に内視鏡室が、4階に超音波室が移転しました。これまでの中央診断部という名称から、内視鏡や超音波を使用した診断だけでなく、多くの治療を提供していることから「内視鏡・超音波診療部」という名称に変更させていただきました。指導医、専門医を中心に、看護師、検査技師、栄養士などメディカルスタッフとチームを作り、高度かつ安全な医療を府民の皆様に提供したいと考えております。

◆ 内視鏡・超音波診療部内視鏡室の業務について

最新の内視鏡機器を使用し、上部消化管内視鏡検査と下部消化管内視鏡検査は主に内視鏡室で、胆膵内視鏡検査は内視鏡室とレントゲン室で総計11,000件を超える検査や治療を行っています。最近は消化器外科や耳鼻咽喉科との共同で手術場での内視鏡検査を行う機会も増えていきます。

内視鏡機器の進歩には眼を見張るものがあり、操作性は向上し画像は高画質化しており、検査はより楽に、診断はより正確になっています。食道、胃、大腸の通常内視鏡においてもレーザー内視鏡やLED内視鏡などの画像強調内視鏡により見落としのない検査を行い、さらには小腸を観察するバルーン内視鏡や、ズーム機能を備えた拡大内視鏡、先端に超音波発信装置を組み込まれた超音波内視鏡、胆管や膵管内に挿入できる細径内視鏡、カプセル内視鏡などを駆使して診断・治療に当たっています。特に、内視鏡治療に力を注いでおり、早期食道がん、早期胃がん、早期大腸がんおよび十二指腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や胆膵疾患に対する診断・治療など、つねに最先端の機器や手技を取り入れ、内視鏡を使った低侵襲の治療の範囲を広げ、内視鏡手術により多くの早期がんが完治するようになりました。さらに、胃がんの予防対策にヘリコバクターピロリ菌の除菌にも積極的に取り組んでいます。

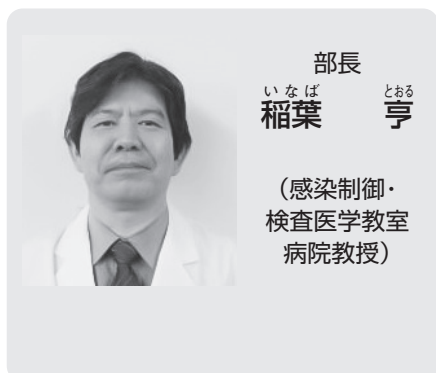
◆ 内視鏡・超音波診療部超音波室の業務について

超音波検査の応用範囲はあらゆる領域に拡大されています。現在超音波室は9室で構成されており、Room 1~4が心臓、血管超音波用、Room 5~9が腹部、泌尿器、体表用に使用されています。現在10台の超音波診断装置が稼働しており、多くの科の医師によって毎日検査が行われています。超音波検査件数は増加の一途をたどっており、年間の超音波検査回数は総計13,000件を超え、医師だけでなく臨床検査技師による検査も導入しています。心臓部門では通常の経胸壁心エコー図検査に加えて各種負荷心エコー図検査、さらに年間約500件の経食道心エコー図検査を最新の三次元超音波装置を使用して実施しています。腹部一般用のすべての超音波装置に、臓器血管の描出が可能なドブラ装置が搭載されています。併せて、臓器や腫瘍の硬度測定が可能です。さらに、2020年度からは、RVS(Real-time Virtual Sonography)下ラジオ波焼灼術も行っています。超音波検査はきわめて簡便で身体にまったく負担がなく、多くの疾患の診断や経過観察に利用されており、現在の社会的ニーズに最もかなった検査法と考えられます。今後もその需要は一層拡大するものと思われ、スタッフ一同は超音波診断技術の一層の向上に努めています。

府立医大 内視鏡・超音波診療部 超音波室 TEL 075-251-5744
同内視鏡室 TEL 075-251-5644

臨床検査部

■ スタッフ紹介



副部長	やまの 山野 哲弘 (感染制御・検査医学教室講師)
医 員	やまもと 山本 千恵 (感染制御・検査医学教室助教)
技師長	やまだ 山田 幸司 (臨床検査技師)
副技師長	きさだ 笹田 裕司 (臨床検査技師)
係 長	しもつま 下間 雅夫 (臨床検査技師)
係 長	かとう 加藤 ゆず子 (臨床検査技師)
主任臨床検査技師	たにの 谷野 洋子 (臨床検査技師)
主任臨床検査技師	さかい 坂井 貴光 (臨床検査技師)

■ 私たちの業務

- ◆ 「患者さんのための臨床検査」と「臨床現場で必要とされる検査部」を基本理念に、迅速、正確・精密、親切・丁寧、連携、毎日、効率を基本方針に掲げ、日々業務を行っております。

◆ 検体検査室

生化学免疫血清部門

生化学検査をはじめ甲状腺機能検査、腫瘍マーカー検査、肝炎ウイルス検査等を、原則的に年中無休（24時間、365日）で迅速（検体受付から結果報告まで1時間以内）に実施しています。また脳脊髄液検査や胸水・腹水などの穿刺液検査なども実施しています。

血液検査部門

血液内科や小児科と連携して年間700件以上の骨髓穿刺検査の診断にあたりとともに、血液疾患の診断に関する関連諸施設からのコンサルテーションに応じています。フローサイトメトリー部門では各診療科と連携して造血器腫瘍の診断やリンパ球機能の解析等を行っています。また、関連諸施設からの特殊検査依頼にも適宜対応しています。

一般検査部門

尿検査は全身状態のスクリーニングや腎疾患の検査として重要です。一般検査部門では尿の定性・定量検査及び尿細胞形態検査を実施しています。また、消化器の検査として便潜血検査や、食生活の多様化に伴い最近問題になりつつある寄生虫検査も行っています。さらに、関節液検査なども実施しています。

◆ 感染症検査室

感染症検査部門

21世紀は「感染症の世紀」と言われ、薬剤耐性菌やウイルス感染症をはじめ、新興・再興感染症が世界中で問題になっています。感染症検査部門では、年中無休体制で細菌・真菌の塗抹検査や培養検査を実施するとともに、感染症の遺伝子検査や免疫学的検査による感染症迅速検査を行っています。また、関連諸施設からの特殊検査依頼にも適宜対応しています。さらに、感染対策にも積極的に取り組んでいます。

◆ 生理検査室

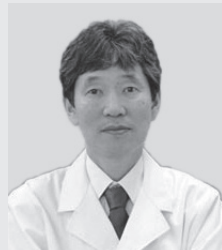
生理検査部門

近年、生活習慣病の増加に伴い循環機能検査の需要は高まる一方であり、安静時心電図以外にも24時間血圧&ホルター型心電図、トレッドミル、脈波伝播速度、血管エコー（頸部・下肢動静脈エコー）、腹部エコーや心エコー、心肺運動負荷試験等を実施しています。またピロリ菌感染の有無をみる尿素呼気試験や体液量測定・体脂肪バランス測定等の検査も実施しています。

府立医大 感染制御・検査医学教室 医局 連絡先 TEL 075-251-5652

病院病理部／病理診断科

■ スタッフ紹介



部長
こにし えいいち
小西 英一
(病理学教室人体病理学部門
病院教授)
(乳腺・骨軟部)

副部長
医 員
医 員

みやがわ あや
宮川 文 (病理学教室人体病理学部門講師) 肺・肝・皮膚
もりなが ゆきこ
森永友紀子 (病理学教室人体病理学部門助教) 消化管
たなか のりゆき
田中 顕之 (病理学教室人体病理学部門助教) 胆・脾

■ 私たちの業務

病理部では、益々細分化し専門化がすすむ当院の臨床医学を支えるべく、院内から提出される組織診・細胞診の検体の病理診断にあたっています。

◆ 患者さんから採取された全ての臓器・組織・細胞を扱います。

当院の各臨床科にて生検・手術・その他の方法で採取された材料は、全て病院病理部で切り出し・標本作製を経て診断されます。

◆ 過去の蓄積を大切にし、長い病歴の疾患にも十分対処可能です。

1959年以来全てのガラス標本及びブロックを保存し、また1989年以降の症例はコンピュータシステムを用いデータベースとして検索可能です。

◆ 臨床所見（特に画像や内視鏡所見）との対比を大切に考えて検体を検索します。

手術症例ではCT・MR画像や内視鏡所見と病変の広がりやを容易に対比できるように、電子画像を用いた切り出し図に病変の範囲を記入(mapping)し、回答しています。

◆ 広範な免疫組織化学を用いた検索が可能です。

市販の代表的な抗体類を常備し、より高度な組織検索が可能です。

◆ 専門化の進む各臨床科に対応すべく、医局員にsubspecialityを持たせています。

臓器別診療科となり、臨床分野における専門化、先端化はますます進み、病理診断医もそれに対応すべく、それぞれsubspecialityを持ち、積極的に関連臨床科と協力し、よりよい診療に役立つよう努力しています。

◆ 不幸にして亡くなられた患者さんの病理解剖を行います。

画像技術の進歩した現在でも、病理解剖の意義は以前と全く変わりはありません。我々も基礎病理学教室と連携・協力し、患者様の病理病態の解明に努力し、少しでも医学の進歩に役立てるよう努力しています。

輸血・細胞医療部

■ スタッフ紹介



部長
しむら ゆうじ
志村 勇司
(輸血・細胞医療部 准教授)

臨床検査技師 (係長)

臨床検査技師

臨床検査技師

臨床検査技師

臨床検査技師

臨床検査技師

臨床検査技師

臨床検査技師

いのうえ ひろゆき
井上 寛之
ふるや さとこ
古屋 智子
やすもと とわ
安本 都和
いまにし ゆい
今西 唯
くにかど りき
國門 里咲
わたなべ たかひろ
渡部 宇洋
たしろ はるか
田代 遥香
どい まゆみ
土井 真由美

■ 私たちの業務

輸血・細胞医療部は、安全で効果的な血液製剤使用の普及に努めています。また、骨髄移植や再生医療などの細胞医療に必要な移植細胞を調製・提供しており、医療の進歩に伴い、この細胞医療にかかわる業務が急増してまいりました。

◆ 専門スタッフによる安全で効果的な輸血

日本輸血・細胞治療学会及び日本認定輸血検査技師制度協議会が認定する医師・技師・看護師の研修指定施設であり、輸血認定医、認定看護師および認定輸血検査技師が、安全で効果的な輸血医療を提供します。輸血には主として「日赤血」を用いていますが、可能な場合は「自己血」輸血を行います。これらの血液は、集中温度監視システムを備えた血液専用保冷庫において一元管理され、輸血に関わる様々なリスクを回避するために、輸血に至るまでの多くの段階において安全対策が施されています。夜間や休日の緊急輸血に対しては、一般臨床検査の緊急体制とは別個に独立した技師当直体制を整え、24時間輸血検査体制を確立しています。臨床検査部および病院病理部と共同で国際認定ISO15189を取得し、品質保証された精度の高い輸血検査であることが認められました。また、輸血副作用を避けるための洗浄血、分割・合成血などを必要に応じて個別に準備します。さらに、院内で使用する全てのアルブミン製剤の保管・管理・供給が輸血・細胞医療部に移管され、適正使用の徹底に努めております。

定期的に行われる院内輸血療法委員会では、各診療科へ輸血療法の指針の周知徹底を図ることで、より安全で効果的な輸血をめざしています。また、医師、看護師、コメディカルに向けた輸血に関する院内情報誌“Transfusion Information”を発刊して、各医療関係者への啓発活動に積極的に取り組んでいます。

◆ 先端的細胞医療への対応

連続血液成分分離装置を用いた豊富な細胞採取経験、長年にわたり蓄積された細胞分離濃縮や冷凍保存などの技術を活かし、骨髄移植、末梢血造血幹細胞移植、血管再生医療、免疫療法などの先端的細胞医療に必要な移植細胞を提供しています。これらの作業は細胞治療認定管理師として学会より認定を受けた医師と技師が中心となって実施しています。2021年3月には遺伝子改変T細胞療法（キムリア）の治療施設として当施設が認定されました。その後、他の遺伝子改変T細胞療法も導入され、細胞治療を受ける患者が着実に増加しております。当院での細胞治療の土台を支えるため、スタッフ一同で体制の充実をはかっています。

府立医大 輸血・細胞医療部 TEL 075-251-5891 (輸血検査室)

臓器移植医療部

■ スタッフ紹介

副 技	部 長	のぼり 昇 いまにし 今西	しゅうじ 修治 ゆい 唯	講師
--------	--------	------------------------	-----------------------	----

■ 私たちの業務

臓器移植における組織適合性を確認するため、血清学的検査及び分子生物学的検査を組み合わせた手法でHLA検査や交差反応試験を行っています。

脳死や心臓死からの臓器移植では、HLAの適合性からその臓器の受領者が決定されることがあり、腎移植や脾移植を希望する場合は、事前にHLA検査を実施し、その結果を臓器移植ネットワークに登録する必要があります。

当センターでは、日本臓器移植ネットワークの指定施設として、京都府内ばかりでなく周辺地域からの登録希望者のHLA検査を行っています。

放射線部

■ スタッフ紹介



部長
やまだ けい
山田 恵
(放射線科
診療部長)

技 師 長 (副部長)
副 部 長
副技師長
副技師長
副技師長
係 長
係 長
係 長

なかた かつや 中田 克哉 (診療放射線技師)
やすいけ まさし 安池 政志 (放射線医学教室助教)
おおさわ とおる 大澤 透 (診療放射線技師) 一般撮影担当
なかがわ としあき 中川 稔章 (診療放射線技師) CT・MR撮影担当
にい けん 新居 健 (診療放射線技師) RI撮影担当
よしざわ けんすけ 吉澤 健介 (診療放射線技師) 血管撮影担当
むらまつ まさひろ 村松 正寛 (診療放射線技師) 治療担当
たかや ひさし 高屋 久志 (診療放射線技師) 陽子線担当

■ 私たちの業務

放射線部では単純撮影装置や胃・腸検査用の透視装置をはじめ、人体の断層画像を得るCTやMRI、そして放射性同位元素を用いるRI検査の機器を一括して管理、運営しています。これらの機器は放射線科医を中心として多数の診療科の医師が診療放射線技師とともに使用し、画像検査を通じて病気の診療や治療効果の評価を行っています。これらの種々の画像技術を駆使することにより、直接血管や病変に針を刺して診断や治療を行うこと (Interventional radiology : IVR) もなされています。また、X線や陽子線を用いたがん治療として、外から照射する方法や、放射性同位元素を用いた甲状腺癌や前立腺癌の治療なども行っています。

放射線部の重要な機能には、病院内の放射線管理があります。医療における放射線は当然ながら健康維持や治療に活用されるわけですが、使い方を誤れば人体に有害な因子のみが全面的に出てしまいます。これを避けるためには、適正な放射線管理がなされる必要があります。放射線部では、当院における放射線管理を一括して行い、患者さんに安全で適正な検査が施行されるように調整を行っています。

府立医大 放射線部 1 階 TEL 075-251-5616 (受付)
地下 TEL 075-251-5895 (受付)

血液浄化部

■ スタッフ紹介



部長
たまがき けいいち
玉垣 圭一
(腎臓内科
講師)

副部長	昇 ^{のぼり} 修治 ^{しゅうじ}	(兼任) 移植・一般外科 講師
副部長	草場 ^{くさば} 哲郎 ^{てつろう}	(兼任) 腎臓内科 学内講師
医員	桐田 ^{きりた} 雄平 ^{ゆうへい}	(兼任) 腎臓内科 助教
医員	小牧 ^{こまき} 和美 ^{かずみ}	血液浄化部 助教
医員	三原 ^{みはら} 悠 ^{ゆう}	血液浄化部 助教

■ 私たちの業務

当院では1973年から血液透析を開始し、2005年4月に改組され正式に血液浄化部が設立されました。

スタッフは、日本透析医学会の指導医及び専門医が担当し、日本透析医学会から施設認定を受けており、より専門性の高い安全な透析管理を行うように努めています。腎臓病のみでなく各診療科の疾患で手術や特殊検査など専門性の高い治療を行うために大学病院への入院を必要とする患者さんを対象としています。また血液透析療法に加え、各種の血液浄化療法を実施しています。肝疾患、神経疾患、血液疾患、皮膚疾患、循環器疾患、腎疾患、薬物中毒、臓器移植に際しての抗体除去療法などの種々のアフェレーシス療法を実施しています。

京都府立医科大学 血液浄化部 連絡先 TEL 075-251-5649
(透析室) 月・水・金 9時～15時

がん薬物療法部

■ スタッフ紹介



副部長	いしかわ 剛 (消化器内科講師)
医 員	もりもと 健司 (呼吸器内科助教)
専任看護師	いばやし 寿恵
	すがたに 和子
専任薬剤師	う えだ かずまさ
	し みず 和正
	清水 ひろき
	た ぶ ち 大生
	田 淵 ゆうすけ
	し か た 祐輔
	四 方 もとつぐ
	基 嗣

■ 私たちの業務

がん薬物療法部の中心的診療・業務は平成16年10月に開設された薬物療法センターでの化学療法の安全な施行・管理、レジメン管理及び臨床研究です。その他にもプロトコール委員会の開催や腫瘍診断治療カンファレンス（Cancer board）の開催、がん医療研修会（がんプロフェッショナル養成センターとの共催）などがあります。

◆ 外来薬物療法センター

各診療科の処置室で実施されていた外来薬物療法を専門の薬物療法センターにおいて実施しています。専任の医師（がん薬物療法専門医・指導医 1名、がん治療認定医 2名）、看護師（がん化学療法認定看護師 1名）、薬剤師（がん専門薬剤師 1名、外来がん治療認定薬剤師 2名）が常駐し、抗がん薬物投与の安全性確保を図っています。採血の優先的施行による待ち時間の短縮や電動リクライニングシートの導入などによって患者さまのQOLに配慮した医療サービスの提供を心掛けています。施行実績も年々伸びており、現在月間約900例前後の薬物療法を行っております。平成30年3月より「永守記念最先端がん治療研究センター」の2階フロアーに移転し、ベッド数も23床から30床に増床しており、待ち時間の短縮など、さらなるサービス向上が期待されます。

◆ がん薬物療法プロトコール管理

当院におけるがん薬物療法の標準化と抗がん薬物の適正使用を推進するために、がん薬物療法部スタッフを中心にプロトコール委員会を運営し、エビデンスレベルの高い治療が常に提供できるようプロトコールの管理を行っています。各診療科から申請されるレジメンは、医師、薬剤師、看護師で構成されるプロトコール委員会で、抗がん薬物の用法・用量、投与順序、投与経路、休薬期間が適切か、前投薬や補液などに問題はないかなども審議され、承認、条件付き承認、保留の判断がなされます。承認されたレジメンのみが電子カルテ上に腫瘍領域別に登録されるシステムとなっています。支持療法も含めて厳しく審査することで、病院全体のがん薬物療法の質の向上に努め、がん患者さんの副作用の軽減を図っています。

◆ Cancer board / がん医療研修会

各診療科で個別に対応することが難しい患者さんについては、治療方針や副作用のマネージメントなど診断・治療にかかわる各科医師が集まって検討するCancer boardを開催しています。若手医師の教育の場でもあり、多くの若手医師が参加し学習しています。当院は都道府県がん診療拠点病院に指定されており、さらなる充実を図っているところです。また、医師のみならずメディカルスタッフ（看護師・薬剤師など）が参加し、各領域のがん治療に対する理解を深めるため「がん医療研修会」を定期的に開催しています。

府立医大 がん薬物療法部 TEL 075-251-5430 (医員室)
外来薬物療法センター TEL 075-251-5010 (受付)

緩和ケアセンター

■ スタッフ紹介



センター長
あまや ふみまさ
天谷 文昌

(疼痛・緩和
医療学教室
教授・
疼痛・緩和ケア
科診療部長)

看護部：井上 恭子（緩和ケアセンター ジェネラルマネージャー 総括看護師長）
麻酔科／疼痛・緩和ケア科：上野 博司（診療副部長 准教授）
疼痛・緩和ケア科：小川 寛（診療副部長 診療科長 講師）／早瀬 一馬（診療主任 助教）／藤原 恵（病院助教）／
仲宗根 ありさ（病院助教）／永井 義浩（病院助教）／松尾 佳那子（病院助教）／大屋 里奈（病院助教）／
越田 晶子（病院助教）／前田 知香／藤井 誠（病院助教）／岡田 薫（病院助教）／高橋 紗也子（公認心理師）
消化器内科／がん薬物療法部：石川 剛（講師）
脳神経外科：武内 勇人（客員講師）
精神科・心療内科：富永 敏行（准教授）／大矢 希（助教）／北岡 力
放射線科：瀬理 祥（病院助教）
小児科：家原 知子（教授）／大曾根 真也（講師）／宮地 充（学内講師）／吉田 秀樹（助教）／富田 晃正（助教）
小児外科：文野 誠久（講師）
歯科：定立 圭司（助教）／鈴村 優利／宮垣 有希（歯科衛生士）
看護部：森脇 まゆみ（緩和ケア病棟看護師長）／吉岡 とも子（緩和ケアセンター看護師長）／杉浦 康代／
服部 美奈／久保川 純子／菅谷 和子／芦田 理恵／前野 はる菜／竹之内 直子／木下 美帆
薬剤部：浦松 敬宏／貴志 孝子／田淵 祐輔／清水 大生／伊原木 真帆／橋口 恵未／松崎 樹／浅葉 有紀／
二好 美卓紀
患者サポートセンター：光本 かおり（副センター長 看護部副看護部長）／藤原 由美／倉橋 富子／田中 可奈／
平尾 裕奈／伊東 亜未／大久保 智晴／渡辺 紀子／市川 友佳子／中井 友理子（がん相談員／公認心理師）／
関口 由紀子（がん相談員／社会福祉士）／里見 志穂（がん相談員／公認心理師）
医療技術部 栄養課：岡垣 雅美（栄養士長）／松本 雅美／松本 明子／笹井 由紀子／岡田 典子／青谷 望美／
金井 里美／岩崎 史歩／大槻 まなみ／梅本 万規／居出 香／鎌谷 弘子

■ 私たちの業務

・緩和ケアセンターとは

緩和ケアセンターは、他職種が連携した専門的緩和ケアを提供する院内拠点組織として2015年4月に開設されました。すべてのがん患者やその家族に対して、がんと診断された時から身体的・精神的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛等に対し、迅速かつ適切な緩和ケア（がん患者さんへのサポート）を切れ目なく提供するために、すでに運用されていた「緩和ケアチーム」「緩和ケア外来」「がん看護外来」「緩和ケア病棟」「緊急緩和ケア病床」「地域連携」等を統括し、さらに迅速かつ十分にその機能を果たし、緩和ケアの質の向上を図ることを目的としています。また、非がん疾患へと緩和ケアの適応の幅を広げています。

・本院での具体的な活動

- ①患者の身体的・精神的・心理的・社会的・スピリチュアルな苦痛のスクリーニングを、がんの診断時から外来および病棟で行い、主治医や外来・病棟看護師らと協働して、早期から適切な緩和ケアを提供します。
- ②心不全などの非がん疾患に伴う苦痛にも対応し、非がん患者への緩和ケアを提供します。
- ③小児の緩和ケアも行っています。
- ④緩和ケア外来を運営し、外来における専門的な緩和ケアを提供します。
- ⑤がん看護外来を運営し、患者とその家族に緩和ケアや症状マネジメント、意思決定等に関する相談支援を行います。
＊がん看護外来は、適宜必要に応じてその他の職種と共同して、身体症状及び精神症状の評価及び対応、病状、診療方針、診療計画、日常生活での注意点等の説明、患者の必要とする情報の提供、意思決定支援、他部門との連絡及び調整等、患者の心理的不安を軽減するために、がん患者カウンセリングや、患者と家族がいつでも適切に緩和ケアに関する相談や支援が受けられるように提供します。
- ⑥定期的に外来・病棟ラウンドを行い、専門的緩和ケアに関するチーム医療を提供します。
- ⑦病棟、外来の緩和ケアチームリンクナースと連携し、各部署の緩和ケアの質向上を図ります。
- ⑧がん相談支援センターと連携し、高次の緩和ケアに関する相談支援を行います。
- ⑨緊急緩和ケア病床を設置し、かかりつけ患者や協力リストを作成した在宅支援診療所からの紹介患者等を対象として、入院を必要とする苦痛症状が発生した場合などに緊急入院による症状緩和、必要な治療を実施します。
- ⑩地域医療機関（病院、在宅支援診療所、訪問看護ステーション、ホスピス・緩和ケア病棟等）の医療従事者との定期的なカンファレンス・研修会を行い、適切な地域の緩和ケア提供体制を構築します。
- ⑪医療従事者に対する、がんと診断された時からの緩和ケアに関する教育を推進するために、必要に応じてがん診療に携わる医療従事者に対する院内研修会等を運営します。
- ⑫定期的に緩和ケアセンターカンファレンスを行い、緩和ケアセンターの運営に関する情報共有や検討を行います。
- ⑬緩和ケアセンターにおける診療や相談支援の件数や内容、苦痛のスクリーニング結果など、院内の緩和ケアに係る情報を集約し、情報の分析や評価を行うことにより、院内の苦痛のスクリーニングと症状緩和体制を管理運営します。

府立医大 緩和ケアセンター 075-251-5177（疼痛・緩和医療学教室）
ホームページ <http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/palliative-care-center.html>
（外来時間帯）075-251-5020（救急外来）075-251-5045

疼痛緩和医療部

■ スタッフ紹介



部長
あまや ふみまさ
天谷 文昌

(疼痛・緩和
医療学教室
教授・
疼痛・緩和ケア
科診療部長)

疼痛・緩和ケア科教授
日本専門医機構認定麻酔科専門医
日本麻酔科学会指導医
日本ペインクリニック学会専門医

医師 (副部長)

上野 博司 (麻酔科准教授 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医 日本ペインクリニック学会専門医)

医師 (診療副部長 科長)

小川 寛 (疼痛・緩和ケア科講師 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会専門医 日本心臓血管麻酔学会専門医)

医師 (主任)

早瀬 一馬 (疼痛・緩和ケア科助教 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会専門医・指導医)

医師

石川 剛 (消化器内科講師 がん薬物療法部講師 日本内科学会総合内科専門医 日本消化器病学会専門医・指導医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 がん薬物療法専門医・指導医)

武内 勇人 (脳神経外科客員講師 日本脳神経外科専門医・指導医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本脳卒中学会専門医 日本緩和医療学会認定医)

富永 敏行 (精神科・心療内科准教授 日本精神神経学会専門医・指導医 日本総合病院精神医学学会一般病院連携精神医学専門医・指導医)

大矢 希 (精神科・心療内科 精神科医師)

北岡 力 (精神科・心療内科 精神科医師)

藤原 恵 (疼痛・緩和ケア科 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医 日本緩和医療学会指導医 日本ペインクリニック学会専門医 日本救急医学会専門医)

仲宗根ありさ (疼痛・緩和ケア科 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医 日本緩和医療学会指導医 日本ペインクリニック学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医)

永井 義浩 (疼痛・緩和ケア科 日本麻酔科学会専門医・指導医 日本緩和医療学会指導医)

松尾佳那子 (疼痛・緩和ケア科 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会認定医・指導医)

大屋 里奈 (疼痛・緩和ケア科 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医 日本緩和医療学会指導医 日本ペインクリニック学会専門医)

越田 晶子 (疼痛・緩和ケア科 日本麻酔科学会専門医)

前田 知香 (疼痛・緩和ケア科 日本専門医機構認定麻酔科専門医 日本麻酔科学会指導医)

藤井 誠 (疼痛・緩和ケア科 日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医)

岡田 薫 (疼痛・緩和ケア科 日本麻酔科学会専門医)

看護師

吉岡とも子 (看護部 がん看護専門看護師)

杉浦 康代 (看護部 がん看護専門看護師)

服部 美景 (看護部 がん看護専門看護師)

久保川純子 (看護部 緩和ケア認定看護師)

菅谷 和子 (看護部 がん化学療法看護認定看護師)

芦田 理恵 (看護部 がん放射線療法看護認定看護師)

前野はる菜 (看護部 がん放射線療法看護認定看護師)

薬剤師

浦松 敬宏 (薬剤部 医療情報技師)

田淵 祐輔 (薬剤部 がん専門薬剤師 外来がん治療専門薬剤師 病院薬学認定薬剤師)

清水 大生 (薬剤部 外来がん治療認定薬剤師 病院薬学認定薬剤師)

伊原本真帆 (薬剤部 病院薬学認定薬剤師)

橋口 恵未 (薬剤部 病院薬学認定薬剤師)

臨床心理士

高橋紗也子 (疼痛・緩和ケア科 臨床心理士 公認心理師)

■ 私たちの業務

今や、日本人男性の2人に1人、女性の3人に1人が「がん」になる時代です。

「がん」克服のため当院においては最新の機器、技術、知識を駆使してさまざまながんの診断、治療が日々なされています。しかし、がんの治療の中心である手術、化学療法、放射線療法中や後には、手術の傷の痛みが残ったり、薬剤の副作用による吐き気、息苦しさ、しんどさが強く出たり、またときには「がん」そのものによる強い痛みなどの患者さんには耐えがたい症状が出現することがあります。また同時に不安、不眠などに悩まされることもまれではありません。こういった「がん」治療の経過中に生じるすべての不愉快なさまざまなつらい症状を治療し緩和することが緩和医療（ケア）であり、「疼痛緩和医療部」の診療の目的とするところです。また小児の緩和ケアや、最近では心不全などの非がん疾患に対する緩和ケアも提供しています。

具体的な業務は、

- 1) がん患者さんの「がん」治療に伴う副作用の軽減と症状コントロール
- 2) 患者さんと家族の精神的サポート
- 3) 付き添い、介護に大変な患者さん家族のサポート
- 4) がん告知前後の相談とサポート
- 5) 療養先の選定（緩和ケア病棟、転院、在宅緩和ケア、緩和病棟を持つ施設、ホスピスへのコーディネート）
- 6) 痛みの原因診断と治療
- 7) その他の苦痛症状の診断と治療
- 8) 非がん疾患におけるサポート
- 9) 緩和ケア病棟の運営、管理

などです。

痛みや身体的症状を緩和する医師、不安やうつなどの心の症状を和らげる医師、緩和ケアを専門とする看護師、薬剤の正しい使い方や副作用について教えてくれる薬剤師、放射線療法の専門家などがチームとしてお世話させていただきます。

また研究面では、いろいろな鎮痛薬の効果・機序の解明と治療指針を決めることや痛みの研究の他、医師や医学生、看護師、薬剤師への緩和ケア教育、関連施設への講師の派遣、講演、研修会なども行っています。

府立医大 疼痛緩和医療部 TEL 075-251-5177 (疼痛・緩和医療学教室)

ホームページアドレス <http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/pain-relief-medical-unit.html>

遺伝子診療部・遺伝相談室

■ スタッフ紹介



部長
くろだ じゅんや
黒田 純也
(血液内科
診療部長)

副部長

医 員

遺伝相談室 室 長

遺伝相談室

ちよのぶともひろ
千代延友裕 (臨床遺伝専門医指導医)

まえだ えいこ
前田 英子 (臨床遺伝専門医)

ちよのぶともひろ
千代延友裕 (臨床遺伝専門医指導医)

むらしま きょうこ
村島 京子 (認定遺伝カウンセラー)

その他にさまざまな専門領域の20名程のスタッフが当診療部の活動に参加しています。詳細はホームページをご覧ください。

■ 私たちの業務

◆ 遺伝相談 (遺伝カウンセリング)

遺伝子診療部 遺伝相談室では、2004年の開設以来、「遺伝性の病気」に関するご相談に臨床遺伝学の専門家が対応しています。これまでに各診療科との連携のもとで対応した相談領域は、成人発症の疾患、小児期発症の疾患、周産期のご相談など多岐にわたります。近年では、網羅的遺伝子解析技術の飛躍的発展と臨床応用の加速に伴い、「遺伝性のがん」を中心とするゲノム医療に関わるご相談も増えています。当相談室では関連診療部門との連携体制を整備し、病院全体で切れ目のない対応を実現しています。

遺伝相談ではまず、患者さんの病歴やご家族の状況を詳しく伺います。その後、臨床遺伝学的判断にもとづく情報提供を、時間をかけて丁寧におこない、正しく理解をしていただけるよう支援します。そしてカウンセリングを通じて、相談に来られた方ご自身が、現在のご心配やお困りと感じておられることへの対応方針、および今後の生活設計について決めていけるように援助いたします。ご相談は完全予約制で、プライバシーが確保される個室にておこないます。

■ 遺伝相談日：木、金曜日 午後2時00分～

■ 遺伝相談の予約受付

・ 予約電話番号：070-6507-0301 (直通)

・ 受付時間：平日 午前10時00分～午後4時30分

相談を希望される方よりご予約のお電話をいただけますよう、お願いいたします

* 遺伝相談の予約は地域医療連携室では行っていません

■ 遺伝相談の費用：1回2,650円 (健康保険は適用されません)

◆ 専門医の育成

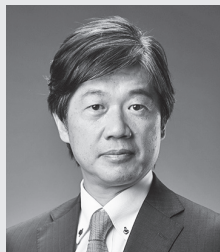
遺伝子診療はあらゆる医学領域に関係する重要な分野です。遺伝学的検査の進歩・普及に伴って、遺伝子診療の重要性は今後益々大きくなっていくと思われます。その中心的な役割を担うための専門医として「臨床遺伝専門医」があります。当院は臨床遺伝専門医制度の研修施設に認定されています (指導責任医 千代延友裕)。当診療部では、臨床遺伝専門医取得を目指す方の支援を行っています。臨床遺伝専門医制度についての詳細は「臨床遺伝専門医制度委員会ホームページ (<http://www.jbmg.jp/>)」をご覧ください。

府立医大 遺伝子診療部 医局 TEL 075-251-5659 FAX 075-251-5659

ホームページアドレス <http://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/department-of-medical-genetics.html>

救命救急センター

■ スタッフ紹介



センター長
ふくい みちあき
福井 道明

(副病院長、
内分泌・糖尿病・
代謝内科診療部長)

副センター長 太田 凡 (救急医療科診療部長)
副センター長 藤本早和子 (副病院長、看護部長)

■ 私たちの業務

本院は、令和6年4月1日から、京都府より救命救急センターの指定を受け、府内に6箇所ある救命救急センターの一つとして、心筋梗塞、脳卒中、出血性ショック、交通事故や転落時の大けがなど、重篤な救急患者を24時間体制で受け入れております。

◆ 24時間体制で緊急度の高い患者様を受け入れる

救急室に救急医療科医師が常駐し、24時間体制で患者様が安心して受診できる受入体制をとっております。

◆ 患者様の受入れ・診断を迅速に行い、早期治療に繋げる

救急医療科医師が原則、診断・処置など初期対応を行うとともに、専門領域疾患の患者様については当該領域の診療科へ橋渡しを行い、早期に治療を行う体制を確保しております。

◆ 病院全体で連携し急性期へ対応する

第三次救急医療機関として各専門診療科と密に連携の上、高度・専門的な急性期医療を提供し、京都府内全域の救急医療提供体制の確保に貢献してまいります。

府立医大 救命救急センター
(救急外来) TEL 075-251-5645・5646

救急医療部／救急医療科

■ スタッフ紹介



部長
おおた ぼん
太田 凡
(救急医療学
教室 教授)

副 部 長	やまはた 山畑 佳篤	救急医療学教室 講師 (H10)
医 員	まつやま 松山 匡	救急医療学教室 学内講師 (H21)
医 員	たけべこうたろう 武部弘太郎	救急医療学教室 助教 (H22)
医 員	わたなべ まこと 渡邊 慎	救急医療学教室 助教 (H22)
医 員	まきの ようすけ 牧野 陽介	救急医療学教室 助教 (H24)
医 員	なかじま さとし 中島 聡志	救急医療学教室 助教 (H26)
医 員	おおえ ひかる 大江 熙	北部医療センター 助教 (H31)

■ 私たちの業務

救急医療部は、京都府立医科大学附属病院を救急受診する患者さんの窓口として診療を担っています。平成30年は19151名（救急車搬送5027名・ヘリ搬送6名）の救急診療を担いました。

緊急の専門診療が必要として他院から各専門診療科に紹介いただく場合もあります。当院に通院中の患者さんの容態が悪くなり救急受診される場合もあります。通院中や紹介でなくとも、急の病気やケガのために救急受診される患者さんも数多くおられます。

大学附属病院には多くの専門医が在籍し、高度で先進的な医療まで提供しています。大学病院ならではの課題もありますが、大学病院ならではの良いところも多く存在します。私たちは、当院での救急診療を求める患者さん方に、少しでも良い医療を提供したいと願っています。

救急医療の特性として、あらかじめいくつかお断りしておくこともございます。同時に多くの救急患者さんが受診された場合には救急診療でも待ち時間が生じます。そのような場合、医師が診療する前に看護師がお話を聞かせていただき、より重症と予想される患者さんから診療いたします。このように緊急度を考慮しながら診療の優先順位を決定する方法はトリアージと呼ばれます。救急診療の結果、入院診療が必要でも入院病棟や手術室に空きがない場合は、他の病院に引き継ぎをお願いすることもあります。

また、大学附属病院は教育病院のひとつです。若い医師たちは次の時代の医療を担い新しい指導者に成長して行きます。そのため救急医療現場においても若い医師や医学生が指導医のもとに医療を学び実践しておりますことをご理解ください。

わが国では、医学の進歩と高齢化により救急医療を求める患者さんが年々増加しています。一方で、医療費負担を支える生産人口の減少という課題にも直面し、これまでとは違う形での医療提供が求められています。救急医療は社会に安心を提供するセーフティネットの役割を有しています。京都に暮らす人々に、少しでも良い救急医療を提供し続けて行くことが私たちの使命です。

看護部

■ スタッフ紹介



副病院長
看護部長
ふじもと さわこ
藤本早和子

副看護部長 松尾 恵美
副看護部長 藤井 精子
副看護部長 中山 徳子
副看護部長 田中 真紀
副看護部長 光本 かおり
総括看護師長 4名
看護師長 33名

副看護師長 67名
看護師 891名
看護補助者 48名
保育士 6名
2024.4.1現在
(正職+任期付+)
(嘱託+再雇用)
※看護部職員総数非常勤含む

看護部の理念・基本方針

理念：府民のいのち、暮らし、尊厳を守る看護の提供
基本方針：Ⅰ 効果的な組織運営
Ⅱ 医療サービスの向上
Ⅲ 人材確保・育成・活用の推進
Ⅳ 病院経営への参画

■ 私たちの業務

◆ 府民のいのち・暮らし・尊厳を守る看護の提供

一般病棟では7対1入院基本料を取得し、理念・基本方針に基づき高度急性期の医療を受ける患者さんのストレスを緩和し、安心・安全な医療・看護の提供ができるよう取り組んでいます。

外来・中央部門においては、外来での入院前検査や退院後の療養指導など相談が必要な患者さんに対応できるよう看護の充実に取り組んでいます。

◆ 専門・認定看護師、特定行為看護師等の活躍

病棟や外来で、それぞれの専門分野を生かした看護実践や看護職員の教育指導にあたり、質の高い看護を提供する重要な役割を担っています。

疼痛緩和医療部、感染対策部、褥瘡対策、人工呼吸器サポート、摂食・嚥下、NST等の医療チームの一員として院内ラウンドも実施し、医療の質の向上に寄与しています。

◆ 看護外来

外来名	外来診療科名	担当看護師
皮膚排泄看護ケア外来	消化器外科・婦人科・小児外科・泌尿器科	皮膚排泄ケア認定看護師
糖尿病看護外来	内分泌・代謝内科	糖尿病看護認定看護師
リンパ浮腫看護外来	婦人科・乳腺外科	リンパ浮腫ケア担当看護師
腹膜透析看護外来	腎臓内科	慢性腎臓病療養指導看護師・ 腹膜透析認定指導看護師・腎代替療法専門指導士
助産師外来（健診・保健指導）	産婦人科	助産師・母性看護専門看護師
助産師外来（乳房ケア）	産婦人科	助産師・アドバンス助産師
がん看護外来	主治医にご相談ください	がん看護専門看護師
慢性心不全相談	循環器内科	慢性心不全看護認定看護師
造血細胞移植コーディネート	血液内科	造血細胞移植コーディネーター
造血細胞移植後長期フォローアップ外来	血液内科	LTFU研修終了看護師
移植相談	泌尿器科・腎臓内科	移植コーディネーター
小児長期フォローアップ外来	小児科	小児看護専門看護師・ 小児長期フォローアップ外来・担当看護師

*看護外来を初めて受診される場合は、当該科の医師の診察が先に必要です。

*ご不明な点は、当該外来までお問い合わせ下さい。

府立医大 看護部 TEL 075-251-5281（看護管理室） FAX 075-251-5281

薬 剤 部

■ スタッフ紹介



薬剤部長
こさか ただし
小坂 直史
医薬品
管理責任者

副薬剤部長	こやま ひかる 小山 光	調剤係長	なかしま ゆうき 中嶋 祐樹
副薬剤部長	くさぎ ひとし 草木 等之	化学療法・製剤係長	うえだ かずまさ 上田 和正
副薬剤部長	しらが ひきゆき 白神 久敬	安全推進責任者	しばた かおり 柴田 かおり
病棟薬剤係長	うらまつ たかひろ 浦松 敬宏	係員	57名

基本方針：1. 医薬品の管理、使用、取扱いに責任を持ち、事故防止に万全を期します
2. 患者様の権利を尊重し、良質な情報を適切な方法で提供するように努めます
3. 薬剤師としての誇りと向上心を持ち、自己研鑽に励みます
4. 人間関係を大切に、医療者間の連携を深めます

■ 私たちの業務

薬剤部のモットーは「一隅を照らす」です。自らに与えられた責任をしっかりと果たし、利他の心で薬剤部全体の組織力強化に努め、当院の医療を支えています。

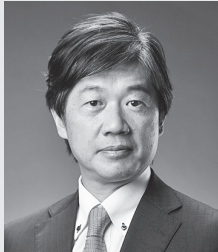
- 1) 調剤業務・医薬品管理業務……最新の調剤機器を導入し調剤過誤防止に万全を期するとともに処方監査体制を強化し、安心で清潔な医薬品供給を行っています。また、医薬品を厳重に管理するとともに安定供給や適正在庫に努めています。
- 2) 化学療法・製剤業務……抗がん剤や高カロリー輸液、治験薬・臨床研究薬、小児用薬剤の無菌調製などにも幅広く関与し、安心・安全な医薬品供給に努めています。また、治療上必要であるにもかかわらず市販化されていない薬剤を倫理委員会承認の下で調製しています。
- 3) 医薬品情報業務……患者さんや医療従事者からの問合せに対応するとともに、適正使用情報や安全性情報を発信し、医療の質向上に努めています。また、採用医薬品の見直しや後発医薬品への切替なども推進しています。
- 4) 薬剤管理指導業務・病棟薬剤業務……入院時の持参薬確認、入院中の服薬説明及び副作用モニタリング、医師への処方提案、病棟配置薬の確認、退院時の服薬説明などを通じて、薬物治療の適正化に努めています。
- 5) 治療的薬物モニタリング……患者さん一人ひとりに最適な薬物療法を迅速に提供するために、薬剤部内で血液中の薬物濃度を測定することで、投与量・投与間隔の見直しを含めた薬物療法の個別化に対応しています。
- 6) チーム医療……感染対策チーム、抗菌薬適正使用支援チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、褥瘡チーム、免疫チェックポイント阻害薬副作用対策チーム、妊娠と薬外来などに関与し、チーム力向上に努めています。
- 7) 薬薬連携・薬学教育……薬剤師会と緊密な連携の下、患者さんに安心してシームレスな医療が提供できるよう処方せんへの検査値印字、トレーシングレポート等を推進しています。また次世代の薬剤師養成にも注力しています。

【主な専門・認定資格】

医療薬学指導薬剤師1名／専門薬剤師1名、がん専門薬剤師2名、薬物療法専門薬剤師1名、感染制御専門薬剤師2名／認定薬剤師1名、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師1名、栄養サポート専門療法士4名、外来がん治療専門薬剤師1名／認定薬剤師3名、腎臓病薬物療法認定薬剤師1名、腎臓病療養指導士1名、腎代替療法専門指導士1名、医療情報技師2名、心不全療養指導士1名、救急認定薬剤師1名、糖尿病療養指導士2名、小児薬物療法認定薬剤師5名、認定実務実習指導薬剤師10名、漢方薬・生薬認定薬剤師1名、糖尿病薬物療法履修薬剤師1名、がん化学療法認定薬剤師1名、公認スポーツファーマシスト2名、日本DMAT隊員5名、抗菌化学療法認定薬剤師1名、他

栄養管理部

■ スタッフ紹介



部長
ふくい みちあき
福井 道明

(副病院長、
内分泌・糖尿病・
代謝内科診療部長)

副部長(兼) はまぐち まさひで (内分泌・糖尿病・代謝内科 講師)
副部長 おかがき まさみ (栄養士長)
部 員 医師 1名、薬剤師 3名、管理栄養士 15名、栄養士 4名、
事務補助職員 1名

栄養管理部の理念・基本方針

理 念：安全で効率の良い医療のための栄養管理を実践する
基本方針：1. 病状の早期回復のため栄養面からサポートする
2. 患者様の快適な入院生活をサポートする

■ 私たちの業務

◆ 食事サービスと栄養管理

- ① 病院食は、疾病の治癒・改善を図るための医療行為の一環ですが、食の楽しみとして、患者さんのQOLの向上や心情をサポートできるよう「おもてなしの心」が感じられる食事の提供を目指しています。
- ② 季節ごとの行事には、行事食カードと共に行事食をお出しします。
- ③ 個々の入院患者さんの栄養状態や健康状態に合わせた栄養管理を実施しています。
- ④ 病状により食欲の低下している場合は個別に対応します。
- ⑤ 必要に応じて、栄養管理や食事内容の情報提供書を作成いたします。

◆ 栄養食事相談

それぞれの疾患にあわせた食事療法について指導をおこなっています。患者さんの普段の食生活や食事への思いを伺い、日常生活のなかで無理なく食事療法を続けてもらえるようサポートをしています。

・栄養指導（外来・入院）

外来では、診察で栄養指導が必要となった場合はその当日に指導をうけたり、診察ごとに継続して指導をうけたりすることが可能です。通信機器（電話）による継続指導もおこなっています。また、入院された方にも必要に応じて指導を実施しています。退院後に外来で継続して指導をうけることも可能です。

指導例：糖尿病、腎臓病、心臓病、高血圧、がん、低栄養、脂肪肝、脂質異常症、消化管術後 など

・教育入院栄養指導（糖尿病教育入院、保存期腎不全教育入院）

入院プログラムにあわせ、複数回の指導をおこなうことで退院後も食事療法が継続できるようにしています。

・小児栄養指導（先天性疾患、小児肥満、離乳食など）

・透析予防指導

上記以外でも、食事や栄養の相談に幅広く対応しています。

◆ NST（Nutrition Support Team）栄養サポートチーム

患者さんの栄養状態を評価・判定し、改善が必要な場合には、NSTがお手伝いします。

栄養状態の改善は合併症の減少、在院日数の短縮にも効果が期待できます。

府立医大 栄養管理部 TEL 075-251-5240（部員室）

臨床治験センター

■ スタッフ紹介

副センター長	藤本 早和子	看護部長
副センター長	小阪 直史	薬剤部長
事務長	臼神 久敬	薬剤師
臨床研究コーディネーター	鮫島 みつえ	看護師長
臨床研究コーディネーター	池口 布佐子	副看護師長：日本臨床薬理学会認定CRC
臨床研究コーディネーター	大澤 智美	看護師：日本臨床薬理学会認定CRC、JSCTR GCPパスポート
臨床研究コーディネーター	山村 美花	看護師
臨床研究コーディネーター	櫻井 景子	看護師
臨床研究コーディネーター	村山 早苗	看護師
臨床研究コーディネーター	山本 直子	看護師
臨床研究コーディネーター	宮部 恵	看護師：日本臨床薬理学会認定CRC、JSCTR GCPパスポート
臨床研究コーディネーター	中野 葉子	薬剤師：日本臨床薬理学会認定CRC、JSCTR GCPパスポート
臨床研究コーディネーター兼治験管理担当	櫻井 さつき	薬剤師：日本臨床薬理学会認定CRC、JSCTR GCPエキスパート、JSCTR認定がん臨床研究専門職認定
臨床研究コーディネーター	梅本 智子	看護師：日本臨床薬理学会認定CRC
臨床研究コーディネーター	木村 なつ希	看護師：日本臨床薬理学会認定CRC、JSCTR GCPパスポート
臨床研究コーディネーター	松井 明美	看護師：SOCRA認定CCRP、JSCTR GCPパスポート
臨床研究コーディネーター	小西 厚子	看護師
臨床研究コーディネーター	菅生 静子	看護師
臨床研究コーディネーター	稲田 節子	薬剤師
臨床研究コーディネーター	河原奈津美	薬剤師
治験薬管理担当	草木 等之	薬剤師
治験薬管理担当	田中 佐和子	薬剤師、JSCTR GCPパスポート
治験薬管理担当	横田 麻里子	薬剤師
治験薬管理担当	石川 桃子	薬剤師、JSCTR GCPパスポート
事務担当	徳田 正子	
事務担当	植田 孝久	
事務担当	木虎 基	
事務補助	大下 弘美	
抗癌剤等治験薬管理調製担当	小山 光	薬剤師
抗癌剤等治験薬管理調製担当	上田 和正	薬剤師
抗癌剤等治験薬管理調製担当	四方 基嗣	薬剤師
抗癌剤等治験薬管理調製担当	土井 恵介	薬剤師

■ 私たちの業務

◆ 臨床治験センターとは

- ・本院ではそれまでの治験事務局体制を見直し、治験の更なる推進を目的として、平成22年4月1日に臨床治験センターを設置しました。
- ・当センターは、センター長、副センター長2名の他、臨床研究コーディネーター17名、治験薬管理担当4名、事務員4名等体制を充実し、安全で有効な医薬品の開発のため、「治験」や「製造販売後臨床試験」、「使用成績調査」等に取り組んでいます。

◆ 臨床治験センターの業務

- ・当センターには、臨床研究コーディネーター（CRC）が配置され、被験者・医師・治験依頼者の間の調整役として、薬剤部、看護部、臨床検査部、放射線部、事務部などのスタッフとも連携しながら、治験全般をサポートしています。
- ・また、毎月開催される治験審査委員会（IRB）において、治験に参加いただく方の人権や安全が最大限に守られることと治験薬の有効性と安全性を慎重に審査しています。臨床治験センターは治験審査委員会の事務局として、審査資料の作成、治験依頼者や治験責任医師との連絡・調整等を通じて、治験審査委員会の適正・円滑な運営をサポートしています。

◆ 治験の推進

- ・本院は府域の中核病院（特定機能病院）として、又地域医療を支える大学病院として高度で専門性の高い安全な医療を提供しており、今後とも、当センターの体制及び機能の強化を図りながら、治験の推進に取り組んでいきますので、ご理解とご協力をお願いします。

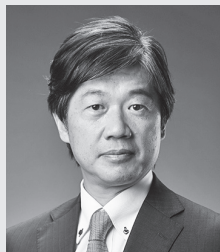
府立医大 臨床治験センター TEL 075-251-5871・5873

FAX 075-251-5871

ホームページアドレス <https://www.h.kpu-m.ac.jp/doc/departments/central-sector/clinical-trial-center.html>

卒後臨床研修センター

■ スタッフ紹介



副病院長
センター長
ふくい みちあき
福井 道明

(内分泌・
糖尿病・代謝内科
診療部長)

副センター長
副センター長
副センター長
専任指導医

やまだ
山田
いへはら
家原
かんだ
神田
まつばら
松原

けい
恵 (放射線科診療部長)
ともこ
知子 (小児科診療部長)
けいいち
圭一 (心臓血管外科准教授)
しん
慎 (総合診療科助教)

■ 私たちの業務

◆ 卒後臨床研修センターの指導体制

- ・ 本学卒後臨床研修センターは、平成16年4月の新卒後臨床研修制度開始に合わせて設置され、令和6年3月末までに延べ1,233名の研修医を受け入れてきました。
- ・ 本学研修中の研修医はすべて卒後臨床研修センターに所属しており、センター長、副センター長、専任指導医とともに、指導にあたっています。
- ・ 2年間の研修期間を通じて、概ね研修医4～5人につき1人のメンターが研修状況の指導・相談に対応しています。

研修医には、4月に1週間程度のオリエンテーションを行うほか、ICLS講習会を無料で実施しています。

◆ 「たすきがけ方式」による研修

本学は21の関連病院と提携しながらいわゆる「たすきがけ方式」で卒後臨床研修を行っており、令和6年6月1日現在で、研修1年目・2年目合わせて130名の研修医が各病院で研修中です。(うち本院卒後臨床研修センター所属は1年目22名、2年目53名です。)

◆ ローテート計画

令和2年度から新プログラムを導入しています。

1年目：内科(24週)、救急(8週)、麻酔(8週)、必修科目(8週)

2年目：地域医療(4週)、救急(4週)、必修科目(8週)、選択科目(32週)

◆ 研修医ルームの設備

- ・ 専用の研修医ルーム(研修センター)があります。
- ・ 研修センターには研修医専用の机があり、iPad miniを配布するとともに、また電子カルテやインターネット環境を完備しています。退院サマリーやカンファレンスの資料作成、あるいは個人勉強や情報交換の場として活用されている一方、休憩の場としても利用されています。

府立医大 卒後臨床研修センター(事務局)

TEL 075-251-5233(病院管理課総務調整係)

ホームページアドレス <http://www.kpu-m.ac.jp/j/pgce/>

メールアドレス sotsugo@koto.kpu-m.ac.jp

がん・生殖医療センター

■ スタッフ紹介



センター長
もり たいすけ
森 泰輔
(産婦人科
診療部長)

副センター長

委員

委員

委員

担当医

担当医

胚培養士

看護師

うきむら

浮村

いえはら

家原

くろだ

黒田

なおい

直居

みやち

宮地

おきむら

沖村

おさむ

理

ともこ

知子

じゅんや

純也

やすと

靖人

みつる

充

ひろゆき

浩之

(泌尿器科診療部長)

(小児科診療部長)

(血液内科診療部長)

(内分泌・乳腺外科診療部長)

(小児科学内講師)

(産婦人科助教)

1名

4名

■ 私たちの業務

近年のがん診療の進歩による治療成績の向上とともに、治療後のQOLに対する関心が高まっています。特に若年がん患者の多くは化学療法や放射線療法に伴って性腺機能が障害され、がんを克服した後も妊孕性喪失の危機に直面することとなります。がん・生殖医療とは、がん治療寛解後の妊娠に関する選択肢を広げるための医療です。その中心となるのは妊孕性温存療法ですが、がん治療を最優先することを原則とします。私たちは、がん・生殖医療の実施に際し多職種にわたり議論することにより、安全かつ有効ながん・生殖医療の実施を目指しています。

◆ カウンセリング

がん・生殖医療の対象となる小児・AYA (Adolescent and young adult) 世代のがん患者は、これから始まるがん治療に対する不安に加え、進学、就職、結婚など特有の悩みを多く抱えています。将来の妊娠について考えることは大きな心理的負担ではありますが、早急ながん治療の開始のためには妊孕性温存療法を受けるかについて考える時間がないのも事実です。妊孕性温存療法のリスクとベネフィットについて、1日のカウンセリングで理解していただけるように十分な時間をとること、分かりやすく説明することを心がけています。

◆ 妊孕性温存療法

当院では女性に対する未受精卵子凍結、胚凍結、卵巣組織凍結を、男性に対しては精子凍結を実施しています。乳がん、血液がんや小児がんなど幅広く受け入れており、がん治療猶予期間などを原疾患の主治医と十分に相談し実施の可否を検討しております。

■ 外来診療担当医師予定表

令和6年6月1日現在

		月	火	水	木	金
初診・再診	10:00-11:00	森／沖村	—	沖村	沖村	—
	14:00-15:00					

府立医大 産婦人科 医局 TEL 075-251-5560

婦人科外来

TEL 075-251-5557 (外来時間帯) 担当：沖村



臨床研究推進センター

■ スタッフ紹介



センター長
ま と ば さ と あ き
的 場 聖 明
(循環器・腎臓
内科学教授)

副センター長・データサイエンス部門長
研究マネジメント部門長
知的財産部門長
URA部門長
研究マネジメント部門員
研究マネジメント部門員
研究マネジメント部門員
研究マネジメント部門員
研究マネジメント部門員
データサイエンス部門員
データサイエンス部門員
データサイエンス部門員
データサイエンス部門員
データサイエンス部門員
データサイエンス部門員
データサイエンス部門員
データサイエンス部門員
事務担当
事務担当
事務担当

生物統計学 教授
医療フロンティア展開学 准教授
臨床研究推進センター特任教授
臨床研究推進センター特任助教
プロジェクトマネジャー、臨床研究推進センター准教授
プロジェクトマネジャー、医療フロンティア展開学講師
プロジェクトマネジャー、臨床研究推進センター技師
プロジェクトマネジャー、治験調整事務局業務
プロジェクトマネジャー、治験調整事務局業務
プロジェクトマネジャー、治験調整事務局業務
データマネジャー
データマネジャー
データマネジャー
データマネジャー
データマネジャー
生物統計家、生物統計学 助教
生物統計家、生物統計学 助教
生物統計家、臨床研究推進センター特任助教
生物統計家
事務長
事務
事務

■ 私たちの業務



臨床研究推進センター（The Clinical and Translational Research Center：CTREC）は、2019年4月に京都府立医科大学 研究開発・質管理向上統合センター（CQARD）を改組し、京都府立医科大学附属病院に開設されました。CTRECは、最新の治療を速やかに患者さんに届けられるように、臨床研究・治験を行う研究者を支援しています。また、この支援は京都府立医科大学の学内だけではなく学外の研究者・研究機関も対象としており、以下の4部門に分かれて事業を進めています。

（1）知的財産部門

近年、臨床研究・医療の現場においても、知的財産に関するマネジメントを行うことにより、質の高い臨床研究を行うことが求められてきています。そこで知的財産部門では次の業務を担当し、質の高い研究の実施を支援します。

- ・臨床研究に繋がる有望な医療ニーズの発掘、医薬品・医療機器に関するシーズ情報の知的財産戦略策定
- ・特許等出願管理・権利化、企業とのマッチング・ライセンスアウトなどの実用化支援
- ・医師主導治験・臨床試験等におけるデータの利活用を含めた契約作成

（2）研究マネジメント部門

本部門では、臨床的課題の解決を目指す臨床研究や薬事承認取得を目的とする治験などの実施にあたり、着想段階、研究計画の立案・実施、研究成果の世界に向けて発信までのすべての研究段階において、豊富な経験を有するスタッフが臨床研究の適正・円滑な実施を支援します。また、他部門とも緊密に連携し多角的な研究支援を行っています。

（3）データサイエンス部門

医師主導治験を含め、臨床試験の実務に精通したデータマネジャー及び生物統計家（試験統計家）が、臨床試験の立案段階から研究者に対して助言・支援します。データマネジャーが担当するデータマネジメント業務は、CTRECデータセンターで実施しています。臨床試験データの品質管理を支援し、臨床試験プロセス及び結果の信頼性担保に努めています。また生物統計家（試験統計家）は大学院医学研究科生物統計学と連携し、研究デザイン策定（評価項目、ランダム化・盲検化、統計的仮説、標本サイズ設定、中間解析計画など）、統計解析手法に関する助言・支援を行っています。

（4）URA部門

研究開発内容について一定の理解を有しつつ、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等をマネジメントする人材（University Research Administrator）の育成及び定着に向けたシステムを整備し、研究者の研究活動活性化のための環境整備及び大学の研究開発マネジメント強化を行います。

府立医大 附属病院 臨床研究推進センター TEL 075-251-5308

FAX 075-251-5729

ホームページ <https://www.kpu-m.ac.jp/ctrec/>

がんゲノム医療センター

■ スタッフ紹介



センター長
たかやま こういち
高山 浩一

(副院長、
呼吸器内科
教授)

副センター長	小西 英一	(病院病理部長)
副センター長	石川 剛	(消化器内科講師)
事務長	山口 健司	(病院管理課長)
医員	土井 俊文	(消化器内科学内講師)
医員	岩破 将博	(呼吸器内科助教)
部員	村島 京子	(医療フロンティア展開学助教、認定遺伝カウンセラー)
部員	松岡 正美	(看護部)
部員	田中 優子	(病院管理課)

■ 私たちの業務

「がんゲノム医療センター」は2019年8月に開設し、国立がん研究センター中央病院と連携して「がんゲノムプロファイル検査」を実施しています。これまでに多くの患者様がこの検査を受け、一部の方は新たな治療法が見つかったり、診断がはっきりするなどの恩恵を受けています。これからのがん治療では、がんが発生した臓器やがん細胞の形だけではなく、がんの遺伝子異常について知ることが重要です。

◆ がんゲノムプロファイル検査とは

現在がんの関連遺伝子としてわかっているものだけで数100個ありますが、これまでは有効な薬剤があるがん関連遺伝子だけを調べていたため、がん細胞の遺伝子異常の全体像は不明でした。しかし、医療技術の革新により、現在では次世代シーケンサーと呼ばれる検査機器を用いて100個以上のがん関連遺伝子を同時に調べることが可能になりました。当センターではOncoGuide™NCCオンコパネルシステム、FoundationOne® CDx、FoundationOne® Liquid CDx、Guardant360® CDx、GenMineTOPのいずれかの検査法により保険診療下でがんゲノムプロファイル検査を実施しています。それにより腫瘍組織を用いた検査だけでなく、血液検体を用いた検査も可能です。一方、網羅的な遺伝子解析の結果、偶然に家族性腫瘍に関する遺伝子異常が見つかることもあります。

◆ がんゲノムプロファイル検査が可能な方

- ① 通院中で全身状態が比較的保たれている固形がんの方（血液腫瘍は適応になりません）
- ② 標準治療がない、もしくは、標準治療が終了しているか、終了見込みの方。
(原発不明がん、希少がんなどを含みます。)
- ③ 外科切除や生検によってがん組織が採取され、薄切標本を提供いただける方。

* 検体処理の方法については別途ご相談可能です。また、がん組織の量が不十分な場合や適切な組織検体がない場合は、血液検体を用いた検査が可能です。

◆ お手続き

がんゲノムプロファイル検査の可否については下記連絡先までお問い合わせください。患者様の状況を確認させていただき、担当医および初回外来診療日をがんゲノム医療センターからご案内いたします。以後は通常の患者紹介手続きに従って、診療情報提供書を作成ください。紹介いただいた先生には本検査に関する各種マニュアル、病態情報登録用ファイルなどを当センターよりお送りします。得られた検査結果を基に当院および国立がん研究センターの専門家が参加するエキスパートパネル会議で最善の治療法が検討されます。会議での検討結果に基づいて、当院担当医より患者様に検査結果の説明を行います。

がんゲノム医療センター (CGMC) TEL 075-251-5336
E-Mail cgmed@koto.kpu-m.ac.jp

京都府立医科大学附属病院案内図

階	D病棟	C病棟	B病棟	A病棟	外来診療棟	E病棟	永守記念最先端 がん治療研究センター
8階	D 8病舎	C 8病舎	B 8病舎	A 8病舎 (A 8エリア (女性センター)、 B 8エリア)	医 局		
7階	D 7病舎	消化器センター C 7病舎	消化器センター Bエリア	消化器センター Aエリア HCU (消)	医 局		
6階	D 6病舎	C 6病舎	脳神経センター Bエリア	脳神経センター Aエリア SCU リハビリ室	医 局	緩和ケア病棟	
5階	C 5病舎		リハビリテーション部 ICU	中央手術室	小児医療センター病棟	緩和ケア病棟	
4階	循環器センター Dエリア CCU	循環器センター Cエリア	PICU 輸血・細胞医療部 臓器移植医療部	中央手術部(材料室) 病院病理部	眼 科 皮 膚 科 歯 科 小児医療センター外来 (小児科、小児外科、小児心臓血管外科) レストラン	超音波検査室 医 局	がんゲノム 医療センター
3階	D 3病舎	情報・ 研究支援課	女性センター外来 (婦人科) B 3病舎 MFICU	周産期診療部 (産科・NICU) 局所麻酔手術 センター 患者図書室 「ほほえみ」	耳鼻咽喉科 循環器センター (循環器内科、心臓血管外科) 腎・尿路センター (腎臓内科、泌尿器科) アレルギーセンター 感染症科 メンタルケアセンター (精神科・心療内科)	透析室 MEセンター	
2階		EICU RI病舎	生理機能検査室 (心電図・脳波・ 筋電図室ほか) 看護部 薬剤部 病院管理課	臨床検査部 (採血・採尿室)	内科・総合診療科 (内分泌・糖尿病・代謝内科、血液内科、膠 原病リウマチ・アレルギー科、漢方外来) 外 科 (内分泌・乳腺外科、移植・一般 外科、形成外科) 術前外来(麻酔科) 疼痛・緩和ケア科 消化器センター (消化器内科、消化器外科) 呼吸器センター (呼吸器内科、呼吸器外科) 医療安全推進部 感染対策部	内視鏡検査室	
1階	防災センター	RI検査室	外来薬局 薬剤部 薬局(時間外) 退院支援 (患者サポート センター)	放射線部 救命救急センター (救急室)	脳神経センター(脳神経内科、脳神経外科) 整形外科(小児整形外科センター) リハビリテーション科 リウマチセンター 総合案内 新患受付／会計窓口／ 院外処方箋FAXコーナー 地域医療連携室(患者サポートセンター) がん相談支援センター 循環器病総合支援センター・脳卒中相談窓口 移行期医療支援センター 医療サービス課 医療相談 入退院センター(患者サポートセンター) カフェ	郵便局 コンビニ	受付、事務室 陽子線治療室 高精度放射線 治療室
地下			売店	放射線科外来 CT・MR検査室	診療情報管理室 理髪店		

駐車場のご案内

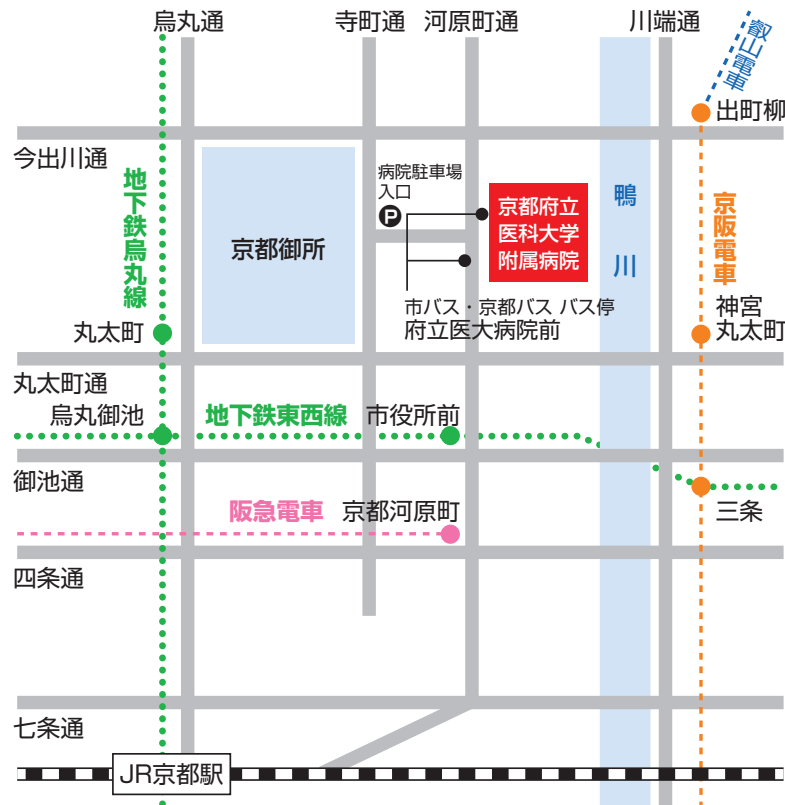
病院の西側（医大広小路キャンパス裏）に駐車場があります。台数に限りがありますので、できる限り公共交通機関での来院をお願いします。

来院目的	料金など
外来受診	無料（無料化手続きは6番窓口へ）
受診以外での来院	1時間30分まで400円、以後30分毎に200円

* 平日に限り、外来受診の方は、梶井町パーキング・府立文化芸術会館駐車場・京都市出町駐車場（提携駐車場）を所定の手続きにより無料で利用することができます。

* 各駐車場の詳細については、当院ホームページから「交通アクセス」をご覧ください。

病院までの交通機関



主な交通機関案内

- JR「京都駅（正面）」から市バス 4、7、205系統 → 「府立医大病院前」にて下車
 - 阪急電車「京都河原町駅」から市バス 3、4、7、205系統 → 「府立医大病院前」にて下車
 - 京阪電車「三条駅」から市バス 37、59系統 → 「府立医大病院前」にて下車
または京都バス21、23、41、43系統 → 「府立医大病院前」にて下車
 - 京阪電車「神宮丸太町駅」下車 徒歩10分
 - 京阪電車「出町柳駅」下車 徒歩15分
- ※ 平日は駐車場が大変混雑し、常時満車が予想されますので、なるべく公共交通機関でのご来院をお願いします。



京都府立医科大学附属病院

UNIVERSITY HOSPITAL KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上の梶井町465

TEL (075) 251-5111 (代表)

<https://www.h.kpu-m.ac.jp/>

編集・発行 患者サポートセンター